

北星ピア・サポーター
2018 年度年間活動報告集

目次

目次	1p
学習サポートセンター長 中村 和彦	2p
北星ピア・サポーター リーダー 高橋 慶次	3p
2018 年度北星ピア・サポーター人数内訳	4p
2018 年度決算報告	5p
2018 年度年間活動報告書	
三役	6p
係	
総務人事係	25p
企画係	37p
広報係	48p
学科	
文学部	
英文学科	59p
心理・応用コミュニケーション学科	64p
経済学部	
経済学科	72p
経営情報学科	77p
経済法学科	83p
社会福祉学部	
福祉計画学科	88p
福祉臨床学科	91p
福祉心理学科（未完成のため後日追加予定）	
短期大学部	
英文学科	95p
生活創造学科	99p
オリエンテーション期間	
北星ピア・サポーターによる説明会	104p
北星ピア・サポーターによる履修相談会	120p
北星ピア・サポーターによる歓迎会	128p
ピアサポ研修プログラム	131p

※学科でオリエンテーション期間以外に活動を行っていない学科の活動名のところは「なし」となっています。

2018 年度活動報告書の公表によせて

学習サポートセンター長
中 村 和 彦

北星ピア・サポーターによる 2018 年度の活動報告書をお届けします。これまでも活動の報告やまとめは、着実に実施し次なる活動に繋げてきていたようですが、今回初めて、報告書の形で公表できることとなりました。ピアサポ達の苦闘と成長をめぐる冷静な視点からの記録です。

新入生オリエンテーション期間におこなわれる説明会、相談会をはじめ、学科独自の活動、星学祭への参加、外部との協働である北海道ピア・サポートコンソーシアムへの参画、日常的な学習サポートデスクでの業務、それらを支える毎週の定例会等々、彼らの活動は実に多岐にわたっています。

ピアサポの多岐にわたる活動を傍らから眺めていますと、「ジェネリック」(ジェネラル)と「スペシフィック」(スペシャル)という言葉が頭に浮かびます。これは私の専門であるソーシャルワークでも良く使われる言葉ですが、包括・抽象・基本と、個別・具体・応用との関係を示します。ピアサポの活動はいつも両方にまたがり、いつも双方の間を往復しなければなりません。それだけに苦労や戸惑いも多いことと思います。それ故に、周到的計画や準備、日常的な共有が不可欠であり、この報告書が示しているように、次の活動につながる振返りが重要となることでしょう。

ぜひ、ピアサポ 2018 年度の活動の軌跡をご確認いただき、これまで以上に、関心を寄せていただき、ご指導いただければ幸いです。引き続き、よろしくお願い致します。

「北星ピア・サポーター 2018 年度活動報告集」の発刊にあたって

北星ピア・サポーター 2018 年度リーダー
高 橋 慶 次

北星ピア・サポーターは、学生同士の学び合いや学びのサポートを目的に 2014 年度に発足した大学公認の組織です。活動が始まってから約 5 年が経ちました。履修登録期間では、時間割の組み方などを友達伝えに相談をしに来る人もおり、多くの学生に私たちの存在が認知されてきていると実感しています。

北星ピア・サポーターでは、6 月を年度初めとして、翌年 5 月を年度終わりとして活動しています。この度、次の新体制に向けて各自所属している学科・係で今年度の活動の振り返りを実施し、活動報告書を作成しました。活動報告書をまとめ、今年度の集大成として「北星ピア・サポーター2018 年度活動報告集」という形で発刊できることをうれしく思います。

北星ピア・サポーターの一大イベントとして 4 月のオリエンテーション期間に実施している「北星ピア・サポーターによる説明会」では新入生が円滑に大学生活に慣れることができるよう自分たちが所属している学科について、履修登録の方法などを説明しました。また、同期間に実施している「北星ピア・サポーターによる履修相談会」では、時間割の組み方がわからないという学生や、「北星ピア・サポーターによる説明会」に出席できなかったなどの理由で履修登録についてわからないことがある学生の相談にのりました。今年度は、新 1 年次が自分たちとは異なる新しいカリキュラムということもあり、11 月から例年以上に先生方と打合せながら、新カリキュラムを勉強し準備をしました。この活動以外にも、ゼミ選択のサポートをする説明会・相談会、定期試験やレポート作成に向けた勉強会、学生のニーズを聞くための POST の設置など学科・係単位で学生をサポートするための活動を数多く行ってきました。

また、それらの活動をより良いものとするために、北星ピア・サポーターの知識やピア・サポートに必要なスキルを学ぶための研修を行ったり、北海道内外のピア・サポーターと交流や情報交換を行ったりなど自身の研鑽に努めてまいりました。

北星ピア・サポーターのこれまでのすべての活動を掲載しているわけではありませんが、本誌をご覧になった皆様に北星ピア・サポーターの 2018 年度の活動を知っていただければ幸いです。

人数内訳

2018 年度各学科メンバー数

	英文	心コミ	経済	経情	経法	計画	臨床	福心	短英	生活	合計
1 年目	2	3	3	4	4	3	3	2	3	3	30
2 年目	4	0	3	3	4	4	2	2	4	2	34
アドバイザー	4	0	3	2	1	5	2	3	4	1	20
小計	10	3	9	9	9	12	7	7	11	6	84
インターン	2	1	1	2	-	1	2	-	-	-	5
合計	12	4	10	11	9	13	9	7	11	6	89

※ピアサポの任期は基本的に 2018 年 6 月から 2019 年 5 月までである。なお、留学・休学・退学・自主的なピアサポ辞退など、やむを得ない事情がある場合、任期はこの限りではない。

※アドバイザーおよび短英、生活の 2 年目ピア・サポーターの任期は 2018 年 6 月から 2019 年 3 月まで（卒業のため）。

※インターンの任期は 2018 年 10 月・11 月（各インターンの申込日）から 2019 年 1 月まで。なお、インターン終了後、北星ピア・サポーターに応募するかどうかは本人の意思に委ねるものとする。

2018 年度 三役・各係成員

三役

リーダー	高橋 慶次	（経済学部経営情報学科 2 年目）
副リーダー	空橋 美雨	（文学部英文学科 2 年目）
	高野 涼	（社会福祉学部福祉心理学科 2 年目）
（12 月より）	佐々木 祐香	（文学部心理・応用コミュニケーション学科 1 年目）
（12 月より）	濱田 彩花	（短期大学部英文学科 1 年目）

係

総務・人事係	8 名	（1 年目 3 名、2 年目 4 名、アドバイザー 1 名）
企画係	8 名	（1 年目 5 名、2 年目 3 名）
広報係	9 名	（1 年目 4 名、2 年目 5 名）

決算報告

2018/06/01~2019/05/31				
【収入の部】			【支出の部】	
費目	金額		費目	支払金額
昨年度繰越金	80,862		星学祭 縁日準備支出	19,089
星学祭 縁日収入金	13,390		星学祭 模擬店準備支出	59,988
星学祭 模擬店収入金	92,790		打上代 補助	10,000
星学祭援助金	30,000		色紙代	7,564
会費	20,500		手数料	324
収入の部合計	237,542		クリスマス会支出	35,321
			次年度繰越金	105,256
			支出の部合計	237,542

三役

三役		歴	氏名	学籍番号
		2 年目	空橋 美雨	1601114
			◎高橋 慶次	1604098
			高野 涼	1607066
		1 年目	佐々木 祐香	1708066
			濱田 彩花	1871014
係定義	全体を統括し、活動の基盤を支える役割を担う。			
活動内容	定例会（未完成のため後日追加予定）			
	6 月合宿研修			
	ピアサポ写真集（未実施）			
	新企画発表会（未実施）（未完成のため後日追加予定）			
	ラーニング・コモンズの学習環境に関する要望書作成・提出			
	2018 年度キックオフ会（未完成のため後日追加予定）			
	中間リハーサル			
	最終リハーサル			
	北海道ピア・サポートコンソーシアム運営委員会設置			
	活動報告書作成			
	カウンターシフト			
	係募集			
年度反省	<ul style="list-style-type: none">● 互いの仕事の配分を考え、協力し合えた● 北星ピア・サポーター（以下ピアサポ）活動がより良くなるように妥協せずに会議を行うことができた● ピアサポ全体に送らなければいけない情報のメールがぎりぎりになることが多かった● 結論を出すのを先延ばしにしたことが多く、全体への共有が遅れメンバーに迷惑をかけた● 各部門との連携がうまくできなかった● しなければいけないこととしたいことのバランスがうまくいかず、時間をかけたいと思うことが多くあった● 三役だけでなくメンバーの声を柔軟に聞いて対応できるような活動をもう少しすべきだと感じた● 会議やイベントなどで遅刻してしまうことがあった● 仕事を分担していた● 話し合う時間が足りず、夜に電話で話し合いを行ったが、次の日の講義などに影響が出る場合があった● ラインを使って話し合いをしても決めなければならないことが多く、普段の会議のような議論は難しかった● 先輩たちのサポートがあってこそだがいろんな業務に携わることができた● お手本となれるようなメールをピアサポ全体に送ることができていた● 係のリーダー+三役の会議を行うべきだった			

	<ul style="list-style-type: none"> ● 三役が担う仕事が多過ぎた ● ピアサポのメンバー全員の性格や意識を把握できていない ● 各イベントに出席率を上げるためにもう少し強制力を念押しした方がよかったのかもしれない(定例会、リハなどの各行事) ● 活発に意見を交わしながら会議をすることができたが、話している途中で新しい議題を思い出して話がまとまらないまま次の議題に進むことがあった ● 会議の時間では話し終えることができず、LINE 上で話し合いを行うこともあったが、複数の議題になった際、話が流れていくことがあった ● 連絡はこまめに取り合うことができた ● 互いに忙しいときなど、カバーしあうことができた ● 企画を行う際、スケジュールリングを行うのが遅く、設けるべき余裕が余裕のない余裕になってしまうことが多かった ● 役割分担を各自のピアサポ以外の活動を考慮してすることができなかったからか、余裕を守ることができない時があった ● 企画本番の数日前にバタバタと準備をしてしまうことで、忙しそうということが目に見えてしまった ● 行いたいことを行うことができなかった
次年度展望	<ul style="list-style-type: none"> ● 理想的なスケジュールリングだけではなく、各自のアルバイトや他団体での活動状況などを鑑みて、各々が設けた余裕を確実に守ることが出来る現実的なスケジュールリングをすることで、企画をするうえで、余裕をもつことができると考えられる ● 数か月先のスケジュールリングだけではなく、大変だとは思いますが、1 年間通してのスケジュールリングをすることで、ゆとりを持って企画を行ったり、反省をしたりすることができると考えられる ● 組織は常に変化するので、係など組織の全体像を見て、修正などが必要な時は修正などをする ● 係のリーダーと会議を定期的に行い、定例会で行う業務報告以上に具体的な内容の情報共有を行う ● 組織全体がどう動いているか把握するためまずは係のリーダーと定期的な会議を開きたい ● より円滑に三役会議を進めるために各自がその会議でどんなことを話すのか把握しておく必要がある。アジェンダのようなものまではいかなくても、議題をラインなどで共有しておく ● 三役会議の前に事前に話すことを考えておき、時間内に終わらず話が流れないようにある程度の時間配分を考える ● 企画やイベントが終わった後の反省が少し甘い気がしたので、しっかりと改善点やどうすればよかったのかをその時々で考えるべき。報告書までは出さなくても次年度の活動に活かすなど、活動報告書の負担が減ると考える ● 活動報告書を年度末にまとめて書くのではなく、企画が終わった時に書くなどすると、この時期に余裕を持つことができ各学科や係で全体的な反省をおこないやすくなると考えられる

	<ul style="list-style-type: none"> ● 時間を大切にする ● 振り返りや止むを得ず欠席した人のために今後も議事録は取っていくべき ● 週一回は定例で三役会議を行っているが必要に応じて回数を増やして、ライン上や電話での話し合いはなるべく避けるべき ● 今年度は企画を行った学科とそうでない学科があったので、三役としてそれを促すことで学科の団結力の向上や、各メンバーのモチベーションの維持が図れる ● ピアサポメンバーと積極的に交流する ● スケジュールリング 三役内で全員の時間割を把握できるように工夫し、スケジュールリングの時は私用の確認だけで済むようにする ● 無理のない範囲で昼休み等に工夫する ● 議事録 会話内容も大事だが決定事項や活動をその日に残す <ul style="list-style-type: none"> ➤ 例) ○○日メール送信決定 ○○日資料を印刷した。等 ● 口頭で報告を済ませないほうが良いと感じた。理由は何をいつやったのか、何を済ませたのかが把握しづらい。次年度の参考になる。コメントがあると尚良いかも（これじゃ遅かった!）とか ● 企画ごとにその企画の責任者を決めて、責任者が全体の動きを統括できるようにする。全員で取り組むと指針になる人がいないため誰かがやるか否かの判断がつきづらい <ul style="list-style-type: none"> ➤ 例) 合宿統括：2 年目リーダー○○ キックオフ会：1 年目副リーダー○○のように ● 次年度も仲良く楽しく活動したい!!!!!!
--	--

2018 年度（前半）

月	06 月	07 月	08 月	09 月	10 月	11 月
活動記録	定例会					→
	係募集					→
	写真集（未実施）				→	
	要望書作成・提出				→	
	6 月合宿研修		コンソーシアム			→
	カウンター		運営委員会設置			
	シフト作成			キックオフ会 準備	新企画発表会 カウンター シフト作成	キックオフ会 本番

2018 年度（後半）

月	12 月	01 月	02 月	03 月	04 月	05 月
活動記録	定例会					→
	係募集					→
	コンソーシアム					→
	運営委員会設置					
		中間リハーサル				
			最終リハーサル			
				活動報告書作成 カウンター シフト作成		→

活動名		定例会		
開催日時	毎週木曜（2018/6/7～2019/5/30）	昼休み (12:10～12:50)	開催場所	C500, A703
対象者	北星ピア・サポーター		参加人数	変動あり
目的	情報の共有、全体での決議			
概要	毎週木曜の昼休み(12:10～12:50)に教室で開催。 レジュメを配布し、項目に沿って行った。なお、レジュメは事前の三役会議にて作成、学内メールを用いて事前に北星ピア・サポーター全員に共有し、欠席者も内容の把握漏れのないようにした。各回、議題についての討議、各係、各学科の活動内容の共有、職員からの、の順で進行した。			
準備日程	毎週金曜～水曜 (2018/6/1～2019/5/29)	次回の定例会の議題と各係からの連絡事項の確認などをしてからアジェンダを作成、送付を行った。		
反省点	・アジェンダをいつ全員に送付するかを決めるのが遅れ、事前共有の曜日が統一されなかった。 ・定例会に欠席するメンバーへのアプローチが不十分であった。 ・事前に各係からの連絡事項を聞き、全体の所要時間を調整したが、議題を終える時点で13時前になる回が多く、時間配分を含めた事前の内容確認が不十分であったと考えられる。 ・情報の共有や全体での決議の場だけでなく学科内外問わずの交流の場として活用したかったが、実施できなかった。			

活動名		6 月合宿研修		
開催日時	2018 年 06 月 9 日（土）	13:00-	開催場所	学生交流会館 Kirari
	2018 年 06 月 10 日（日）	-12:00		
対象者	ピアサポ		参加人数	46 名
目的	研修合宿を通じてピアサポの歴史や構成を学び、活動への理解を深めるため。またピアサポ同士の交流を深め、該当年度の活動をより良くするため。			
概要	<p>今年度は自己成長プログラムをねらいとし、ピアサポの活動を通じて自分がどのように成長できるかをワークシートを用いて描いてもらった。</p> <p>記入したワークシートは当日三役回収のち、今後の各自の成長つなげることができるよう、個人に返却した。</p> <p>ピアサポ内での交流を図るため夕食準備を 1 年目他学科・アドバイザーでグループを組ませ、取り組んだ。2 年目は夕食準備中に前年度反省と当年度の 2 年目のねらいや目標を定めた。</p> <p>学科別企画発表会では簡易的な企画書を配布し、自学科に必要なだと感じる企画を考案・発表した。各企画の補填すべきアイディアや良いと感じる要素をそれぞれ意見交換した。</p> <p>1 日目：ピアサポの歴史・自己成長プログラム</p> <p>2 日目：学科別企画発表会</p>			
準備日程	2019 年 04 月	構想		
	2019 年 05 月 06 日（日）	電話会議		
	2019 年 05 月 11 日（金）	電話会議		
	2019 年 05 月 12 日（土）	電話会議		
	2019 年 05 月 14 日（火）	三役会議		
	2019 年 05 月 17 日（木）	合宿日程調整〆切		
	2019 年 05 月 24 日（木）	三役会議		
	2019 年 05 月 30 日（水）	電話会議		
	2019 年 06 月 03 日（日）	電話会議		
	2019 年 06 月 05 日（火）	電話会議		
反省点	2019 年 06 月 06 日（水）	合宿必要資料完成 （お知らせ/当日部屋割 ワークシート）		
	<p>構想段階で自分たちが考えていた理想を具現化することができなかった。</p> <p>具体的には自己成長プログラムをどのようにピアサポにプログラムとして提供するかである。書き込んでもらうワークシートをどのように構成するか、どのようなワークが効果的なのかといった当日にピアサポに行ってもらったプログラムを構想するのに時間を要してしまった。結果学習サポートデスクのスタッフの力を借りて当日のプログラムを完成させることとなった。</p>			

	<p>三役同士で直接顔を合わせて合う機会が少なく、意思疎通がうまく行えず問題が多かった。定例の三役会議を必ず設けるべきだった。</p> <p>各プログラムについては積極的な意見交換が見られたので今後も参加者側の声が多く拾える場面を作るとよい。</p> <p>アンケート集計から今後の改善点は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎合宿の日程連絡を早くする。 <ul style="list-style-type: none"> ➤連絡が遅かったため当日の参加者が多かった。 ◎メンバー全員の名前・学科が把握できるような配慮（ネーム配布等） <ul style="list-style-type: none"> ➤年度が始まってすぐの企画であったため、互いの顔や名前を一致させることができなかった。 ◎学科別のプログラムもつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ➤最初は今後の活動を共にする学科同士の関係をつくるのが大切だという意見があった。
--	---

活動名		ピアサポ写真集(未実施)	
開催日時	未実施	開催場所	なし
対象者	北星学園大学の学生	参加人数	なし
目的	より学生の悩みにそぐうサポートを行うことができるピアサポを学生に紹介すること。		
概要	<p>2018 年 05 月 17 日にピアサポ POST に以下の投書があった。</p> <p>投書内容：「ピアサポメンバーの写真集をつくってください！ どんな人がいるかわからないと相談しづらい人がいるかもしれないので」 回答内容：「ピアサポのプライバシーも考慮する必要があるのですぐの対応は難しいです。 しかし前向きに検討しております。何かしら進展があればご報告いたしますのでお待ちください。」</p> <p>この投書を受けて三役はピアサポ写真集への企画を行った。内容としてはピアサポ全員の 名前・顔写真・学科・相談可能内容（例：履修講義・教職課程履修・留学等）を記載した ものをラーニング・コモンズの貸出備品と同類に扱うといったものである。投書を元に学 生の相談したい内容に適したピアサポが支援しやすくなることでピアサポの認知・活動の 活発化を狙った。</p>		
準備日程	2018 年 09 月 25 日（火）	電話会議にて、下記の内容に決定 ・作成手順 ①タイトル②カテゴライズ③カテゴリーごとに回答してもら う④打ち込む ・回答内容 「経験したこと・責任を持って答えられる内容」 ・カテゴリー 「学習関係」（講義）（集中講義）（海外事情）「大学生活」（奨 学金）（OU）（一人暮らし）（SMCについて）「その他のPR ポイント」（検定何級）（就活） ・聞きに来た学生に「一個人の意見だよ」にチェックをつけて もらう ・タイトル 定例会で多数決（18 ヲ）	
	2018 年 10 月 17 日（水）	三役会議にて実施の必要性を精査	
	2019 年 10 月 18 日（木）	三役会議にて未実施を決定	
反省点	結果として未実施であった。理由として、ピアサポのプライバシーの考慮（顔写真掲載 の必要性）・相談可能内容の精査があげられる。相談可能内容をどのような基準で選ぶか否 かに意見が分かれた。学生ならではの視点を重視するべきであるという意見と大学の公認 組織であり学習相談にのみ応じるべきであるという意見が拮抗した。会議が難航したため、		

	<p>結論を出すのが遅れた。その結果他の業務との同時進行が厳しく、未実施となった。</p> <p>今後もピアサポがどのような立場で学生の相談に応じるかの基準について話し合いの場が必要であることが想定される。明確な基準を設けることも難しいと思われるが重要な課題だ。</p>
--	---

活動名	新企画発表会（未実施）			
開催日時	なし	なし	開催場所	なし
対象者	北星ピア・サポーター		参加人数	なし
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の作成能力の向上 ・プレゼン力の向上 ・企画立案力の向上 ・傾聴力の向上 			
概要	<p>以下の２種類のうち、いずれかを実施する予定であった。</p> <p>① 各学科で１つずつ、企画書を作成し企画について短い紹介プレゼンテーションを行う。企画は実際に実施できる程度のものを想定。各学科で集まる日を設定させ、定期的集まる習慣をつけさせる案もあった。</p> <p>② 三役から提示された状況の問題を考え、打開するために必要な企画を学科内で考案、企画書を作成し提出。添削を行い企画書が提出できる程度まで仕上げる。</p> <p>2018 年 10 月 11 日の時点で企画書はある程度完成していた。</p> <p>内容は下記の通りある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備段階 <p>ピアサポ１年目：10 月 18 日（木）に三役が送る、昨年度の新企画発表会の際、各学科が作成したすべての企画書を受け取り、内容を確認する。</p> <p>それを参考に各学科は企画書を１枚作成する。企画内容は各学科の特色を表したものの、かつ実現性の高いものが望ましい。企画書は公式の文書として提出することができるものを仕上げる。作成した企画書のデータを〆切までに A へ提出する。〆切は 12 月 3 日（月）23：59 までとする。</p> <p>企画書の提出は「新企画発表会 ○○学科 企画書」 もし修正が生じた場合や差し替えが必要な場合はその旨を A まで連絡する。</p> <p>ピアサポ２年目以上：１年目からの企画書に関する相談を受ける。相談を受ける際は、企画書の形式や内容に意見を伝えすぎず、１年目の意見が出来るだけ反映されるようにサポートに徹すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日 <p>各学科の１年目が、企画書に基づいて持ち時間（５分程度を予定）内でプレゼンを行う。発表した１年目以外は発表を聞いたうえで意見や質問を口頭でやり取りする。また、その中で伝えきれなかった分はリアクションペーパーに記入する。なお、質疑応答の際は「企画書の形式について」と「企画の内容について」で時間を区別して設ける。</p> <p>しかし、2018 年 11 月 18 日の三役会議で実施したとして、三役がキックオフ会の準備と</p>			

	並行して運営を行うことができるか、1・2年目がキックオフ会前後に企画書を作成して発表練習をして、学科説明会の準備が間に合うかを検討し、中止することとした。	
準備日程	7月～10月 (週1,2回会議)	企画内容の検討、企画書の作成
反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・本来夏季休業中に実施する予定であったが目的が定まらず実施が延びた結果としての中 止である。 ・目的を絞り手段を考えていけば実現していたことも考えられる。 ・本来、一昨年度企画に実施数を増やすために考案された企画であった。 ・実際に本企画が実施されなかった今年度は全体的に企画数が少なかったため、次年度か らは本企画の実施を優先したい。 	

活動名		ラーニング・コモンズの 学習環境に関する要望書作成・提出		
開催日時	なし	なし	開催場所	なし
対象者	なし		参加人数	なし
目的	ラーニング・コモンズを利用する学生により良い環境で学習して頂くこと			
概要	<p>2018年05月30日にピアサポ POST というピアサポに対して、学生が質問や意見、相談を間接的にできるように企画係が中心となり、ラーニング・コモンズに設置した意見箱に「ラーコモの偉い人」宛に下記の内容の投函があった。</p> <p>「学習サポートデスクの方々が気を遣って窓を開けてくれるのは非常にうれしいのですが、夜になると、屋内の照明の影響で小さな虫が入ってきます。集中力を下げられるので困っています。窓に網戸を付けることを要望します。」</p> <p>この投書への対応を、ピアサポの定例会にて協議し、ラーニング・コモンズを管理する学習サポートセンターの最高責任者であるセンター長に学習環境改善について要望することを決定した。</p> <p>センター長への要望までの流れは下記の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①三役が中心となり、センター長への提出書類を作成 ②定例会にて提出することを提案し、可決 ③センター長と打ちあわせし、提出書類の内容を修正 ④センター長に提出書類を提出 <p>提出書類の内容は下記の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「ラーニング・コモンズの学習環境に対する要望書の提出について（お願い）」 内容：センター長への要望書の提出することにあたっての願書 ②「ラーニング・コモンズの学習環境に関する要望書」 内容：要望書を提出することに至った経緯、ラーニング・コモンズの室温調節が難しいという課題、ラーニング・コモンズの学習環境の改善に向けた提案※¹ ③「ピアサポ POST に投函された用紙」 内容：学生から窓に網戸をつけることの提案、それに対してのピアサポの回答※² <p>※1 提案内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ラーニング・コモンズ内の一部の窓への網戸設置 2. 空調設備の独立管理化 3. 利用者の体温調節が可能となる備品購入費の増額（備品例：うちわ・扇風機） <p>※2 回答内容</p> <p>「貴重なご意見ありがとうございます。環境に対する取り組みも積極的に取り入れていきたいと考えております。私たちができることは網戸の設置もしくは冷房の調整をしかるべき機関に正式に提案することです。可能な限り努力したいと思います。進展次第ご報告いたします。」</p> <p>提出後の流れは下記を予想している。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①センター長から大学へ「ピアサポから要望書が届いたので、何らかの対処をお願いします 			

	<p>す」という旨の書類をピアサポからの提出書類につけて提出</p> <p>②大学がなんらかの対処を回答</p> <p>現在はピアサポからセンター長へ書類を提出、センター長から大学へ書類を提出して頂き、大学からの回答を待っている状況である。</p>	
準 備 日 程	2018 年 05 月 31 日 (木)	ピアサポが投書を確認
	2018 年 06 月 12 日 (火)	三役が投書柄の回答を掲示
	2018 年 06 月 21 日 (木)	定例会にてピアサポ全体へ要望書の提出を提案
	2018 年 06 月 28 日 (木)	定例会にてピアサポ全体で提出の決議を取り可決
	2018 年 06 月 30 日 (土)	センター長へ提出のためのご都合伺いのメールを送信 打ち合わせを同年 07 月 03 日に行うことに決定
	2018 年 07 月 03 日 (火)	センター長と打ち合わせ 提出書類に指摘を受け、修正し後日打ち合わせをすることになる
	2018 年 10 月 09 日 (火)	センター長へ提出のためのご都合伺いのメールを送信 打ち合わせを同年 10 月 31 日に行うことに決定
	2018 年 10 月 31 日 (水)	センター長と打ち合わせ 書類を提出
反 省 点	1 度目の打ち合わせに指摘を受けたことについての修正に時間がかかりすぎ、書類を提出するのが遅くなってしまった。	

活動名		2018 年度キックオフ会		
開催日時	2018 年 11 月 10 日（土）	12:00～ 18:20	開催場所	B500
対象者	北星ピア・サポーター		参加人数	48 人
目的	<p>・キックオフ会を通して北星ピア・サポーター（以下ピアサポ）同士の親睦を深めるとともに学科内のつながりを深め、「北星ピア・サポーターによる説明会」（以下学科説明会）の準備を進めるうえで「2 年目が 1 年目を気に掛ける関係」・「1 年目が 2 年目に相談できる関係」を作る。</p> <p>・学科説明会までの流れを体験してもらった上で、どのような取り組みや心構えが必要か認識する。それを踏まえて、次年度オリエンテーションまでの準備を効率的に行うためのスケジューリングをする。</p> <p>・学科説明会を行うにあたって全員のスキルを向上する。</p> <p>（共有力・調整力・タイムマネジメント力・リスクマネジメント力・PC スキル・サポート力）</p>			
概要	<p>①ピアサポ向上委員会による研修（2 部）</p> <p>学科説明会までの準備及び学科を説明するプレゼンテーション（以下プレゼン）の一部を体験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1 年目は学科説明会までの準備作業を体験することで、スライド作成の大変さを学ぶことができる。また、実際にプレゼン発表を行うことで、学科説明会の際の留意点などを見つけることができる。 ■ 2 年目は 1 年目が作成したスライドとプレゼン発表をよりよくするためのプレトレレーニング（以下プレトレ）を行う。 <p>プレトレを行う上での注意事項や指導力の向上のための研修を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 3 年目はこれまでの 2 度の学科説明会で培った経験をもとに 2 年目に対しての資料作成を行う。 <p>②研修の反省</p> <p>ピアサポ向上委員会による研修（2 部）で行ったことを基に学科で反省をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 個人の反省や気づきを全体で共有することで学科説明会の準備を進める際の失敗や躓きを予防・回避する。 <p>③学科説明会に向けての「はじめの一步」</p> <p>学科説明会までのスケジュールを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 学科説明会準備の達成度ごとに日付を設定することで、どのように時間を使うべきか、どのくらいの頻度で集まって活動するべきかを確認することができ、計画的に作業を進めることが出来るようになる。 ■ タスクの明確化と分担を徹底することで、作業の過不足をなくし、スムーズに準備に取り組むことができる。 			
準備日程	7 月～11 月	目的、内容の検討。企画書作成。ピアサポ向上委員会との打ち		

	(週 1, 2 回会議、本番の前 は連日会議)	合わせ。
反 省 点	<p>目的、内容の検討など準備を始めるのは早かったが、並行して他の事も進めようとしたためかあまりスムーズには進まず、結局企画書の完成もギリギリになってしまった。</p> <p>また、学生交流会館 kirari に宿泊をすることを考えていたが、利用することができないと分かったのが遅かった。こまめに大学内のイベントの日程を確認しておいたほうが良い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日は比較的スムーズに進行することができた。 	

活動名		中間リハーサル		
開催日時	2019 年 02 月 19 日（火）	9:00～ 18:00	開催場所	C502
	2019 年 02 月 20 日（水）	9:00～ 16:20		
対象者	ピアサポ		参加人数	約 40 人
目的	本番の 2 か月前の時点で、どれだけ進めることができているのかを全体で確認する。また、互いで確認しあうことで自分たちでは気づくことができなかった点を認識し、最終リハーサルや本番につなげる。			
概要	各学科、持ち時間を 1 時間 30 分とし、1 時間以上を目安にリハーサルを行う。終了後、フロア側からの質疑応答を行う。学科と学科の間は 10 分の休憩をとった。			
準備日程	2018 年 11 月 29 日（木）	中間リハーサル・最終リハーサル日程調整メール送信		
	2018 年 12 月 12 日（水）	中間リハーサル日程調整メール（改訂版）送信		
反省点	<p>日程調整を早めに行うことができたが、記入漏れや日程の修正など事前の確認不足があったため、何度も回答 URL を送信してしまうことになった。このように何度も送信すると、どの URL に回答すればいいのか、回答が必要な最新のものに回答し忘れるなど、混乱を招いてしまう恐れがあるため、事前の確認をしっかりと行い、何度も変更がないようにしなければいけない。</p> <p>備品に関して、学習サポートデスクから借りる備品は何をいくつ借りたか、確認する人だけが把握するのではなく三役全員が把握しておくことが大切である。また、ビデオのバッテリーや容量を確認しておらず、リハーサルの途中でビデオが切れてしまうということがあった。そのため、事前にしっかりと確認しておくことが必要である。</p> <p>リハーサル当日は二日間とも朝から始めるため、最後の方は疲れが見られ集中力が続いているように思われた。次年度ではリハーサルを 3 日間にしたり、時間を調整したりするなど集中力を持たせる工夫をしていきたい。質疑応答の時間は活発に行われたと思われる。しかし、発言する人がほぼ同じなどの課題も挙げられる。リアクションペーパーが必要かどうかについては、書いてもらうことでよい点や改善点が文字として残り中間リハーサル以降の改善で参考にしやすいため、来年度以降も続けていきたいと考える。しかし、リアクションペーパーがあることで、その場で伝えるべきこととの境目が曖昧になるということも課題としてあると思われる。その境をどこで区切るのか明確にすることで、よりよい中間リハーサルを行うことができるだろう。</p> <p>最終的に終わる時間が延びてしまったため、どのように時間を調整するかを考えていきたい。また、時間が長く疲労もあるため中間リハーサルが終わった後に事務連絡をする場合は、なるべく少なくするべきだと思われる。</p>			

活動名		最終リハーサル		
開催日時	2019年03月18日（月）	終日	開催場所	A501
	2019年03月19日（火）	終日		C502
対象者	ピアサポ		参加人数	50人弱
目的	2月に行われた中間リハーサルでの指摘を受けて各学科が改善したプレゼンテーションや用語の使い方、スライド、配布資料などをピアサポ全体で最終確認をする。 他学科のリハーサルを見ることで、客観的な視点を取り入れ自学科の説明会をより良いものにする。			
概要	ピアサポによる説明会に向けた最終リハーサル。 各学科持ち時間を1時間30分とし、1時間以上を目安にリハーサルを行う。終了後、フロアからの質疑応答を行う。学科と学科の間は10分間の休憩をとった。 また、フロアの人には当日配られたリアクションペーパーに各学科の良かった点と改善点を書いてもらった。			
準備日程	なし	なし		
反省点	最終リハーサルも中間リハーサルと同様2日に分けて行ったが、教育支援課との打ち合わせとの兼ね合いでどうしてもタイトなスケジュールになってしまい、メンバーの集中力が持続しなかった。今後はメンバーの集中力が切れないようなスケジュールを検討したい。 各学科の発表をビデオにとっていたが一部ちゃんと撮れていない学科があった。 お菓子やジュースを準備するのが少し遅かった。 人によって取り組む姿勢に差があった。三役の当日の役割分担を決めていなかった。 学科の発表が終わった後の質疑応答の時間に刺激的なコメントがあまり見られなかった。 1年目のためのイベントにもかかわらず、1年目の出席率が悪かったり、そもそも発言が少なかったりとあまり積極性が見られなかったので今後は何か対策を考えたい。 リアクションペーパーは客観的な意見を得られるので継続していきたい。			

活動名		北海道ピア・サポートコンソーシアム 運営委員会設置		
開催日時	第1回：	2018年10月14日（日）	13:00～ 16:00	開催場所
	第2回：	2018年10月21日（日）	13:00～ 17:00	
	第3回：	2019年01月27日（日）	13:00～ 16:00	
	第4回：	2019年03月26日（日）	9:00～ 13:00	
対象者	小樽商科大学（以下樽商）、 札幌学院大学（以下札学）、 北星学園大学（以下北星）、 藤女子大学（以下藤女子）の学生			参加人数
目的		第1回:9人 （内訳：樽商4人 札学3人 北星2人） 第2回:10人 （内訳：樽商2人 北星5人 藤女子3人） 第3回:10人 （内訳：樽商5人 北星3人 藤女子2人） 第4回:9人 （内訳：樽商2人 札学2人 北星5人）		
概要		北海道ピア・サポートコンソーシアム運営委員会設置の目的は下記の通り。 ①本コンソーシアムの円滑および効果的な運営のため ②参加大学の意見や考えを反映させる運営を実現するため 各回の目的は下記の通り。 第1回：北海道ピア・サポートコンソーシアムを開催していくにあたって、円滑に運営できるようにルールや運営方法について、参加大学の意見を集約すること。 第2回：北海道ピア・サポートコンソーシアムを開催していくにあたって、円滑に運営できるようにルールや運営方法について、参加大学の意見を集約すること。 第3回：北海道ピア・サポートコンソーシアムを開催していくにあたって、円滑に運営できるよう運営委員会を設置すること。 第4回：来年度以降の幹事大学を決定し、北海道ピア・サポートコンソーシアムを開催していくにあたって、円滑に運営できるよう運営委員会を設置すること。		

	<p>に運営ができるのではないか、また、北星だけが中心で企画し、運営するよりも、多くの大学で企画、運営したほうがより良いものができるのではないかと考え、運営委員会のようなものを設置しようと考えた。</p> <p>その後、キックオフ会に参加した小樽商科大学、札幌学院大学、北海道大学、キックオフ会の参加依頼をしたが、参加しなかった藤女子大学。上記の4大学に声をかけ、運営委員会設置会を開催した。</p> <p>しかし、2019年度以降の幹事大学を決めることができず、会議を2回増やすことになってしまった。</p> <p>現在は、北海道ピア・サポートコンソーシアム運営委員会を設置し、幹事大学は下記の通りとなっている。</p> <p>2019年度：北星学園大学 2020年度：札幌学院大学 2021年度：小樽商科大学</p> <p>現在の構成員は下記の通りである。 経済学科2年目 1名 経営情報学科2年目 1名</p> <p>また、上記で4大学に声をかけたところ、北海道大学からは参加できないという返事をいただき、藤女子大学からは参加はできるが、構成員にはならないという返事をいただいた。</p>	
準備日程	2018年08月11日（土）	樽商、藤女子に第一回の日程調整のメールを送信。 地震のため、延期。
	2018年09月12日（水）	樽商、藤女子に第一回、第二回の日程調整のメールを送信。 10月14日に樽商、札学、北星 10月21日に札学、藤女子、北星 に決定
	2018年12月03日（月）	樽商に第三回の日程調整のLINEを送信 2019年01月27日に決定
	2018年12月07日（金）	札学、藤女子に第三回の日程調整のLINEを送信 2019年01月27日に決定
	2019年02月05日（火）	樽商、札学、藤女子に第四回の日程調整のメールを送信 2019年03月26日に決定
反省点	<ul style="list-style-type: none"> ● 設置会の日程調節を行うのが遅いことがあった。 ● 企画の実現には至らなかった ● 具体的な進め方ややりたいことを挙げることができた。 ● コンソーシアムを運営していくための土台を作ることができた。 ● 構成員が決まらなかった。 	

活動名		活動報告書作成		
開催日時	なし	なし	開催場所	なし
対象者	ピアサポ		参加人数	なし
目的	ピアサポの活動を記録・大学へ報告するため。			
概要	ピアサポの三役・各係・各学科全ての活動報告をするにあたって、統一されたテンプレートを作成することで閲覧者が見やすくなるように例年のものと大きく変更した。例年は記入枠を設けておらず、校正に時間がかかったため、今年度はこの形式をとっている。			
準備日程	2019 年 03 月 17 日（木）	初版 三役へ提出・確認		
	2019 年 03 月 27 日（水）	第二版 三役へ提出・確認		
	2019 年 04 月 09 日（火）	第三版 三役へ提出・確認 完成		
	2019 年 04 月 12 日（金）	最終版 ピアサポ全体へ共有		
反省点	<p>必要事項の精査に時間がかかったが前年度の問題点が大きく改善された。</p> <p>前年度は表形式ではなかった。そのため、全学科・係分 100 ページ以上にわたる文章のインデントやスペース・改行等の校正作業に追われ、提出時期がかなり遅れた。</p> <p>今年度は修正点が減ったため、それが必要ないと思われる。</p> <p>項目ごとの三役からの指示をもう少し詳細にコメントに残すことで記入方法（どのようなことを書くのか・ですます体・改行・記号の使用有無）がピアサポによりわかりやすくなるとよい。</p> <p>改善点は項目の精査・追加・削除である。各学科・係の企画ごとに必要項目を増やせるような工夫が必要だと考えられる。また、詳細な情報が記録できるよう、年度の初めに項目を全体で共有・確認し、活動記録を記入できるような意識づくりもできるとよい。</p>			

活動名		カウンターシフト		
開催日時	普通授業がある平日毎日	なし	開催場所	ラーニング・コモンズ
対象者	北星学園大学・短期大学部 全学生		参加人数	なし
目的	相談に来やすくするためにもカウンターに常駐し、学生に対応する。			
概要	カウンターに常駐し、相談に来た学生の対応を行う。また、パソコンの貸出も行う。			
準備日程	なし	なし		
反省点	<p>カウンターシフトの調査をする時期として、4月のオリエンテーション期間、オリエンテーション期間が終わった後～5月末（ピアサポの年度末）、6月～前期終了、後期始まり～春休み前の計4回行った。行う時期は、大学の区切りとピアサポの区切りを合わせながら行ったため、適切であったと思われる。04月のオリエンテーション期間と終わったあと少しせわしなくなってしまうのは仕方がないが、この期間の違いが混乱しないように伝えることが必要だと考えられる。</p> <p>実際のシフトの様子について、カウンターにピアサポが集まって話し込んでしまうときがたまにあった。集まってしまうと、他に使用したい人が使いにくい雰囲気になりやすくなってしまうため、気を付けるべきだと思われる。</p> <p>また、カウンターのシフトに遅刻したり欠席したりする際は、学習サポートデスクに理由を添えて連絡するという決まりがあるが、後半になるとその連絡をせずに欠席する人が増えた。学生には、いつどの学科のピアサポがカウンターにいるかということを掲示しているため、その時間に相談に来た学生が混乱しないようにするためにも連絡は徹底するようにすることが大切である。</p>			

活動名		係募集		
開催日時	なし	なし	開催場所	なし
対象者	ピアサポ		参加人数	なし
目的	ピアサポの円滑な運営			
概要	<p>・2018 年 06 月の係募集</p> <p>組織として円滑に活動するために主に一年目向けに係を募集する</p> <p>・2019 年 05 月の募集</p> <p>6 月での世代交代の前に、係の追加募集を行う。対象はこの時点で係に所属していない一年目。一年目のうちは学科での活動(学科企画・ピアサポによる説明会・履修相談会)が多かったが、二年目となりピアサポという「組織」で主体的に活動して行くうえで、これから入ってくる後輩たちを支えながらも「組織」の一員としてより自覚をもって活動してほしいという理由から再募集する。</p> <p>※このように募集期間を設けているが係にはいつでも入ることができる。</p> <p>※上記の募集期間中については係希望用紙を配布し、提出してもらう。</p> <p>※それ以外の期間で係に入りたい人は三役と所属したい係のリーダーに申し出してもらう。</p>			
準備日程	なし	なし		
反省点	<p>どの係も人が足りず、負担をうまく分散できていない。</p> <p>年度が変わる前の係の再募集期間だけではなく、係の数を増やすことも検討したほうがいいのかも。そもそも 6 月時点で係に入りたいと考えている 1 年目はもともとピア・サポートに対するモチベーションがほかのメンバーに比べると高いと考えられるため、最初の係の紹介だけで多くの人を獲得しようというのは難しいのかもしれない。</p> <p>係の存在意義があやふやになってしまっていて、係に所属するとその活動が重荷になってしまうと見えてしまっている。また、係に所属している、していないにかかわらず、どの係がどんなことをしているのか把握しておくで、係を超えてピアサポ全体でより活発な意見交換が生まれると考える。そのためには定例会の業務連絡に加えて活動の共有や報告を違う形でも行うべきなのかもしれない。</p>			

係

総務人事係

総務人事係	歴	氏名	学籍番号
	アドバイザー	森元 楓	1601146
	2 年目	◎小野寺 彩夏	1606058
		佐々木 涼羽	1609086
		空橋 美雨	1601114
		高橋 渚	1604099
	1 年目	佐々木 祐香	1708066
		蓑島 優佑	1701060
		山本 颯	1707068
係定義	北星ピア・サポーター（以下、ピアサポ）の活動を円滑に進める手助けをする。		
活動内容	定例会 議事録作成		
	ピアサポ名簿作成		
	北星ピア・サポーター インターン生募集		
	新年度北星ピア・サポーター採用		
年度反省	<p>1 年間を振り返ると、常に何かしらの業務や活動をしており忙しかった、というのが印象に残っている。また、イレギュラーな対応をすることも多かったように感じる。しかし、忙しい中でもしっかりと活動に向き合い、互いの忙しい時期にカバーしあうなど、全体的な雰囲気はよかった。</p> <p>ここで、全体的な活動について振り返る。全体的に、事前の想定が甘いところが見られた。実際に活動している中で急に対応しなければならないということも多かった。その原因として考えられるのが、事前の話し合いはしていたが実際に準備に取り掛かり始めるのが遅いということである。そのため、準備段階で余裕を持つことが重要であると考えられる。さらに、その準備に取り掛かり始めるのが遅くなる原因として、締め切りの設定が雑ではないかと考えられた。また、ライン上で連絡したことについて、返事がないことが何度かあり、反応が分かりづらいことがあった。そのため、何らかの形で反応を見せる必要があると思われる。</p> <p>しかし、どの活動についても前年度の活動による基盤ができていたため、やらなければいけないことを明確にすることが出来た。また、前年度のものをそのまま使うのではなく、参考にしつつグレードアップしたものを作成することが出来たと思われる。このように、積極的な姿勢を維持することが大切だと考える。</p>		
次年度展望	<p>今年度の反省から、準備の際に余裕を持つということが必要であるとする。そこで、最終的な締め切りだけではなく添削を受ける締め切りなど、より細かく指定することが大切であると思われる。また、固定の集まる時間を決めることで、ライン上ではなく、直接会って進捗状況を確認することができるようになるだろう。また、すべてを総務人事係がやろうとするのではなく、各係との連携を強くすることが必要であると思われる。例えば、インターンや採用についての告知を広報係にお願いするなどである。もちろん、これは互いに協力し合うということである。そうすることで、よりピアサポ全体の活動を円滑に進めることが出来るようになるのではないかと考える。</p> <p>また、基本的な情報（各自のアドレスや、議事録の順番など）を常に見えるようにすることで、毎回確認する手間を省くことができる。さらに、スムーズに準備や固定</p>		

	<p>の会議時間を決めるためにも、新メンバーが入ったとき、「名前、学籍番号、アドレス、時間割」をデータや紙に残しておく。同じようなことを会議の前に毎回確認するという手間を省くためにも、このように効率の良い方法を常に見ながら活動することが必要になると考えられる。</p> <p>他にも、共有方法を再検討する必要があると思われる。データだけではなく、紙媒体として初稿と最終原稿は必ず残しておくことで、どのように変えていったかという変化が分かりやすく残り、引き継ぎやすくなると思われる。</p> <p>また活動全体において、その時その時だけではなく先のことについても考えながら動いていきたい。</p>
--	---

2018 年度（前半）

月	06 月	07 月	08 月	09 月	10 月	11 月
活動記録	議事録作成 ピアサポ名簿 メールフォーム作成 ピアサポ名簿 デザイン考案	ピアサポ名簿 完成(予定)		議事録作成 インターンシ ップ制度準備 ピアサポ名簿 完成	インターンシ ップ募 集 開 始・募集延長	インターンシ ップ制度募集 締め切り インターン生 活動期間

2018 年度（後半）

月	12 月	01 月	02 月	03 月	04 月	05 月
活動記録		議事録作成	新年度北星ピ ア・サポータ ーの採用準備 開始		議事録作成 新年度北星ピ ア・サポータ ー募集期間 採用面接実施 採用結果通知	活動報告書作成
		インターン生 対象座談会				

活動名		定例会 議事録作成		
開催日時	なし	なし	開催場所	定例会開催教室
対象者	ピアサポ		参加人数	なし
目的	ピアサポが行っている定例会（今年度は毎週木曜 12：10-12：50）の内容を記録しピアサポ全体に共有する。			
概要	<p>定例会で出た議事・発言を記録し、Word ファイルのテンプレートに記入する。</p> <p>記録内容は当日の議事・発言者・発言内容 〆切等の必要事項である。</p> <p>議事録作成後はメールで学習サポートデスク職員（S・H）に提出する。</p> <p>学習サポートデスク職員が内容を必要に応じて構成したのち、ピアサポ全体にメールで共有する。</p> <p>〆切は次週定例会前と定められている。</p> <p>記録者は総務人事係内で順番に担当するが、当日担当者が参加できない場合には総務人事係内で代理を立てて対応する。</p>			
準備日程	なし	なし		
反省点	<p>議事録が欠けることなく、内容に大きなトラブルもなかったため、すべての定例会を記録することができた。今後も同様にピアサポの記録として保管するとよい。</p> <p>当日の記録者が欠席した場合の代理が偏ったため、全員の議事録作成回数が異なってしまった。今後は担当者の順番を決め、前倒しにする、若しくは定例会の開催日時ごとに担当者を決め、欠席と代理の順を入れ替える等の改善が必要だと思われる。</p> <p>議事録のデータが分散するため、記録ごとに随時データを管理する必要がある。今後も保管方法を紙媒体で残す必要性があれば検討すべきである。</p> <p>記入方法に個人差が出ないように、統一すべき事項を年度初めおよび 1 年目が新しく入った際に確認するようにする。</p> <p>議事録のテンプレートの形が今後変更するか、必要に応じて精査する。</p>			

活動名		ピアサポ名簿		
開催日時	なし	なし	開催場所	なし
対象者	北星学園大学 教職員 ピアサポ		参加人数	なし
目的	<ul style="list-style-type: none">● 教職員への周知を行うことにより、ピアサポと教職員の連携が円滑に進むようにする。● ピアサポ自身が他のメンバーの存在を知ることにより、メンバー同士の連携を高めるようにする			
概要	<p>ピアサポ全員分の名簿を作り、学習サポートデスクから大学職員・教員に完成したピアサポ名簿を共有していただいた。また 1 部印刷し、学習サポートデスクに置かせていただき、ピアサポが見ることができるようにした。なお、名簿に記入した情報は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 名前2. 学科3. 学年4. 所属係5. 学内メールアドレス6. 北星ピア・サポーターとしての意気込み（30 字以内）7. 編入する前の所属していた学科（アドバイザーのみ）8. 各学科北星ピア・サポーターのメールアドレス <p>活動内容</p> <ul style="list-style-type: none">・アンケートフォーム作成・アンケートフォーム送信・デザイン案考案（各学部ごとに色分けを実施）・アンケートフォームのデータをテンプレートに貼り付け・写真の貼り付け（ピアサポ辞典の写真を使用）・レイアウトの修正・表紙、注意事項の作成			
準備日程	2018 年 06 月 14 日（木）	基本情報を記入してもらったアンケートフォーム送信		
	2018 年 06 月 21 日（木）	デザイン考案		
	2018 年 06 月 28 日（木）	各学科で担当を振り分け。持ち帰り各自作成。		
	2018 年 08 月 08 日（水）	各自のデータを持ち寄り一つにまとめた。		
	2018 年 08 月 24 日（金）	レイアウト修正・校正		
	2018 年 09 月 05 日（水）	ピアサポ名簿完成		
反省点	スケジュールや役割分担が昨年度はうまくいかなかったため、その反省を活かし、係が			

	<p>新体制になってからすぐに動き出すことができた。役割分担においては、各学科に担当を置き、それぞれの負担が偏らないように工夫した。それぞれが2～4学科を担当したが、各学科の人数により配分を考えることができた。</p> <p>デザイン案に関しては、当初は2つの案があったが、どちらを採用するかをLINEで話し合い決定した。採用されなかったものは、別の企画に利用しようとする等、2つのデザインが無駄にならないような提案があった。また、デザイン案は、パワーポイントでデザイン案を構成したが、テキストボックス等をうまく使うことができずに、データを入力する際に作業が滞ることがあった。次年度以降は、より簡単な入力方法を考える。あるいは、テンプレートのみを総務人事係で作成して、ピアサポには、手書きで書いてもらうことが必要である。</p> <p>写真や〆切に関して、写真を名簿に載せてほしくない人に対して、どのように対応するのかを早い段階で考えるべきであった。イラストにするのか、似顔絵を描いてもらうのか等、様々な方法で対応できると考えるが、来年度以降も検討を忘れずに行いたい。また、アンケートフォームを返信してもらうようピアサポ全員に依頼したが、〆切までに返信がなかった人もいたため、定例会やメールで呼びかけるなどの工夫を引き続き来年度以降も行いたい。さらに、名簿に載せる写真を期日までに撮影していないピアサポもいた。期日までに全員提出、撮影してくれることが望ましいが、万が一期日に間に合わない人がいたときの対応を今年度は検討していなかったことがピアサポ名簿の完成が遅くなった原因の1つである。そのため、その対応も来年度は考えていくことが必要である。</p>
--	---

活動名		2018 年度 北星ピア・サポーター インターンシップ制度			
開催日時	09 月 20 日 (木)～ 10 月 04 日 (木) (一次募集期間)	なし	開催場所	なし	
	10 月 10 日 (水)～ 10 月 31 日 (水) (二次募集期間)	なし			
	2018 年 11 月 01 日 (木) ～2019 年 01 月 31 日 (木) (任期)	なし			
対象者	4 年制大学 8 学科の 1 年次生 (短期大学部英文学科および生活 創造学科は対象外)		参加人数	9 人(インターン参加人数) ※内訳 英文…2 名 心コミ…1 名 経済…1 名 経情…2 名 経法…0 名 計画…1 名 臨床…2 名 福心…0 名	
目的	<ul style="list-style-type: none">各学科の将来を担う人材を確保するピアサポ活動を体験することでピアサポ活動に対する認識を深めてもらう				
概要	募集人数 各学科最大 5 名まで ※一次募集の時点で 5 名を超える募集があった場合は受け入れるが、 その学科は二次募集を行わない。				
	応募方法 学習サポートデスクでもらうことができる申込書に必要事項(学科・ 学籍番号・名前・志望動機・興味のある活動・シフトに入れる時間) を記入してもらい、学習サポートデスクに提出する。 選考は行わず、原則希望者全員を受け入れる。				
	活動内容 <ul style="list-style-type: none">定例会への参加(11 月 08 日の第 15 回のみ不参加)ラーニング・コモンズのカウンター業務体験 →11 月 05 日(月)より 相談業務は基本参加しない各学科活動への参加(ゼミ説明会等)その他のピアサポ活動 →今年はクリスマス会(12 月 08 日)、中間リハーサル				

	<p>(02月19日,20日)に任意で参加 星学祭の出店手伝い(10月08日)、キックオフ会(11月10日)は不参加とした ※また各活動の出席については、インターン生と総務人事係が入ったLINEグループを用いて行った。</p> <p>注意事項 本制度に参加したからといって必ずピアサポに参加する必要はない また本制度はピアサポに任命することを確約するものではない</p> <p>座談会 01月29日(火)と01月30日(水)にインターン生を対象に座談会を行った 目的 インターン生の声を聴き、今後の企画活動をより良いものにしていくため。 日程 01月29日(火),01月30日(水)。どちらもV講の時間に行った。 また、インターン生と総務人事係を4グループに分け、同時刻に2グループの座談会を行った。 ※座談会をより効率的に行うため、01月10日(木)に行われた定例会においてインターン生に事前アンケートを配布し、座談会当日に提出をしてもらった。</p> <p>広報 ・メール →一次募集および二次募集開始前に対象学生に向けて送信。 また、申込書を提出した学生に宛てた今後の活動についてのメールも送信を行った。 ・Twitter →二次募集時に「北星ピア・サポーター(公式)」アカウントより送信。 ・Facebook →二次募集時に「北星学園大学 学習サポートセンター」アカウントより送信。</p> <p>作成資料 ・ポスター ・募集要項 ・募集開始メール ・二次募集時のアナウンス原稿 ・エントリーシート ・現役ピアサポに向けたインターン生の対応について ・受け取り者一覧表 ・アナウンス時の配布チラシ ・座談会事前アンケート ・座談会質問用紙 ・学科長に宛てたメール(授業内アナウンスする学科のみ) ・アンケート報告書</p>
準備日程	<div>2018年07月23日(火)</div> <div>募集期間の確定 仕事分担①</div>

	2018年08月02日(土)	仕事分担② アナウンスを行う学科の決定 今後の日程確認
	2018年08月20日(火)	募集要項とポスターの進捗確認 任期の確定 活動内容の確定
	2018年09月26日(水)	広報について 活動内容の微調整
	2018年10月03日(水)	仕事分担③ アナウンスを行う学科の修正 キックオフ会の参加について
	2018年10月18日(木)	アナウンス日程の確定 1次募集できたインターン生の対応
	2018年10月24日(水)	心理・応用コミュニケーション学科授業内アナウンス
	2018年10月25日(木)	福祉心理学科授業内アナウンス
	2018年10月31日(水)	インターン生+総務人事のLINEグループ作成 座談会の内容について
	2018年12月07日(金)	座談会日程の確定
	2019年01月10日(木)	定例会にて座談会事前アンケートの配布
	2019年01月29日(火)	座談会実施
	2019年01月30日(水)	
	2019年02月01日(金)	インターンシップ制度全体の反省
反 省 点	<p>前年度のインターン生の人数よりも増加したため、目的の一つであったピアサポに対する認識は深まったと感じた。また、長い期間の中で何度か話し合いを設け活動を行ったため、情報共有の漏れや意見の軋轢は少ないと思った。仕事分担に関しては、各々作成・添削を上手く行い、うまくできなかった場合でも、援助をし、助け合うことができた。</p> <p>その一方でインターン生のアンケートにおいて、「思っていたピアサポと違った」という声もあったため、ピアサポの活動をもう少し体験してあげればよかったと感じた。楽しい一面だけではなく、真剣な一面をもう少し見せてあげればよかったのかもしれない。そのため活動内容については次年度話し合うべきだと感じた。また、特に福祉心理学科は現役人数が少ないにもかかわらずインターン生が入ってこなかったため、学科によってピアサポの認知度が多少違うのではないかと感じた。それに関しても広報などを強化していく必要があると思った。</p> <p>目的に関しては、ピアサポの活動が前年度より認識されてきたと感じたが、必ずしも正確に認識されているわけではない、ということも感じた。また人材の確保に関しては先ほど述べた認識の違いという部分において、インターン生がもつイメージとのギャップを減らすための対応を考えていくことで、将来の人材確保にもつながるのではないかと考える。</p> <p>いずれにせよ、インターン活動は今後も積極的に行っていきたい。</p>	

活動名		2019 年度北星ピア・サポーター採用		
開催日時	2019 年 04 月 01 日（月）～ 2019 年 04 月 17 日（水） （募集期間）	なし	開催場所	C603、C605 （面接会場）
	2019 年 04 月 20 日（土） （面接）	なし		
対象者	北星学園大学 2 年次 北星学園大学短期大学部 1 年次		参加人数	エントリーシート受取者 19 名 エントリーシート提出者 9 名
目的	ピアサポの活動に意欲的な、北星学園大学 2 年次と北星学園大学短期大学部 1 年次を募集する。			
概要	<p>ポスターやメール、オリエンテーションなどで告知を行い、募集をかける。興味がある人は学習サポートデスクに来てもらい、エントリーシートや募集要項を渡し、応募したい人はエントリーシートを学習サポートデスクに提出してもらう。提出者は、後日総務人事係と学習サポートデスクの職員の方との面接を行う。なお、この面接は落とす面談ではなく、相手の性格などを知るためのものである。</p> <p>作成した資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポスター ・募集要項 ・全学ピア・サポート制度について（概要） ・募集開始メール ・エントリーシート ・受け取り者一覧表 ・エントリーシート受け取り時対応資料 ・Twitter の告知文 ・メール文（募集、日程調整、結果通知） ・アナウンス時の配布チラシ ・アナウンス時の告知文 ・面接時の質問・評価シート ・面接タイムスケジュール 			
準備日程	2019 年 04 月 01 日（月）	ピアサポ募集メール送信		
	2019 年 04 月 01 日（月）～ 17 日（水）	ピアサポ募集期間		
	2019 年 04 月 10 日（水）	ピアサポ募集メール送信		
	2019 年 04 月 16 日（火）	エントリーシート明日締め切りメール送信		
	2019 年 04 月 17 日（水）	面接の時間お知らせメール送信		
	2019 年 04 月 20 日（土）	面接		

	2019 年 04 月 24 日（水）	合格通知メール送信
反 省 点	<p>準備について、全体的に取り組み始める時期が遅かったと思われる。事前に分担はしていたものの、そのあとの進捗状況に関する連絡を取り合わなかったため、3 月下旬に急いで確認を取り、計画を立て始めることになってしまった。添削を受けるタイミングなど、こまめに締め切りを設定するなどの工夫をする必要がある。</p> <p>履修説明会に向けての準備や最終リハーサルもあり、そちらの方に集中しすぎて 1 年目が積極的に動くことができなかった。その分、2 年目に仕事が偏ってしまったと思う。来年度に引き継ぐということも考えると、1 年目は履修説明会の準備もあるが、採用についての準備にも時間を割くべきだと思われる。とはいえ、募集要項の見直しなど、採用に関する根本的な部分は全員で考えることができた。また、今年度作成したポスターは、背景を白ではなく色がついたものにしたため、掲示した時に目立ち前年度より目を引く形になったと考える。</p> <p>募集を開始した時について、応募者が来た時の対応をピアサポ全員に対して定例会やライン上で連絡はしたが、それだけでは不十分であったと考える。もう少し具体的に、絶対に伝えてほしいことや聞いてほしいことを明確にして連絡するべきであったと思われる。</p> <p>面接での基本的な質問項目は、募集要項の応募条件に沿って考えることが出来た。また、採用面接当日は、大きなトラブルや時間の大きなずれもなく、応募者への面接を行うことが出来た。そのなかで、面接を通して、ピアサポがどんな活動をしているかなどピアサポについてあまり理解していないまま応募したのではないかと、と思われる応募者がいた。そのため、入ってからのギャップが生じないように再度、座談会形式で話す機会を設けるといった臨機応変な対応をすることが出来た。</p> <p>今年度の採用では、エントリーシートを受け取りに来た人はたくさんいたにも関わらず、実際に提出して応募してくれた人は 9 名と少なかった。これは、ピアサポの認知度は上がっているが、まだ応募に至るほど、ピアサポについての魅力を説明しきれていないのではないかと考えられる。そのため、私たち総務人事係だけではなく、ピアサポ全体で、より魅力を伝えていけるようにしていかなければいけないと考える。</p>	

企画係

企画係	歴	氏名	学籍番号
	アドバイザー	伊藤 圭一郎	1503039
		森 祐太	1501066
		八代 美彩紀	1503163
	2 年目	石田 涼子	1601030
		◎一宮 駿斗	1603031
		金内 愛莉	1771035
		鷲見 桃子	1606069
	1 年目	大沼 恭介	1703106
		熊木 菜野	1707021
		眞鍋 航平	1706032
		長江 莉紗	1871066
		濱田 彩花	1871014
係定義	<p>学生に対する北星ピア・サポーター（以下、ピアサポ）全体での企画やピアサポのチームワークを高める企画を立案する</p> <p>学生をサポートするために必要なスキルをアップさせ、ピアサポの資質向上を図る企画を立案する</p>		
活動内容	金銭管理		
	北海道ピア・サポートコンソーシアム キックオフ会アイスブレイク		
	合宿 アイスブレイク		
	ピアサポ POST		
	星学祭		
	キックオフ会 アイスブレイク		
	クリスマス会		
年度反省	<p>① ピアサポ全体への発信が足りなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 特に学祭のような、本来ピアサポ全体を巻き込んで運営する企画であっても、ピアサポ全体への働きかけが不足していたため、企画係以外の人から見たら、何をしているのか、何をしたらいいかわからないという状態になってしまった。結果として企画係の特定の人（アドバイザー含む）への負担が大きくなってしまった。 ▶ ピアサポ全体で実施する企画を行う係として、ピアサポ全体の意見を聞く機会が少なかった。 <p>② 1 年目が主体的に活動する機会を設けた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ キックオフ会のアイスブレイクやクリスマス会で 1 年目の企画係メンバーで主体的に活動できた。 <p>企画書、報告書を企画ごとに作成してきたが、作成に時間がかかってしまった。</p>		
次年度展望	<p>星学祭を企画係中心で運営するのは人数の都合上厳しい。もし行う場合、星学祭の準備はシフト制の全員参加などをして企画係の負担を分散する。今後に向けて、企画係のメンバーを増やしたい。そして、ピアサポ POST のより良い運営や企画係のお金を管理する役職をつくりたい。新しい企画として、主にピアサポ同士の交流をメインとする活動（BBQ や運動会など）をしていきたい。会議の時に積極的に意見交換をする。</p>		

	クリスマス会のようなもっとみんなが気軽に参加できる企画を行いたい。
--	-----------------------------------

2018 年度（前半）

月	06 月	07 月	08 月	09 月	10 月	11 月
活動記録	合宿アイスブレイク	星学祭 →				キックオフ会アイスブレイク
	ピアサポ POST	→	休止			→

2018 年度（後半）

月	12 月	01 月	02 月	03 月	04 月	05 月
活動記録	クリスマス会					
	ピアサポ POST 再開	休止		→	再開	→

活動名		会計報告			
開催日時	なし		なし	開催場所	なし
対象者	ピアサポ			参加人数	なし
目的	ピアサポへの星学祭の利益還元				
概要	星学祭やクリスマス会、他大学との活動のための資金援助、卒業生への色紙代など 詳しくは別紙決算書を参照				
準備日程	なし		なし		
反省点	<ul style="list-style-type: none">● 星学祭の際、計算が合わない箇所があったこと。次回は、このようなことがないよう、ピアサポ全体で注意し、領収書の管理等を徹底していきたい。● 決算報告書において、42 円計算が合わない箇所があった。おそらく星学祭の収支状況に間違いがあったと思われるが詳細は不明。このようなことが無いように次年度以降、こまめに確認を行う。				

活動名		ピアサポ POST		
開催日時	2018 年 05 月 14 日（月）～	運営中	開催場所	ラーニング・コモンズ
	2018 年 07 月～12 月	停止		
対象者	北星学園大学、短大の学生		投稿者数	22 人（2019 年 4 月現在）
目的	<p><ピアサポとしての自覚></p> <p>学生の意見に対してピアサポとして回答することで、ピアサポ自身がピアサポとしての自覚を持つこと</p> <p><ニーズに答える></p> <p>投書から学生のニーズを読み取り、学生のニーズに対応した企画を行うことで、参加学生がより満足できる企画を作り上げること。これによって、ピアサポ自身の意識を高め、活動を活発にすること。</p> <p><身近な存在になる></p> <p>学生がより意見を言いやすい環境を整備することによって、学生にとってピアサポがより身近な存在と感じられるようになること。</p>			
概要	<p>ピアサポ POST 運営の流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 投函者は投函用紙に相談したいこと・困っていること・ピアサポへのメッセージなどを自由に記入し、POST へ投函。 ② ピアサポはシフトの時に新しい投函があるか確認。 ③ 投書があったら連絡用 LINE で連絡。 ④ 投書原本を学習サポートデスク内にある未回答投書箱で保管。 ⑤ 企画係が投書を学科、係または個人に割り振る。 (割り振ることができない内容の場合は基本的に企画係が回答を用意する) ⑥ 割り振られた学科、係または個人が回答を用意し、投函用紙の回答欄に記入。 投函確認から回答まで基本的に 1 週間とする。(各自の事情を考慮する) ⑦ 回答を用意したらグループ LINE にて共有。内容を確認し、必要に応じて修正。 ⑧ ラーニング・コモンズ入り口のピアサポ POST 掲示板にて 2 週間ほど掲示。 ⑨ 掲示期間（2 週間）を過ぎたものは、撤収し、学習サポートデスク内にある原本保管ファイルに綴じる。 			
準備日程	2017 年 12 月 21 日（木） 学習サポートセンター長に企画書提出			
反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ LINE を用いた投書の共有のシステムは機能していたもののグループ LINE ということもあり、反応が一部の人からしか得られなかった。 ・認知度がまだ低いので認知度を上げるための広告の仕方を考えなければならない。例えば、利用報告書の横に相談用紙を置かせてもらうなど。 ・一時期活動を停止していた時期があり、長期にわたって学生に迷惑をかけてしまった。 ・常に運営してるわけじゃないから実感がわからない 			

活動名		北海道ピア・サポートコンソーシアム キックオフ会 アイスブレイク		
開催日時	2018 年 05 月 26 日（土）	キックオフ会内	開催場所	C500 教室
対象者	ピアサポ 参加大学の学生		参加人数	40 人程度
目的	他大学の団体との交流を活発にし、話し合いを円滑に進めるため。			
概要	<p>三役が作成したグループで行った。</p> <p>ゲームで最初に発言する人はイスの裏に印をつけることでランダムに決めた。</p> <p>自己紹介用の紙、メモ用紙を各グループに配布。</p> <ul style="list-style-type: none">● 2つの真実1つのウソ（自己紹介 30 秒・質問 1 分・答え合わせ 1 分） →自己紹介ゲーム。名前・大学・学年はウソをついてはいけない。「出身地」「小さい時の夢」「きのこ派/たけのこ派」の 3 項目のうち 1 つにウソを混ぜて自己紹介をする。周りのメンバーは、その人に対して質問をし、ウソを見抜く。最後に答え合わせをする。これを繰り返す。 目的：互いを知り、イベントでのグループワークにつなげる。● 共通点探し（話し合い 10 分・発表 6 分） →グループのメンバーの共通点を出来るだけ多く出すゲーム。ここで出た共通点を 2 つ以上用いてグループ名の候補を 2 つ作る。もし同じグループ名のグループが生まれた場合はじゃんけんで決め、じゃんけんで負けたグループは 2 つ目の候補のグループ名にする。 目的：互いの共通点を探すことで親近感を感じてもらい、少しでも仲良くなってもらい。その後のプログラムでもグループ意識を持って話し合いをできるようにすること。			
準備日程	2018 年 05 月 18 日（金）	ラーニング・コモンズで話し合い <ul style="list-style-type: none">● アイスブレイクの内容を話し合って、ゲームを決定。 ※話し合い以降は LINE で連絡を取り合って調整。		
	2018 年 05 月 21 日（月）	ラーニング・コモンズで話し合い <ul style="list-style-type: none">● アイスブレイクの内容を話し合って、ゲームの内容を詰めた。 ※話し合い以降は LINE で連絡を取り合って調整。		
	2018 年 05 月 22 日（火）	当日使用するパワーポイントをリーダーに提出。		
	2018 年 05 月 25 日（金）	最終調整		
反省点	<ul style="list-style-type: none">● 時間の想定が少し甘かった。● ゲームの中でチーム名を決めることで、ただのアイスブレイクではなくその後のプログラムにつながるアイスブレイクになった。			

活動名		合宿 アイスブレイク		
開催日時	2018 年 06 月 09 日（土）	合宿研修 内	開催場所	学生交流会館 Kirari
対象者	ピアサポ		参加人数	40 人程度
目的	ピアサポ新年度で初めてのイベントである合宿で、話し合いを円滑に進めるため。			
概要	<p>チーム対抗でポイントを競うゲームを実施。</p> <ul style="list-style-type: none">● NG ワードゲーム →企画係が事前に準備したカードに書いてある言葉を言わせるように質問し合うゲーム。インディアンポーカー形式で、自分が持っているカードはわからない。もし、カードに書いてある言葉を言ってしまったらアウト。アウトになった人も質問できるようにしたことで、発言機会を確保した。順番に質問するので全員に発言機会がある。ゲーム開始直後に自己紹介（学科・学年・名前）をした。 目的：グループ内で各自が声を発し、話すこと。● マシュマロチャレンジ →パスタ・マスキングテープ・麻紐を用いて、制限時間内にグループで協力して出来るだけ高いところにマシュマロを置くゲーム。 目的：トライ＆エラー・役割分担・コミュニケーションの 3 要素を体験すること。グループ内で協力することで心の壁を取り払うこと。			
準備日程	2018 年 05 月 31 日（木）	<p>ラーニング・コモンズで話し合い</p> <ul style="list-style-type: none">● アイスブレイクの内容を話し合って、ほとんどの内容を決定。 <p>※話し合い以降は LINE で連絡を取り合って調整。</p>		
反省点	<ul style="list-style-type: none">● NG ワードゲームについては、質問されるうちに自分が持っているカードに書いてある言葉がわかってしまうというゲームとしての欠陥があった。● 時間配分に余裕がなかった。当日までタイムキーパーを決めていなかった。			

活動名		星学祭		
開催日時	2018 年 10 月 07 日（火）	台風の ため中止	開催場所	ラーニング・コモンズ他
	2018 年 10 月 08 日（木）	終日		
対象者	ピアサポ		参加人数	不明
目的	協働の再認識、つながり・団体意識を高める、マネジメント能力の向上。			
概要	<ul style="list-style-type: none">● 汁なし担々麺 場所：ラーニング・コモンズ前 屋外テント 汁なし担々麺を販売。辛さが選べる、整理券や付箋を使うなど販売において工夫を行った。● 縁日 場所：ラーニング・コモンズ 星学祭に来た家族連れを対象に実施。1 枚 10 円または 11 枚 100 円のチケットを買いアトラクションを行い、結果によりおかしを配った。<ul style="list-style-type: none">➢ 型抜き 場所：Relaxation&Collaboration Area（オレンジ） 型抜きを一人 2 枚配り、歯ブラシや画びょうを使って型抜きをする。汚れや傷防止のために新聞紙、段ボールごみ袋を敷き実施。➢ ストラックアウト 場所：Creative Project Area 段ボールと新聞紙などで的を作り実施。➢ 射的 場所：Relaxation&Collaboration Area（グリーン） 若者活動支援センターから射的の銃と弾（コルク）を借りて実施。的は自分たちで作成。➢ クイズ 場所：Presentation&Seminar Area 難易度別のクイズ（なぞなぞ）を実施。			
準備日程	2018 年 07 月 12 日（火）	学祭プロジェクトメンバー顔合わせ		
	2018 年 07 月 15 日（火）	学祭プロジェクトメンバーが外・中の模擬店に分かれて作業開始		
	2018 年 07 月 26 日（火）	学祭プロジェクトメンバー会議 学祭実行委員への提出書類作成 ※以降は適宜準備・活動を行った		
反省点	<ul style="list-style-type: none">● 北海道地震のため準備ができなかったり、台風のため星学祭の 1 日目が中止になってしまったりと、予想外の出来事が重なり、対応が遅れてしまった。● 学祭プロジェクトメンバーを立ち上げ、ピアサポに手伝いを促したが、企画係に負担が偏ってしまった。● 当日の予測が甘く、追加の買い出しも含めた適切な人員配置を行えていなかった。● 来年の星学祭の参加の有無は 2 年目で話し合って決める。参加するのであれば、企画係が中心になるのではなく、2 年目が中心となり、ピアサポ全員で企画・実施を進めたい。			

活動名		キックオフ会 アイスブレイク		
開催日時	11月10日(土)	キックオフ会内	開催場所	B500
対象者	キックオフ会参加者		参加人数	42人
目的	キックオフ会を行うにあたって、メンバーの緊張を緩和し、交流をより深める。			
概要	<ul style="list-style-type: none">・エセ芸術家ニューヨークをもとに考えたエセミッケ!!を実施。・エセミッケ!!終了後、古今東西ゲームを行う予定だったが、実施できなかった。・エセミッケ!!のルール<ul style="list-style-type: none">・キックオフ会参加者をグループA～Eに約10人1グループに分けた。・フロアとグループの対抗戦。・前に出た1グループに1人につき1枚お題の紙を引いてもらう。・そのお題に沿って一人一筆ずつ描いてもらう。・これを2周する。但し、グループの中にはお題なしの紙を引いて、お題がわからないエセがいる。・前に出たグループは話すこと、文字や数字を書くことは禁止。・フロアにいる残りのグループはエセを一人でも当てることができたらフロアの全グループに1ポイント。・フロアがエセを当てることができなかつたら前に出た1グループに1ポイント。			
準備日程	なし	なし		
反省点	タイムマネジメントができず、もう一個の古今東西ゲームができなかった。具体的には、ルール説明で時間が思った以上にかかってしまったことや、前に出たグループが絵をかき終わってエセを投票するのに時間を取られてしまったことがあげられる。参加したメンバーが楽しんでいたが、グループ内での交流はあまり促せなかった。ルールが少しあいまいだったところがあったので、計画的に準備し、先輩やデスクの方の添削してもらい、事前に企画係全体でリハーサルを行うことが望ましい。全体に当日のグループを伝えるのが直前になってしまった。作業に偏りがあったため分担することが望ましい。準備の進捗状況を係内であまり報告できていなかった。			

活動名		クリスマス会		
開催日時	2018 年 12 月 08 日 (土)	16:00～ 20:45	開催場所	学生交流会館 Kirari
対象者	ピアサポ		参加人数	41 名
目的	ピアサポ内の交流を促進し、新たな関係を築き、仲を深める機会を設けること。 季節の行事を楽しむこと。 星学祭の利益還元とピアサポ内で普段のピア・サポート活動とは別にみんなが楽しめるイベントを実行すること。			
概要	<ul style="list-style-type: none">● ゲームの具体的な内容については、参加者を 5 グループに分けて、クリスマスソングイントロドン、エイトボンバー、ケーキ作りコンテストを行った。● クリスマスイントロドンの音源は、企画係が持ち寄り、持参のスピーカーから音楽を流して行った。● エイトボンバーは、バラエティー番組(ネプリーグ)のファイブボンバーを参考にした。● ケーキ作りコンテストは、上記 2 つのゲームの結果をもとに、各チームが材料を選び、制限時間内にケーキを作成し、それを企画係の審査員が審査するという形で実施した。● プレゼント交換は、参加者に用意してもらったプレゼントに番号を振り分け、くじ引き形式で実施した。● 飲食物として、ピザ、チキン、ジュースを用意した。			
準備日程	2018 年 10 月 29 日 (月)	ラーニング・コモンズ内で話し合い、企画を決定。 以降は LINE で連絡を取り合って調整。		
反省点	<p>事前に準備を始めるのが早かったことから、余裕をもって企画を行うことができたが、企画書を出すのが遅かったことが反省点に挙げられた。作業が個人に偏ってしまったため、分担して作成することを心掛けたい。企画係から送信したメールがシステム上送信されないトラブルが発生し、その後の対応ができていなかったため、メールと LINE を使って URL を送信し、漏れのないようにしていきたい。また、企画係内での情報共有もより積極的に行う必要がある。</p> <p>ゲーム自体は、皆で楽しみ、交流を深めることができるものとなったが、事前の企画係の確認不足で時間を取られてしまい、全体的に時間が押してしまったことが次回の課題となった。参加費 500 円、プレゼント代 300 円は妥当であったが、食材の量が多すぎてしまった。また、見た目を重視した結果食べにくく、分けにくいものになってしまったため、次回以降は食べやすさも考慮したうえで食材選びを行いたい。コストコにこだわらず、ほかのお店のオードブルなども視野に入れる。</p>			

広報係

広報係	歴	氏名	学籍番号
	アドバイザー	小島 悠華	1507027
		坪井 裕介	1504117
	2 年目	◎岩上 莉子	1771030
		今部 桃子	1771048
		篠村 榛花	1605081
		高橋 慶次	1604098
		竹井 健人	1605089
		武田 莉奈	1772020
	1 年目	管沢 花	1871036
		沼口 亜美	1706055
		畑 美雪	1872011
		森津 有紗	1706041
係定義	北星ピア・サポーター（以下、ピアサポ）の活動を学内外にアピールする（北星ピア・サポーター公式ツイッター更新、など）		
活動内容	ツイッター投稿		
	Facebook 記事投稿		
	名刺作成		
	チラシ作成		
	パンフレット作成		
年度反省	<ul style="list-style-type: none"> ● 最初に役割分担、年間スケジュールを全体で考えるべきだった。 ● 広報係の中でどんな仕事があり、どれくらいの進捗でなにが進んでいるのか共有が足りなかった。 ● 2 年目がどのような活動をしているかを 1 年目が把握し切れていなかった。 ● 初めは何事も「とりあえず 2 年目が」となっていた。 ● 終盤、ミーティングを行うことが定着しつつあり良かったと思うが、一度の会議で話したい内容をすべて話せず、一つの議題が長期化することもあった。 ● それぞれの議題について、突き詰めて話したことがあまりなかった。 ● Twitter、Facebook ではペアでの記事作成にすることでやりやすくなった面もあるが、システム自体があいまいだった。また行事の直前に動きだすことが多かった。 ● 1 年の動きを全体で確認する時間を取り、早めに取り組める工夫が必要だった。 ● ピアサポ内での広報係に対しての期待や信頼が小さいのではないかな。 		
次年度展望	<ul style="list-style-type: none"> ● やらなければいけないこと、何故それをやらなければならないのかを話し合う。 ● 1, 2 年目が協力しやすい環境を作るため、定期的なミーティングを行うことで共有をしっかりとしたい。 ● 年度のはじめに年間のスケジュールと仕事内容を全員が把握し、計画性をもって活動する。 ● 1 年のスケジュールをたてることで、Twitter、Facebook にて「今どんな情報を発信すべきか」を明確化し、より良い活動に繋げていきたい。 ● 1, 2 年目関係なく意見交流できる関係性になりたい。 		

	<ul style="list-style-type: none"> ● 定例会での呼びかけやピアサポグループ LINE を通し、「企画があるから告知を広報係にお願いしたら、宣伝効果があるかも」という風に、ピアサポの広報係への信頼や期待を大きくしたい。 ● メンバー同士の交流が会議以外で薄かったため交流の機会を増やしていきたい。
--	---

2018 年度（前半）

月	06 月	07 月	08 月	09 月	10 月	11 月
活動記録	ツイッター					→
	Facebook					→
					学祭チラシ作成	

2018 年度（後半）

月	12 月	01 月	02 月	03 月	04 月	05 月
活動記録	ツイッター					→
	Facebook					→
			パンフレット	名刺作成	活動報告書作成	→

活動名		ツイッター投稿		
開催日時	2018 年 06 月～2019 年 05 月	随時	開催場所	ツイッター上
対象者	北星学園大学全学生		参加人数	なし
目的	ピアサポの活動を北星学園大学の学生に広報すること。			
概要	<p>＜ツイッターアカウント開設までの流れ＞</p> <p>学習サポートデスクの Facebook アカウントでピアサポの活動を広報させて頂いていたが、現在の大学生は Facebook よりもツイッターを使用している人が多いと考え、昨年度ツイッターアカウントを開設。</p> <p>＜今年度の主な動き＞</p> <p>ピアサポの活動を広報するため、学科・係単位での企画について、定例会などのピアサポ全体での活動状況についてなどをツイートした。また、履修など大学生活に関することもツイートした。</p> <p>＜ツイート内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例会 ・学科・系の企画等 ・大学生活に関すること <p>(学科・係からツイートしてほしい内容がある場合は、事前に文章を作成し、投稿日を決めたうえで依頼してもらうこととしていた。)</p> <p>＜ツイートまでの流れ＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 担当者が文章を作成 ③ 広報係の LINE グループに投稿し、メンバーが添削 ④ 03 月 31 日までは元学習サポートデスク職員 S、04 月 01 日からは現学習サポートデスク職員 H に添削を依頼 ④ 担当者がツイート <p>＜担当者＞</p> <p>04 月 15 日まで担当者は特に決まっておらず、ツイートする内容が思いついた人が上記の流れでツイートすることになっていた。</p> <p>04 月 16 日の会議で担当者について、下記の通りに決めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンバーの中で、2 人 1 組のペア（04 月 16 日の会議では 4 組）を作る ・2 人のうち 1 人が Facebook を、もう 1 人がツイッターを担当する ・ペアに番号をつけ、その順番で Facebook とツイッターを担当する ・担当の交代は 1 週間ごとに行う ・すべてのペアが 1 回ずつ担当したら、全員で集まりペアを変える 			

	(2019年05月04日現在：フォロー中652人 フォロワー310人 ツイート数148)	
準備日程	2018年06月～2019年05月	
反省点	<p><よかった点></p> <ul style="list-style-type: none"> ● わかりやすい画像やリンクを添付するなど、細かい工夫ができた時があり、良かった。 ● 初めは1年目と2年目の2人で取り組んだことで1年目が早く仕事を理解できたため良かった。 ● 大事な行事や連絡事項を素早く投稿できていた。 ● ペアでの作業にしたのが良かった。 <p><改善点></p> <ul style="list-style-type: none"> ● フォロー数に対しフォロワー数が少ないことや、いいねとリツイートがいつも同じ人に限られてしまうなどの点を改善したい。 ● 学生のプライバシーを配慮してツイート、リツイートするように気をつける。 ● いいねとリツイートの数が少ないため、ピアサポの活動を多くの人に知ってもらうために呼びかけを定例会だけでなく、全体LINEにもすると良いと思った ● 瞬時に呟けるということをより考えたルールを設けるべき。 ● 大まかに一年の計画として、何を呟くのか考えておくによりスムーズにツイッターが活用できるのではないか。 ● 重要な情報が隠れないようにするため、ツイートの頻度はあまり多くない今ぐらいの頻度でいいと思う。 ● 更新する正確な頻度や内容、添削の引き継ぎを全員で確認していなかったこと。 ● 今後は学年暦・教務日程を活用して、役割分担を守り公式ツイッターをもっと広めていく。 ● 絵文字をもう少しつけて親しみやすく。 ● 字数に余裕があれば、ハッシュタグ機能を使うと検索に引っかかりやすいと考えられる。 ● 当初案に出ていた定例会の様子をツイートすることはなかった。 ● 行事等決まっているものはいつぶやくか決めたら良いのではないかな。 ● アカウントの認知が思ったより進んでいない。 ● 北海道胆振東部地震の発生に伴う安否確認のメールや星学祭の初日中止など、緊急性の高い情報をツイートすることが出来た。 ● 大学全体の履修についての重要な情報をツイートすることが出来た。 ● ツイート頻度を決めていなかったためか、ツイートしない月があるなど頻度がバラバラになってしまった。 ● 途中まで担当者を決めていなかったり、ツイート内容を漠然としか決めていなかったりしたためか、広報係メンバーではないピアサポや学習サポートデスクの方から「これツイートした方が良いんじゃない？」と言われてからツイートすることが数度あった。 ● 学科別の大学生活に関する情報をあまりツイート出来なかった。 ● 「学年暦・教務日程」で1年間に必ずツイートする内容をある程度決めておけば（「履修登録取消期間についてツイートしよう」等）、事前に文章を作成し、ツイートする人を決めておけばいいだけなので、ツイートする時に急いで文章を作成することが減ると考えられる。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ● 学科別の大学生活に関する情報を各学科が仕入れ次第、広報係の誰かに連絡するよう にしておけば、多くの情報をツイートできると考えられる。 		
活動名	Facebook 記事投稿		
開催日時	不定期	開催場所	Facebook
対象者	学内外の方々	参加人数	なし
目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 学内外の方々に対してピアサポ及びラーニング・コモンズについて周知するため。 ● 主に定例会について記事を書き、定例会のまとめや振り返り、ピアサポの計画を明確にする。 ● ピアサポ活動を認知してもらうために、日々の活動を Facebook に投稿し、活動の進捗や企画の宣伝等を行う。 		
概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 広報係の担当者二人がペアになり記事を書き、学習サポートデスクの担当者の方へメールで送信し内容の添削をしていただく。 ● 添削後、学習サポートデスクの方によって、水曜日に学習サポートデスクのアカウントに広報係のピアサポの担当者が書いたものが投稿される。 ● 基本的に定例会の内容を書くため、木曜日の定例会後に記事を書き、次の週の月曜日までに学習サポートデスクの方へメールで送信する。 ● メールを送る際、記事と一緒に定例会の様子がわかる写真も一緒に添付する。 ● 内容は主に定例会で、企画やイベントがあった際には追加で記事を投稿した。 		
準備日程	なし	なし	
反省点	<ul style="list-style-type: none"> ● これからは添削をしていただく前にペア、係内でできるだけ文章を推敲し、デスクの方々にあまり負担をかけないようにする。 ● Facebook に何を書いたら需要があり、よりピアサポについて知ってもらえるのか考えた記事を書いたらいいのか話し合うべき。 ● 書く人によって内容に差があった。 ● 投稿する担当者を分担していなかったこともあり毎週書くのは難しく、月によって頻度にばらつきがあった。 ● Twitter とは違い文字制限がないことにより多くのことを書けるから良かった。 ● 毎週投稿するのは内容が薄い時などに書くことがないという事が分かったので、重要なことは Facebook でも知らせることにする。 ● 更新頻度が守れるよう、年間スケジュールを確認し、内容を事前に決め投稿しやすいようにする。 		

活動名		名刺作成	
開催日時	2019 年 03 月 30 日（火）	開催場所	なし
対象者	北星学園大学全学生	参加人数	なし
目的	分からないことや相談したいことがある場合に、学科のメールアドレスを使用してカウンター以外でもピアサポを活用してもらうことを目的とする。		
概要	名刺には名前、学科、学年、学科のメールアドレスを記載し、相談業務の際に学生に渡す。そうすることによって、カウンター以外でも分からないことや相談したいことをメールで送ることができる。		
準備日程	2019 年 03 月 30 日 (火)	打込、印刷	
反省点	<ul style="list-style-type: none">● ネームを使用することが多く、名刺の必要性が不明なため、名刺を使用する需要を一度確認したほうが良い。● 今年度は夏に名刺を作成したが、印刷していなかったため、相談に来た学生に配ることができなかった。来年度は、新メンバーが入り次第、作成・印刷を行いつつでも配ることができるように、〆切を決める。● 相談会前に印刷したため、メールでの問い合わせが数件見られた。● 準備をするのが遅かったこともあり、ミスが出てしまった。● 名刺作成自体は比較的 1 年目にもしやすいため、今後は新メンバーがそろい次第作成を始めていきたい。● 準備が遅かった。● 手の空いている人に任せっきりになってしまった。● 今年度の名刺作成のために昨年度の名刺の型を残したのは良かった。● 広報メンバー全員が作成に関して共有していなかった。		

活動名		学祭チラシ作成		
開催日時	なし	なし	開催場所	なし
対象者	星学祭に来た方		参加人数	なし
目的	星学祭においてピアサポの屋外露店「担々麺」と屋内露店「ピアサポ縁日」の周知。またピアサポの周知。			
概要	<ul style="list-style-type: none">● 学校祭担当と連携して、校内に掲示と当日配布するポスター兼チラシ二種、当日掲示する看板の計3点の作成。● 担々麺と縁日でデザインを分け、それぞれ作成する。● 団体名、出し物、値段、TwitterのQRコードをそれぞれ盛り込む。● 北星ピア・サポーターのTwitterでチラシを掲載、広告に活用した。● データはカウンターのPCにてやり取りした。			
準備日程	2019年10月上旬（学祭1週間ほど前）		デザイン決め、印刷	
反省点	<ul style="list-style-type: none">● 1年目2年目共同で作成できた。● Twitterでの宣伝にも使えたから良かった。● LINEやデスクのパソコンで進捗を細かく確認し合えたのがよかった。● 全体で話し合いの時間が取れなかった。● カウンターのパソコンにデータを残しておくのが、数人で編集するときには楽だった。● できるだけ広報係全員で作り上げたかった。● 個人の負担に差ができたが、個々のセンスを出し合って、当日までに看板、チラシを異なるデザインで仕上げることができた。● 来年度も作成する際は、経験を踏まえた上で早い段階からチラシを使ってTwitterでの広報活動に役立てたい。● 1人1個はなにかを考えて実際に作ってみる、というのも今後検討してもいいと考える。			

活動名		パンフレット作成		
開催日時	なし	なし	開催場所	なし
対象者	北星学園大学全学生		参加人数	なし
目的	ピアサポの活動への理解を深め、認知度を向上させるため			
概要	<p>ピアサポがどのような組織なのかを写真を交えながらまとめ、組織への理解を深めてもらうためのパンフレットとする。そのため昨年度作成された新入生向けのものから、より多くの人にピアサポについて知ってもらえるものへの改変を考案した。</p> <p>内容としては下記の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none">・北星ピア・サポーターとは・1年間の活動の流れ・活動場所・ピアサポ POST について・SNS での活動について・北星ピア・サポーターへの勧誘 <p>なお現在作成中のため、完成は次年度の星学祭までを期限とし、星学祭より配布開始とする予定である。</p>			
準備日程	2019 年 02 月 18 日（月）	作成開始		
	2019 年 04 月 11 日（木）	最終作成日（作成途中）		
反省点	<p>昨年度のもの</p> <ul style="list-style-type: none">● 多く印刷するのはいいが余ってしまうので、何のために作成しどのタイミングで配布するのかを話し合う必要がある。● 昨年の説明会、相談会の日程を記載していたために今年の説明会、相談会で配布できなかった。● そのため具体的な日程を記載しないで、数年間使用して、たまに情報を更新することにするのも良いかも？ <p>今年度のもの</p> <ul style="list-style-type: none">● もう少し早い時期から取り組みたかった。● またパンフレット作成にあてる期間を明確にしていなかったため、新しいパンフレットを作成することができなかった。● 今後は写真や日付を変更して学祭までの完成に向けて広報係として取り組んでいきたい。			

学科

文学部
英文学科

文学部英文学科		歴	氏名	学籍番号
		アドバイザー	田口 奈々	1501103
			平山 沙耶佳	1501024
			森 祐太	1501066
			山口 千尋	1501123
		2 年目	岡崎 幸菜	1501084
			石田 涼子	1601030
			空橋 美雨	1601114
		1 年目	北川 ちなみ	1601047
			A	
			蓑島 優佑	1701060
年度反省	<p>・1 年目と 2 年目の連携不足を感じた。1 年目が主体となって活動に取り組むことはもちろんだが、活動開始前にまず 2 年目が前年度の反省点などを引き継いでおくべきだった。また、企画当日だけでなく企画準備の段階から 2 年目が積極的に関わるべきであった。</p> <p>・企画の直前になって準備をすることが多かった。そのため十分な準備ができずに当日を迎えたり、満足のいくものを準備できなかったりした。</p> <p>・1 年目が 2 年目に相談しやすいような環境づくりをしていなかった。そのせいか 1 年目がどのようにして活動を進めたいのか理解できず、アドバイスにも悩んだ。</p> <p>・英文学科全員で集まる機会が本当に少なかった。スケジュール調整をするのが遅かったため、全員すでに予定が入っていることが多く集まらなかった。また、時間にルーズな部分があり、メンバー全員が集合時間に集まらないことも多かった。集まる日を決めても時間通りに作業を進められなかったり、全員で話す時間が減ったりした。</p>			
次年度展望	<p>・企画などを実施する前に 1 年目と 2 年目で必ず集まり、前年度の企画の目的や様子はもちろんのこと、当日の準備の流れまで詳しく引継ぎを行う。引継ぎ後、1 年目の活動状況を把握することで、2 年目がどのぐらい活動に関与すべきかを判断できる。また、2 年目が準備の段階から少しでも関与することで、1 年目と共に十分な準備が行えるのではないかと考える。十分な準備があつてこそ、満足のいくものを準備したり満足のいく活動ができたりするのではないかと考える。</p> <p>・2 年目から積極的に活動の進捗状況を確認し、1 年目が相談しやすい環境をつくる。ただ 1 年目から進捗状況を聞くのではなく、1 年目がどのような気持ちで企画に向き合っているのか、各々の忙しさなどを聞いたうえで、2 年目が思ったことや提案をすぐに伝えることも重要となってくる。しかし進捗状況の確認のみになると、どうしても事務的なやり取りになってしまうため、1 年目と 2 年目の関係があまり深まらず、活動を進める中でギクシャクしてしまうかもしれない。そういった事態を防ぐためにも、進捗状況など北星ピア・サポーター（以下、ピアサポ）に関することのみではなく、学校生活やアルバイトについてなどのプライベートのことについて触れることも必要である。</p> <p>・スケジュール調整を早めに行い、全員が集まる日を事前に決めておく。決める際にはどれぐらいの頻度で集まって活動を進めるか、アルバイトにはどのぐらいの頻度で入りたいかなどを話し合うことが大切である。集まる日だけでなく活動の大まかなスケジュールリングも同時に行うと、その後の活動も進めやすいのではないかと考える。その際には 2 年目も参加し、前年度の反省とともにスケジュールリングを行いたい。</p>			

2018 年度（前半）

月	06 月	07 月	08 月	09 月	10 月	11 月
活動記録					ゼミ相談会	 北星ピア・サポーターによる説明会 （以下説明会）に向けた準備

2018 年度（後半）

月	12 月	01 月	02 月	03 月	04 月	05 月
活動記録			中間リハーサル	最終リハーサル		
				 北星ピア・サポーターによる相談会 説明会		

活動名		ゼミ相談会		
開催日時	①2018 年 11 月 29 日	昼休み	開催場所	①C600, C608, C611
	②2018 年 12 月 04 日	昼休み		②B600, B602, B606, B608
	③2018 年 12 月 06 日	昼休み		③C600, C602, C608, C611
対象者	北星学園大学文学部英文学科 2 年次生 北星学園大学短期大学部編入予定者		参加人数	全日 50 名前後
目的	英文学科の二年次生と本学短期大学部からの編入予定者に専門演習Ⅰ（以下、ゼミ）の情報を手に入れられる場を設け、具体的な情報を得ることで、学生のゼミ選びを円滑に進められる支援をする。学生の選択肢を明確にし、学生が本当に学びたいこととゼミでの学びとのミスマッチを防ぐことができる。さらに学生目線での説明を聞くことで、ゼミの雰囲気や授業外のつながりなど、学科長の説明会では得られない情報を得ることができる。			
概要	ゼミごとにブースを配置し、各ゼミに所属する三年次生がゼミの概要説明を行い、説明終了後に質問できる時間を設けた。ゼミの概要説明はゼミで学ぶ内容や卒論の内容などの二年次生がゼミ選択の際に気になっている共通の事項を含めて説明をしていただいた。昨年度、2 日間で 11 のゼミを紹介した際に、運営が非常に難しかったという反省と、今年度の英文学科のピアサポ数が少ないという 2 つの理由から、今年度は 3 日間にわけて開催した。そうすることで 1 日に管理するゼミ・参加者の管理やデータの集計を徹底する予定であった。			
準備日程	2018 年 10 月 29 日(月)	協力者との LINE グループ発足		
	2018 年 11 月 07 日(日)	企画書完成版提出		
	2018 年 11 月 26 日(木)	ポスター再編集・再掲示		
	2018 年 11 月 28 日(水)	全アンケート用紙完成・印刷		
反省点	取り組めた点 ・Active!mail、ピアサポ公式 Twitter アカウント、口頭での告知など、広報活動に力をいれたため全日程参加者が多かった。 改善すべき点 ・11 月 21 日(水)職員会議にて本企画とゼミ志望書の提出締切日が同一日に決定した。学習サポートデスク職員に協力していただき、〆切時刻を伸ばしてもらう工夫をした。次年度以降は学科長との連絡を事前に、入念に行う。 ・準備と予行演習不足だった。準備を始めるのが遅かったにも関わらず、準備のために集まって話し合う回数も少なかった。そのため準備の進捗状況を共有することが少なく準備が遅れ、企画直前になって準備を進めることとなった。また、企画直前になって準備を進めることになったため予行演習の機会を設けることができなかった。 ・事前に昨年度どのようにして準備したのか、2 年目が 1 年目に引継ぎを十分に行うべきだった。昨年度は企画当日早めに集まり、準備を終えた後企画を実施した。しかし引継ぎ			

	を十分に行っていなかったため、ゼミ相談会の 1 日目は準備をせずに企画の時間を迎えてしまった。事前に引継ぎを行い、当日の流れまで十分に説明していた場合、このような事態にはならなかったのではないかと考える。
--	--

文学部
心理・応用
コミュニケーション学科

文学部心理・応用コミュニケーション学科	歴	氏名	学籍番号
	1 年目	荒井 咲稀	1708003
		斉藤 圭佑	1708063
		佐々木 祐香	1708066
年度反省	<p>まず、2018 年度の心理・応用コミュニケーション学科（以下、心コミ）における活動は、1 年目 3 名で協働しあいながら進めることができたと評価したい。1 年目 3 名で学科の先輩もいない中ではあったが、だからこそ他学科の先輩に頼ることや同期の意見に耳を傾けようと試みることができた。そして、各人が異なる得意分野を持っていることで、1 つの説明事に対して 3 人それぞれ 3 つ、またはそれ以上の表現方法を考えられるようになったと思う。</p> <p>また、心コミの学生団体「オリター」と北星ピア・サポーター（以下、ピアサポ）が、どのように共存してお互いが良い影響を及ぼしあっているかを開拓する、初めの 1 年にもなったと思う。2018 年度では、オリターが進行を務める新入生歓迎会で協働して新入生を支援することができたと思う。入学したてという時期に、新入生を支援する存在（団体）が 2 つもあると認知してもらうこと自体に、まず大きな意味があったと思う。ただし、この先どのように展開していくかは課題になるだろう。</p> <p>なお、活動の中で自分たちの弱点も見えてきた 1 年であったようにも思う。例えば、私たちは支援という何が 100 点かわからない問題に対して、すべてを完璧に遂行することはできないと思いながらも、支援するための媒介物（例えば説明会そのものや、それに使うパワーポイントなど）の完成度をできる限り高いものとする傾向があった。この意味はこれから引き継いでいきたいものではある。しかし、立てた理想が高く且つ何が正解かわからない取り組みだからこそ、自分のできたものが本当に「良いもの」であるのか判断がつかず、途方に暮れた事実もある。これに関しては、それぞれの折り合いの付け方があると思う。ピアサポオリターとしての活動だけではなく、今後も自分の制御は必要になるが、個人個人で折り合いの付け方は異なるだろう。</p> <p>また、いつもとは異なる環境で活動をしたときに、様々な意見が自分たちのもとに飛び込んできたときは圧倒されることもあったが、これは経験不足なところも 1 つあったのではないかと思う。初めての説明会・相談会準備で積み重なった不安感がその圧倒される感覚につながったと思う。これについては、自分の制御の仕方がわかっていないことが関わっていると思うので、「良い経験をした」程度に私は収めたいと思う。(A)</p> <p>まずこの 1 年間、私たち 3 人は安定して活動することができたと感じている。それは昨年度のインターン生としての経験を余すところなく活かすことができたという部分が一つの大きな要因になっているのではないかと感じる。加えて、3 人の力をバランスよく活かしながら活動することができたと感じる。3 人それぞれが持つ長所や突出した能力をフルに活用し、短所は互いに補いながら、といった感じで、3 人の力を結集して活動を進めることが、安定したペースで活動を進めることができたと思う次第である。また、誰か一人に仕事が極端に偏った・少なかったといった事態もなかった。スケジューリングも個人の都合等と兼ね合わせながら、3 人全員が揃える時間を出来る限り作ろうと努めたことで、3 人全員で活動したという痕跡を自分たちの中に残すことが出来たのではないかと私は思う。</p>		

	<p>一方で、“より良いもの”を作ろうとするあまり、自分たちの活動の方向性を見失いかけたこともあった。「完璧は存在しない」ということは頭で分かりつつも、完璧に成し遂げようとする意識が強くあったり、自分たちのキャパシティ以上のことをしようとしたりすることも何度かあった。加えて、自分たちの創作物（スライド等）に対してのアドバイスをすべて取り入れる必要はないことも頭では分かっていたつもりではあったが、その取捨選択には非常に苦慮したのではないかと思われる。</p> <p>“学生への支援”という絶対にブレることのないであろう意識や目標は変わらず持ち続け、それを踏まえたうえで自分たちはどんなことをしたいのか（どんな風に・どんな形で支援をしたいのか）、それはどこまでやるべきか・どこまでできるのか、などといった問いを常に持ちながら、自分たちの軸や方向性を築き上げていくことが必要であろう。(B)</p> <p>今年度は、学科説明会や相談会が大きな活動となった。学科説明会では、準備の段階からしっかりと連絡を取り合うことができ、スムーズに準備をすることができたと思う。説明会で用いるスライドや原稿の作成時、どのようにすれば見やすいのか、どのように伝えれば分かりやすいのかということを、考えながら進めたため、常に相手の立場で考える、ピア・サポートに必要な力を鍛えることができたと思う。また、スケジュールリングに関しては互いの状況を把握し、打ち合わせの日時を決めて進めることができた。活動するうえで、互いの状況にある程度把握することはとても重要だと思われる。</p> <p>大きな活動以外では、定例会やカウンターシフト、キックオフ会などピアサポとしての活動に積極的に参加できたと思う。企画書を作成しての学科企画を行うことができなかったが、心コミ学科特有の団体であるオリターと協力体制をとる、という新しい試みができたことはよい経験になったと思う。(C)</p>
<p>次年度展望</p>	<p>2018年度のことを踏まえて、2019年度以降のことを考える。以下は、自分たちの代のこれからと、新しい代のこれからについて述べる。</p> <p>私たちの代、つまり現1年目は1年間を終えて、次の支援を行うための能力が身につけてきていると思う。2019年度は企画を行いたいという声も学科内でも挙がっているため、実現できる時には身についたものを十分発揮する必要があるだろう。しかし、既に行った活動には捕らわれすぎないようにする意識も必要だと思う。新しい活動を開始するときは、テンプレートに思考を流し込むよりも、また真っ白の状態からどういう支援なら相手は喜ぶか、自分だったら喜ぶかを、考えることも大切だと思う。つまり、備わったものの有効活用と、新しい支援を創造する能力がこれからの取り組みになると考える。</p> <p>そして、これから2年目という立場になるときは、1年目に経験したことを新たな1年目に伝える、「仲間の活動をよりよくする支援」を考えなくてはならないと思う。その伝え方には、書面に残すのか接していく中で受け取ってもらうのか、その相手の特性によって合う、合わないが様々あるだろう。何にせよ、これから来る新しい1年目が良い方向に伸びるような支援をする必要がある。</p> <p>また、オリターとの共存のことも導いていくのは次の世代になるのだろうが、引き続き考え続けて、この後に続いてくれる世代にアイディアは残していきたいと思う。新カリキュラムになったことは良いきっかけで、新たにどのような支援をしていくかを考えるチャンスにもなっているのではないだろうか。</p> <p>最後に、2年目になるということに焦点を当てて言えば、自分も成長して新たな1年目の成長も促していくという、1年目とは異なる焦燥感がありそうな1年になりそうだと思う。</p>

	<p>っている。しかし、ピアサポとして、仲間の支援とは何かを考え続けて活動に取り組んでいきたい。(A)</p> <p>自分たちの立ち位置、後輩への引き継ぎという2つの視点から今後の展望を述べていく。</p> <p>まず、自分たちの立ち位置について述べていく。ピアサポ1年目としての活動が終わりを迎えようとしている、これから1年目の後輩も入ってくる。これまでの活動において基本的に私たちは、2年目の方々から見れば“後輩”という立ち位置で、新入生から見れば“学科の先輩”という立ち位置で活動していった。これからはピアサポ2年目として、1年目を先導していく立場（存在）へと、与えられる立場（1年目）から与えていく立場（2年目）へと転換する。私たちがピア・サポート活動をしてきた中で得た経験や知識を、1年目の皆に伝えていかなければならない。そして、1年目が入ってくるということは自分のことだけでなく、1年目のことも考えたり、気にかけていなくてはならない場面も多く出てくると思われる。その際は、“私たち2年目の発言や存在が1年目にどのような影響を与えるか”という部分を常に念頭に置きながら1年目のことを気にかけていきたいと強く思う。1年目がどんなことを考えているのか、どんなことに悩んでいるのか、どんな言葉をかければ伝わるのか…などを考えながらコミュニケーションをとっていききたい。ときに共にピア・サポート活動をする伴走者として、ときに1年目を支援する先導者として、これらからのピア・サポート活動をしていきたい。</p> <p>次に、後輩への引き継ぎについて述べていく。今後、私たちの活動内容等を後輩に引き継ぐことが出てくる。しかし、私たちの活動内容を全て引き継げば良いのかと問われれば、疑問の余地が残る。私たちの活動内容ばかりに目が向いてしまったりすることで、1年目が持つ柔軟さやなどが失われてしまう、これからやっていくことが以前と変わらない故に形骸化してしまうといった危険性も考えられる。“後輩（1年目）に何を引き継ぐのか・何を伝えるのか”を慎重に精査しなければならないと思う次第である。後輩が求めていること・私たちが伝えたいことなどを踏まえた引き継ぎをしていきたいと思う次第である。(B)</p> <p>心理・応用コミュニケーション学科で行う学科説明会は初めてだったが、うまく進めることができたと思われるため、今年私たちが準備期間や本番で感じたことを次の世代にも伝えていきたいと思う。また、今年は出来なかったぶん企画書を作成しての学科企画を行い、学生へのサポートをしていきたいと考える。さらに、その企画書作成・運営を通して、自分の成長にもつなげていきたい。</p> <p>次年度は2年目となりピアサポとしても中心になって活動することになるため、他学科ともしっかりとした連携をとっていききたいと思う。今年度は先輩がいない中で活動してきたため、去年のものに引っ張られることなく、ある意味自由に自分たちで考えることができた。しかし、後輩が入ってくると私たちが作ってきたものを参考にすることもあるだろう。そこで、私たちの経験や考えを押し付けるのではなく、後輩の考えや意見を大事にしつつ活動していきたい。そのためにも、後輩としっかりとコミュニケーションをとり、視野や考えが狭くならないようにしたい。また、私たちの行動が後輩に良い意味で影響するように、今年度以上に責任を持った行動をしていきたいと考える。(C)</p>
--	---

活動名		新入生歓迎会 ～履修の時間～		
開催日時	2019 年 04 月 06 日（土）	16:30～ 17:00	開催場所	C502 教室
対象者	2019 年度北星学園大学 文学部 心理・応用コミュニケーション学科 1 年次		参加人数	98 人
目的	心理・応用コミュニケーション学科独自の団体である、「オリター」が主催する新入生歓迎会に、ピアサポとして協力することで新入生の不安や悩みを解消する機会を増やす。また、ピアサポ 心理・応用コミュニケーション学科の認知度を上げる。			
概要	「説明会」で話した内容のうち、学科に関する説明を 30 分程度にまとめて説明した。また、飽きないような工夫として“履修の手引き”を作成し、配布した。			
準備日程	2018 年 11 月 13 日（火）	顔合わせ		
	2018 年 11 月 20 日（火）	ミーティング		
	2019 年 02 月 13 日（水）	ミーティング		
	2019 年 02 月 21 日（木）	ミーティング		
	2019 年 03 月 14 日（木）	第 1 回リハーサル		
	2019 年 03 月 25 日（月）	第 2 回リハーサル		
反省点	<p>2018 年度はオリターと協働することになり、彼らが主催する新入生歓迎会の「履修の時間」という枠で、履修について短い時間で説明を行った。学科としても、オリターとピアサポがともに活動するのは初めての試みで、常に試行錯誤を繰り返す日々が進んでいった。</p> <p>まず、新入生歓迎会の「履修の時間」について、準備と本番に分けて振り返る。準備を進める際は、オリターの上席と数回にわたりミーティングをしながら、新入生歓迎会の中でどういった時間にすればよいかをすり合わせていった。ただし、こちらもピアサポとしての活動があり、新たに何かを生み出すのは少々難しかったため、「説明会」のパワーポイントや知識を流用して、そこから新たな発展方法を検討していった。しかし、ここで言う「履修」の意味合いをあまり深く定めておかなかったことで、結局履修の時間という短時間で何を伝えたいのかが分からなくなり手詰まりになった瞬間があった。今、原因を考えてみれば、時間がないことへの焦りや新入生歓迎会の準備側の空気になれていなかった事実が、悩みの種になっていたと思う。これは、克服できるものか判断が私にはつかないが、1 つ言えるのは、「説明会」にしてもオリターによる新入生歓迎会にしても、もう少し肩の力を抜く方法を編み出して実行しておくべきだったということである。このように、手詰まりになってしまった後は、デスクの方々やピアサポの同期・先輩方に助けられながら、再出発をした。この時に、3 名で「履修」について改めて考えて、今回は「何を伝えたいのか」を定めることができて、本番に繋げることができた。そして、新たな提供方法として「履修の手引き」を作るに至った。これは、「履修の時間」を円滑に進める面と、新入生の手元に残り必要にする人は後から確認できるという面も備わっており、私</p>			

たちとしても良い収まり方をしたのではないかと私は考えている。このように、「説明会」よりも短い時間で行われたセッションではあったが、だからこそ生まれる問題点やその改善策の試行錯誤は、今後行う企画にも繋げられると考えている。

また、新入生歓迎会では、履修の時間以外にも各セッションのヘルプとして入ることになったため、ヘルプ講習会やリハーサルへ参加した。全 2 回のリハーサルと本番を体験して、前述のようにオリターの空気や実際の動きを目にしていると、私たちが 1 年生だった頃のオリターもこのような苦労を通して素敵な会を作ってくれていたのだなと思うことができた。個人的に、私はオリターとして新入生に関わることは絶対にはないだろうと、つい 2 年前までは思っていた。しかし、オリターが行う支援に携わり支え方の方法も場所が違えばこんなにも違うのかと、実感することができたのは大きな収穫であった。

以上、オリターの新入生歓迎会に参加した振り返りであった。ピアサポの環境以外に飛び込み協働できることは、心コミならではのうまみであると思う。今後も、オリターとの協働の道を考えていくと良いのではないだろうか。そして、結果論にはなるが、協働の第 1 歩にしては今回の活動は良く評価し、且つ新入生に良い時間を提供できたのではないかと考えている。(A)

今年度は、心理・応用コミュニケーション学科独自の団体である“オリター”が主催する新入生歓迎会（以下）を、私たちピアサポも一緒になって作り上げたことで、協働して新入生を迎え入れることが出来た。私たちピアサポの強みである学びへの支援、オリターの強みである大学という新しい環境・友人関係の形成への支援といった、相互の持つ強みが合わさったことで、新入生の不安を解消する・新入生を迎え入れる方法の幅が広がり、質も向上したのではないかと感じる。

しかし、例年とは異なる新たな試みであったため、課題や戸惑いも多く見られた。突出した課題としては、“私たちピアサポの強みをどのように新入生歓迎会内で活かすか”という部分であると感じる。特に第 1 回リハーサルでは、自分たちのスタイルをオリターの新入生歓迎会の雰囲気と合わせようとするあまり、自分たちの持つ強みを活かせなかったことが課題であった。“新入生の不安解消”という目的は共通していたとしても、その過程や方法が異なっていると、協働時にこうした問題が生じてしまうのは仕方のないことではあるかもしれない。「協働する意味は何か」「自分たちの強みはどこまで発揮するのが得策なのか」などのようなことを思考し続けることで、上述した課題の解消に近づけるのかもしれないと思う次第である。課題も多く残ったが、新たな支援の形を創造して発信することができたのは、大きな一歩となったのではないかと切に感じる次第である。

(B)

この心コミ独自の団体であるオリターとの取り組みは初めての試みで、どのように取り組んでいけばよいのか不安であったが、全体的にうまくいったと思われる。ピアサポによる説明会を先に行うため、心コミについての説明を 2 回聞くことになる新入生がどのようにすれば飽きずに聞けるのか、説明会に来なかった学生に対してもわかりやすくするにはどのようにすればよいのか、様々な工夫を 3 人で考えることができた。その結果として、「履修の手引き」を作ることができた。他にも、説明会とのペース配分を考えながら進めなければいけなかったが、その工夫として、履修の時間用に新しくスライドを作るのではなく、説明会で使用したスライドを一部使用し、履修の時間に合わせたスライド

	<p>を作成することができた。</p> <p>初めて他団体と協力しながら進めることになったが、打ち合わせをもう少し綿密に行う必要があったと思われる。今回、スライドを作成するにあたって、どの部分を強く説明すればよいのか、どのような雰囲気(ゲームのように楽しくやるのか、授業のようにするのかなど)で伝えればよいのかなど細かく決めていなかったため、手探りで進めることになった。その分、相手の立場で考える力を鍛えることはできたと思うが、時間が想像以上にかかってしまったため、他団体と協力して活動するときは、細かく決めていくことが大切だと思われる。また、準備の仕方や取り組みへの姿勢などが違う環境に入って活動する場合、協力する団体になんでも合わせるのではなく、合わせる部分と自分たちのぶれてはいけない部分をしっかりと確認し、対応させていくことが必要だということが分かった。</p> <p>今年度初めてオリターと協力して活動したが、新入生の不安や悩みを解消する機会を積極的に作っていきことができるため、来年度以降もぜひ続けていきたいと考える。どのような形で引き継いでいくのかは未定だが、サポートをしっかりとしつつ、より良い形で引き継いでいければと考える。(C)</p>
--	--

経済学部
経済学科

経済学科	歴	氏名	学籍番号
	アドバイザー	伊藤 圭一郎	1503039
		八代 美彩紀	1503163
		多田 朋仁	1503133
	2 年目	一宮 駿斗	1603031
		澤口 詩於理	1603125
		宇野 陽菜	1603160
	1 年目	熊木 黎	1703058
		小國 大樹	1703097
		大沼 恭介	1703106
年度反省	これといった企画を行わなかったが、Twitter での周知活動を行った。		
次年度展望	今後更に Twitter での周知活動を積極的に行い、経済学科の学生の役に立つような情報を届けていく。		

2018 年度（前半）

月	06 月	07 月	08 月	09 月	10 月	11 月
活動記録	合宿					北星ピア・サポーターによる説明会 (以下、説明会)
	Twitter					

2018 年度（後半）

月	12 月	01 月	02 月	03 月	04 月	05 月
活動記録			中間リハーサル	最終リハーサル	北星ピア・サポーター による履修相談会 (以 下、相談会)	

活動名		学科 Twitter の更新		
開催日時	なし	なし	開催場所	なし
対象者	経済学科の学生		フォロワー数	169 人（2019. 4. 25 現在）
目的	学生生活に関する情報の拡散・周知、ピアサポ活動の広報			
概要	学生生活に関する情報の拡散・周知・DM での相談対応			
ツイート内容	2018 年 04 月	説明会の告知		
		相談会の告知		
		前期授業開始・教科書販売の告知		
		履修登録・履修登録修正期間の告知		
	2018 年 05 月	ラーニング・コモンズ シフト案内		
		ピアサポ POST 設置の告知		
	2018 年 06 月	新メンバー加入		
		2 年ゼミ選考の告知		
	2018 年 09 月	地震 安否確認		
	2018 年 11 月	教室変更の告知		
		キックオフ会の様子		
		説明会準備の様子		
	2018 年 12 月	1 年ゼミ選考の告知		
	2019 年 01 月	授業振替日・教室変更の告知		
	2019 年 02 月	中間リハーサル報告		
		Hokusei Student Action の報告		
	2019 年 03 月	単位集計表の公開		
		ぴあのわ 2019 の様子		
		説明会準備の様子		
		メールシステムの変更の告知		
	2019 年 04 月	新元号発表		
		新入生やることリスト		
		ピアサポによる説明会の告知		
反省点	良かった点：Twitter をこまめに更新することができた。 悪かった点：学科全体としては活動することができなかった。 今後の課題として、学科全体で動けるようにする。			

経済学部
経営情報学科

経営情報学科		歴	氏名	学籍番号
		アドバイザー	田端 敦則	1504105
			坪井 裕介	1504117
		2 年目	桐原 悠人	1604033
			高橋 慶次	1604098
			高橋 渚	1604099
		1 年目	川口 紗奈	1704034
			中山 陽菜	1704068
			岡田 麻里衣	1704077
			坂田 海斗	1704088
年度反省	<ul style="list-style-type: none">・ 企画や説明会の準備の動き出しは早いですが、途中で失速してしまった・ LINE 上で質問されても返答する等アクションを起こさない人がいた・ 作業量が偏ってしまう場面があった・ 1 年目の準備がうまくいってないときに、2 年目がうまくサポートできなかった・ 誰が何をやっているのか、どんなことで困っているのかなどの連絡を密にとることが出来なかった・ 学科内で交流する機会が少なかった・ 1 年目と 2 年目での連絡のやり取りが少なかった・ スケジュールやタスクの共有が曖昧だった			
次年度展望	<ul style="list-style-type: none">・ タイムスケジュールをしっかりとする・ 全員が「企画を行うんだ」という意識を持って、意見を出したり自分から情報を得たり共有しようとしたりする・ 先輩へ、同期へ、後輩への連絡をこまめにし、情報共有をしっかりとする・ 交流する機会を作る・ 共有を待つのではなく個人からの確認を行いたい			

2018 年度（前半）

月	06 月	07 月	08 月	09 月	10 月	11 月
活動記録	6 月合宿		ゼミ説明会・相談会			キックオフ会

2018 年度（後半）

月	12 月	01 月	02 月	03 月	04 月	05 月
活動記録			中間リハーサル	最終リハーサル	北星ピア・サポーターによる説明会 北星ピア・サポーターによる履修相談会	

活動名		ゼミ説明会・相談会		
開催日時	2018 年 11 月 06 日 (火)	18:00～ 20:00	開催場所	C 館 5 階 502 教室
	2018 年 11 月 08 日 (木)	18:00～ 20:00		
対象者	経営情報学科 2 年次		参加人数	説明会、相談会併せて 108 人（重複あり）
目的	経営情報学科の学生が各ゼミの学習内容とゼミごとの違いを明確に理解し、ゼミ選択で困らないようにすることである。			
概要	<p>この企画を昨年度実施した際、アンケートで「説明会・相談会が参考になったか」「説明会・相談会を続けてほしいか」という質問をした。その結果「説明会・相談会が参考になった」の回答が 88%、「来年度も説明会・相談会を続けて欲しい」の回答が 97%だったため、今年度も実施すべきだと考えた。</p> <p>内容</p> <p>対象は 2019 年度「専門演習Ⅰ」を履修予定の現経営情報学科の学生とする。昨年度同様、シラバスに掲載されていない各ゼミの具体的な学習内容やゼミの雰囲気などの情報を、(1)説明会と(2)相談会で提供する。</p> <p>(1)説明会（1 時間程度）</p> <p>目的：説明会に参加した学生に各ゼミの雰囲気やゼミで学べること等を理解してもらい、ゼミ学習の意欲を向上させること、各自がゼミを選ぶ際に役立ててもらうことを目的とする。</p> <p>内容：説明会では PowerPoint を用いてゼミ生にゼミ紹介を行ってもらう。主な内容としては、ゼミの活動内容の紹介、各ゼミではどういったことを学べるのか、各ゼミの教室の雰囲気やゼミにはどんな人がいるのかといったことを紹介する。なお、PowerPoint のデータはピアサポに一度提出してもらう。もし、ピアサポからご提案等がある場合は連絡させて頂くことがある。</p> <p>形式：ゼミごとのブースに分かれ、時間を 10 分で区切り、数回に分けて行う。</p> <p>(2)相談会（1 時間程度）</p> <p>目的：ゼミに所属している学生との意見交換や交流を通じて、ゼミ選択の検討に役立ててもらうことを目的とする。</p>			

	<p>内容：説明会で疑問に思ったことなどを、実際に受講しているゼミ生に相談する場とする。 具体的には説明会では理解できなかったことや学生同士だからこそ聞くことができるような質問など、2年次からのゼミに関するさまざまな質問に対してゼミ生に対応してもらう。</p> <p>形式：説明会を行ったブースごとでゼミ生が回答者となり、参加学生からの質問・相談に回答してもらう形式で行う。</p>	
準 備 日 程	2018 年 08 月 23 日	学科打ち合わせ（2年目）：今後の動きの確認
	2018 年 08 月 30 日	学科打ち合わせ（2年目）：企画書草案作成
	2018 年 10 月 04 日	企画書完成
	2018 年 10 月 05 日	韓学科長に企画書送付 10日の学科会議で話してもらうことが決定
	2018 年 10 月 11 日	韓学科長からメールが届く 内容： 10日の会議で全ゼミが企画に参加することが決定 企画について打ち合わせしたい→12日に決定
	2018 年 10 月 12 日	韓学科長と打ち合わせ 内容： 企画実施日及び各日程参加ゼミ決定（11月6日8日） 場所決定 Twitterは宣伝のみ 各ゼミの先生が当日参加するかを韓学科長が確認してくれることが決定
	2018 年 10 月 14 日	経営情報学科全教員にメール送信 内容：企画書・スライド作成願いの確認 ゼミ生への企画の周知、スライド作成の依頼
	2018 年 10 月 17 日	学科打ち合わせ（全員）：今後の動きの確認、タスクの分担
	2018 年 10 月 18 日	T先生からメールが届く 内容：説明会・相談会当日は6日と8日のどちらに参加すればいいかもしくはどちらも参加するのか ゼミがある日に参加してほしいと回答
	2018 年 10 月 19 日	広報用ポスター完成
	2018 年 10 月 22 日	韓学科長へメール送信 内容：当日のプログラム、ポスター
	2018 年 10 月 23 日	経営情報学科全教員にメール送信 内容：当日のプログラム、ポスター ポスターを学内掲示板に掲示
	2018 年 10 月 25 日	学科打ち合わせ（全員）：リハーサル日程決定（11月1日）、タスクの分担、経営情報学科2年次への告知メール文作成
	2018 年 10 月 29 日	経営情報学科2年次へ告知メール送信

	2018 年 10 月 30 日	学科 Twitter で告知ツイート リハーサルで使うもの予約
	2018 年 11 月 01 日	リハーサル実施 配置の確認、当日必要なものの確認
	2018 年 11 月 02 日	経営情報学科全教員にメール送信 内容：当日パソコンを持参できるか
	2018 年 11 月 05 日	T 先生へメール送信 内容：2019 年度ゼミを開講しないとなっているが、説明会・相談会に参加するか否か 参加しないと回答頂く 6 日に参加するゼミの教員へリマインドメール送信 当日使用するものを準備
	2018 年 11 月 06 日	6 日に参加するゼミのゼミ生にリマインドメール送信
	2018 年 11 月 07 日	8 日に参加するゼミの教員・ゼミ生にリマインドメール送信
反 省 点	<ul style="list-style-type: none"> ・企画書作成などの動き出しは早かったが、完成までの時間がかかりすぎて、最終的に本番前にばたばたと準備をしてしまった ・役割分担がしっかりできていた ・企画の開催曜日よかった ・開催時期を 10 月末などもう少し前にすることが出来たら、学生がゼミを選択する時間が増えるかもしれない ・学科長を通しての連携がうまくいった ・本番前日にゼミを開講しないと分かってからの対応がスムーズで良かった ・ポスターのデザインがわかりやすくて良かった ・書いてほしいスライドの内容がざっくりしていて、ゼミごとに少し内容が違っていたので、内容を具体的にしておく ・ゼミのスクリーンの画面がゆらゆらしていた ・プロジェクターの冷却中によって進行が滞った場面があったので、機材を扱う際は注意する ・アンケート用紙の表を説明会、裏を相談会と一体化にしたのは集計しやすく、学生もどちらを書けばいいのかなど困惑しないのでよかった ・ブース形式にしたことによって、学生が多く集まるゼミとあまり集まらないゼミとの差が見えてしまった ・2 つの教室を抑えて頂いたことによって、教室を大きく使うことが出来た 	

経済学部
経済法学科

経済学部経済法学科	歴	氏名	学籍番号
	アドバイザー	高橋 綾香	1509115
	2 年目	千葉 彩子	1609001
		花岡 夏季	1609006
		池田 優歩	1609018
		佐々木 涼羽	1609086
	1 年目	阿部 隆弥	1709001
		近藤 和輝	1709036
		西唯 花	1709064
		奥村 侑大	1709073
		多田 伊吹	1709100
年度反省	<p>1 年目の 5 人が連携する上でかかせないことである、ハウ(報告)・レン(連絡)・ソウ(相談)の不徹底が原因で活動の進捗や企画の遂行に影響したと考えられる。(以下詳細)</p> <p>連絡手段として使っている LINE でのやり取りの頻度、また、返信速度がまずもって足りていなかったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に全員で集まって作業する機会は少なく、それぞれが、進捗状況の報告・連絡の不足があったこと ・疑問が生じた場合、すぐに同期や先輩に相談しなかったこと(コミュニケーション不足)によるものだと考えられる。 ・人数が多い利点を上手く活動に活かすことが出来なかった。 ・直近では、報告書提出日当日になってから報告書の未記載に気が付くといったミスが生じた。また学科の活動で動き出すのがかなり遅いと感じた。そのため、民法Ⅰ勉強会・説明会は、スライド等資料を作ることに集中してしまい、宣伝にかかる時間が不十分だった。特に民法Ⅰ勉強会に関しては前日の宣伝(講義内口頭のみ)になってしまった。また説明会も結果的に宣伝回数が足りていなかったと思う。 		
次年度展望	<p>個人プレーは前提条件として、チームワークを構築していくことが大切だと改めて実感させられたので今後の課題としたい。“当たり前”や“常識”だと思っていることが人によってはそうでなかったりする場合があるので、考え方や価値観の違いで生じる溝を実際に会った時・会話をした時に押し付けたり、察してほしい空気感を出したりせずちゃんと「言葉」で自身の考えを主張することが目標だ。そのためには、新しい意見を出しやすい空気づくりをする。ミーティングを行うときは意見を出しにくい重い空気感が強まっていると感じることがあるので、みんなが笑顔を作ることで、受容するスタンスを表明する。また、新しく加入してくるピアサポに対しても積極的に支援や指導をしていきたい。</p>		

2018 年度（前半）

月	06 月	07 月	08 月	09 月	10 月	11 月
活動記録						民法 I 担当教授柄への協力依頼 北星ピア・サポーターによる説明会準備

2018 年度（後半）

月	12 月	01 月	02 月	03 月	04 月	05 月
活動記録	企画書提出 過去問の解答作成⇒添削依頼	勉強会リハーサル 民法 I〔民法総則・物権〕勉強会	中間リハーサル	最終リハーサル	説明会 北星ピア・サポーターによる履修相談会	

活動名		民法Ⅰ〔民法総則・物権〕勉強会		
開催日時	2019 年 01 月 10 日（木）	5 講	開催場所	A 館 4 階 A403 教室
対象者	民法Ⅰ〔民法総則・物権〕履修者		参加人数	20 人
目的	民法Ⅰ〔民法総則・物権〕履修者（以下、履修者）に授業内容を復習する機会として 2017 年度の試験問題を実際にその場で解いてもらい、その解説を行うことで試験の論述方法に対する理解度を深め、履修者の試験への不安の解消を目的とする。			
概要	2017 年度試験問題の模範解答を作成し、科目担当者である篠田教授に添削指導をいただき、その試験問題を使用して履修者に対して試験対策となるよう解説を行う。問題の事例が変わった場合においても、対応できるように論述の過程と方法について解説を行い、試験に対する不安を解消し、各自が授業内容の復習をするための足掛かりとする。本講義は 1 年次の履修者が多いため、1 年次の履修状況を考慮したうえで 5 講目に行った。分かりやすく内容を伝えるためスクリーンとプロジェクターを使用し、PowerPoint による解説を行った。			
準備日程	2018 年 11 月 19 日	民法Ⅰ担当教授の S 先生への協力依頼		
	2018 年 12 月 10 日	企画書提出		
	2018 年 12 月 20 日	民法Ⅰ過去問解答完成、添削の依頼		
	2019 年 01 月 07 日	機材チェック、リハーサル		
	2019 年 01 月 09 日	Active! Mail と Twitter、ポスターでの民法Ⅰ履修者への告知		
反省点	まず全体を通してだが、プロジェクトの始動時期が遅く、企画書作成に時間を掛け過ぎてしまった結果、日数不足に繋がり、すべての作業が遅れて完成した状態での練習時間が圧倒的に足りなかった。また、宣伝に関しても自分たちの準備不足で機会がなくなり、前日のみとなってしまった。			
	次に企画書を作成して様々な作業に取り掛かってからのことだが、大学外での連絡手段として LINE を使用していたのだが、1 人が情報を発信してもそれに対する応答に時間が掛かり過ぎてその日の内に情報を共有する時が少なかった。そのことが、役割分担の悪化に繋がった。さらに練習不足が招いてしまったことだが、履修者に分かりやすく教えるという意識が遠のいてしまい、当日は淡々と台本を読むという結果になってしまった。これは勉強会終了後に先輩から指摘されたことだが、全体的に雰囲気が悪かったため、BGM をかけるなどの工夫があっても良かったと思われる。			
	良かった点としては、参加者が席に着く前に配布資料を取って教室前方の席に着くように案内したことで参加者が各々の場所に座ることを防げた。また、解説に使用した PowerPoint のスライドは簡潔にまとまっており、一目で見やすかった。本番が始まった後は大学職員の指摘を受けて途中からではあるものの参加者が問題を解いている際に見回り、何人かに問題を解くコツを教えることができた。進行にかかる時間をタイムキーパー			

	<p>が管理していたので、設定したタイムスケジュール通りに進行して勉強会を終了することができた。後日、勉強会に参加できなかった学生に対して Twitter の DM 機能で分からない点の対応をした。</p>
--	---

社会福祉学部 福祉計画学科

社会福祉学部福祉計画学科	歴	氏名	学籍番号
	アドバイザー	角田 梨奈	1505029
		川股 詩織	1505037
		森脇 光海	1505051
		大須賀 彩花	1505066
		佐藤 桃代	1505080
	2 年目	青木 優衣	1605006
		平川 翠	1605021
		篠村 榛花	1605081
		竹井 健人	1605089
	1 年目	上関 葵	1705017
		佐藤 愛奈	1705056
		横田 萌奈	1705085
年度反省	<ul style="list-style-type: none"> ● 大学生活の中で自分が成長できる 1 番の良い経験となった。 ● 1 年目がやる気になってくれた。 ● 理解力不足を感じたため、もっとピアサポや学科について学んでいきたいと思った。 ● 個人作業になってしまうところがあった。 ● チームプレーを意識したい。 		
次年度展望	<ul style="list-style-type: none"> ● もっと積極的に参加できるようにしたい。 ● また一人一人がピアサポであるという意識をしっかりと持ち活動していきたい。 ● 計画だからこそできる企画をぜひ考えてみてほしい。 		

2018 年度（前半）

月	06 月	07 月	08 月	09 月	10 月	11 月
活動記録					研修 星学祭	キックオフ会 北星ピア・サポーター による説明会準備

2018 年度（後半）

月	12 月	01 月	02 月	03 月	04 月	05 月
活動記録			中間リハーサル	最終リハーサル	説明会 北星ピア・サポーター による履修相談会	

活動名	なし
-----	----

社会福祉学部 福祉臨床学科

社会福祉学部福祉臨床学科		歴	氏名	学籍番号
		アドバイザー	大友 遼平	1406061
			米田 梨紗	1506093
		2 年目	小野寺 彩夏	1606058
			鷺見 桃子	1606069
		1 年目	眞鍋 航平	1706032
			森津 有紗	1706041
			沼口 亜美	1706055
年度反省	良かった点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 年目、2 年目での交流がしっかりできていた。 ・ 良い雰囲気です 1 年間活動できた。 ・ 1 年目間での情報共有や連携が取れていた。 		
	反省点			
次年度展望	良かった点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学科の企画ができなかった。 ・ 学科長との顔合わせの回数が少なかった。 ・ 合宿やキックオフ会、クリスマス会など北星ピア・サポーター（以下、ピアサポ）の行事で全員揃うことができなかった。 		
	反省点			
次年度展望	良かった点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度、学科の企画ができなかったため次年度は何か新しい企画をしたい。 ・ 学科長との連絡を必要に応じてとる。 ・ 学科内、ピアサポ内での交流をしっかりしたい。 ・ できる限り全員で行事に参加することで関係を深める。 ・ 相談しやすい関係づくりを構築する。 		
	反省点			

2018 年度（前半）

月	06 月	07 月	08 月	09 月	10 月	11 月
活動記録	合宿				ピアサポ研修 プログラム 星学祭	キックオフ会 北星ピア・サポ ーターによる説 明会準備開始

2018 年度（後半）

月	12 月	01 月	02 月	03 月	04 月	05 月
活動記録						
			中間リハーサル	最終リハーサル	説明会 北星ピア・サポ ーターによる履 修相談会	

活動名	なし
-----	----

短期大学部学部 英文学科

短期大学部英文学科		歴	氏名	学籍番号
		アドバイザー	菱沼 しおり	1571023
			山川 玖莉亜	1571135
			森元 楓	1671068
			米澤 麻悠	1671137
		2 年目	藤井 里帆	1771005
			岩上 莉子	1771030
			金内 愛梨	1771035
			今部 桃子	1771048
		1 年目	濱田 彩花	1871014
			管沢 花	1871036
			長江 莉紗	1871066
年度反省	最初の顔合わせ以降学科全員で集まることがなく学年を超えたつながりができにくかった。集まりもなかったためか自分たちがやりたい企画についても話すことができなかった。前期の活動は主に北星ピア・サポーター（以下、ピアサポ）全体のイベントや定例会への出席のみで、モチベーションが高まらなかった。定例会やピアサポ全体のイベントの参加率は良かった。カウンターシフトについても自分たちの業務をしっかりとこなした。集まることは少なかったが学科の仲はとても良い。1 年目内で何かわからないことがあった時には先輩に相談していた。			
次年度展望	前期のうちに1年目のモチベーションを高めることとピアサポとしての自覚を持てることを目的として積極的に学科企画を行う。2 年目の歩み寄りと一年目の積極性どちらも大切に。ピアサポの活動に全員が積極的に参加する。来年度は今年度の反省を活かし、月に一回のペースで昼休みに学科で集まる。その際は集まる前に事前に議題を確認するように。また、こまめに連絡を取り合いながら仲良く活動していきたい。			

2018 年度（前半）

月	06 月	07 月	08 月	09 月	10 月	11 月
活動記録	合宿				大学祭	北星ピア・サポーターによる説明会 キックオフ会 研修プログラム

2018 年度（後半）

月	12 月	01 月	02 月	03 月	04 月	05 月
活動記録						
			中間リハーサル ホームカミングデー Student Action	最終リハーサル	北星ピア・サポーターによる履修相談会	

活動名	なし
-----	----

短期大学部学部 生活創造学科

短期大学部生活創造学科	歴	氏名	学籍番号
	アドバイザー	佐野 純理菜	1606089
	2 年目	池永 美咲	1772020
		武田 莉奈	1772076
	1 年目	佐々木 美聡	1872069
		中村 紗矢香	1872053
		畑 美雪	1872011
年度反省	<p>11 月に参加した 1 年目研修で身に着けた知識を、新入生歓迎会や履修相談会の準備で活かすことができた。</p> <p>学科間での連携がうまく取れていなかったため、昨年度の引継ぎが不十分になってしまった。そのため活動が滞ってしまうことが多かった。</p> <p>1 年目同士では、全員が毎週の定例会に出席できていたこともあり、定期的に情報共有をすることができた。</p>		
次年度展望	<p>研修や合宿などに参加し、知識と経験を身につける。</p> <p>作成した資料やデータはしっかりと引継ぎ、先輩として後輩へのアドバイスや声掛けを積極的に行う。</p> <p>学科内の情報共有は重要であるため、定期的な顔合わせや LINE・メールなどの連絡手段を用いて、細かに意見交換や現状報告を行う。</p> <p>履修相談会や宿泊オリエンテーションを通し、大学での授業や時間割作成に不安・疑問を抱えている学生が多いと感じた。</p> <p>そのため生活創造学科では現在、他学科のような「北星ピア・サポーターによる説明会」ではなく新入生歓迎会を行っているが、他学科と同じように説明会を行い、新入生が大学への理解を深める場を作っても良いのではないかという意見が挙がった。短期大学部英文学科のように、レクリエーションと説明会をあわせて行う形式も検討したい。</p>		

2018 年度（前半）

月	06 月	07 月	08 月	09 月	10 月	11 月
活動記録	任命式 合宿				新入生歓迎会準備	1 年目研修 キックオフ会

2018 年度（後半）

月	12 月	01 月	02 月	03 月	04 月	05 月
活動記録				最終リハーサル	新入生歓迎会～エンジェルプロジェクト～ 北星ピア・サポーターによる履修相談会 宿泊オリエンテーション	活動反省 新メンバー顔合わせ

活動名	なし
-----	----

オリエンテーション期間

北星ピア・サポーターによる 説明会

活動名		北星ピア・サポーターによる説明会	
開催日時	2019 年 04 月 02 日 (火) 13 : 30-16 : 00 生活創造学科を除く全学科	開催場所	英文 C700 心コミ A703 経済 C400 経情 C500 経法 C502 計画 A401 臨床 A501 心理 A705 短英 A603
対象者	2019 年度 北星学園大学 1 年次		
目的	大学に入学する 1 年次の不安や疑問を学生目線から解消していく。		
概要	各学科、教室にわかれ大学のシステムや各学科の特徴などについて 1 時間 30 分ほどで説明していく。ただし、生活創造学科のみ後日行う新入生歓迎会の中で説明するため、北星ピア・サポーターによる説明会は行わない。		

参加人数内訳	
英文	85 人
心コミ	81 人
経済	91 人
経情	82 人
経法	82 人
計画	57 人
臨床	53 人
心理	70 人
短英	84 人

準備期間の動き（文学部 英文学科）

月	10 月	11 月	12 月	01 月	02 月	03 月	04 月
活動記録（日付）			打ち合わせ		打ち合わせ	打ち合わせ	北星ピア・サポーターによる説明会 北星ピア・サポーターによる相談会

準備期間の動き（文学部 心理・応用コミュニケーション学科）

月	10 月	11 月	12 月	01 月	02 月	03 月	04 月
活動記録（日付）			学科打ち合わせ(6, 13, 20) 学科長との打ち合わせ(19)	学科打ち合わせ(10, 23, 31)	学科打ち合わせ(8, 13, 16, 25) K 先生との打ち合わせ(12) プレゼン・トレーニング(12)	学科打ち合わせ(4, 12, 20, 21, 28) 学科長への最終確認(22)	北星ピア・サポーターによる説明会(2)

準備期間の動き（経済学部 経済学科）

月	10 月	11 月	12 月	01 月	02 月	03 月	04 月
活動記録（日付）		キックオフ会(10)			中 間 リ ハ(19, 20) 学科リハ(4) 学科リハ(12) 学科リハ(13) 毎週月曜日、土曜日集まり	学科長との打ち合わせ(11) 最 終 リ ハ(18, 19) 学科リハ(16)	北星ピア・サポーターによる説明会(2)
11 月から 1 月までは、毎週月曜日に集まった。							
2 月からは、毎週月曜日と土曜日に集まった。		毎週月曜日集まり					

準備期間の動き（経済学部 経営情報学科）

月	10 月	11 月	12 月	01 月	02 月	03 月	04 月
活動記録（日付）		1 年目全員ミーティング (15) 紗奈、麻里衣ミーティング (29)	紗奈、麻里衣ミーティング (6) 紗奈、麻里衣、海斗ミーティング (13) 麻里衣、海斗ミーティング (20) 麻里衣、海斗、紗奈ミーティング (21)		紗奈、麻里衣ミーティング (4) 1 年目、通話ミーティング (8) 麻里衣、海斗、陽菜ミーティング (15) 中間リハーサル (19-20)	麻里衣、海斗、陽菜ミーティング (16) 最終リハーサル (18-19) 紗奈、麻里衣ミーティング (22) 紗奈、陽菜ミーティング (26) 紗奈、麻里衣、陽菜リハーサル (27)	北星ピア・サポーターによる説明会(2)

準備期間の動き（経済学部 経済法学科）

月	10 月	11 月	12 月	01 月	02 月	03 月	04 月
活動記録（日付）					スライド作成 (4) (15) 練習(18) 中間リハ (19) (20)	学科長面談 (13) スライド見直し(16) 最終リハ (18) (19) プレゼントレー ニング (27) 最終調整(29)	北星ピア・サポーターによる説明会(2)

準備期間の動き（社会福祉学部 福祉計画学科）

月	10 月	11 月	12 月	01 月	02 月	03 月	04 月
活動記録（日付）			学科話し合い（3）	学科話し合い（31）	学科話し合い（14） 中間リハ（20）	学科話し合い（4） 学科話し合い（12） 教室練習（15） 最終リハ（19） 学科話し合い（22） 教室練習（27）	説明会・相談 会の告知（1） 北星ピア・サ ポーターによ る説明会（2）

準備期間の動き（社会福祉学部 福祉臨床学科）

月	10 月	11 月	12 月	01 月	02 月	03 月	04 月
活動記録（日付）		第1回打ち合わせ （5） キックオフ会（10）	打ち合わせ	打ち合わせ	学科リハ（12） 学科リハ（18） 中間リハ（19） 打ち合わせ	プレトレ（11） 学科リハ（17） 最終リハ（19） 学科長と打ち 合わせ（28） 打ち合わせ	最終確認（1） 北星ピア・サ ポーターによ る説明会（2）

※打ち合わせはかなりの回数を行ったため日付は省略します。

準備期間の動き（社会福祉学部 福祉心理学科）

月	10 月	11 月	12 月	01 月	02 月	03 月	04 月
活動記録（日付）	新カリキュ ラム勉強会	キックオフ 会	柴田学科長 との打ち合 わせ	学科内での 打ち合わせ （21. 25）	学科リハ① （15） 中間リハ 学科内での 打ち合わせ （3. 15.）	学科リハ②（16） 最終リハ プレトレ（4） 西山学科長との 打ち合わせ 学科内での打ち 合 わ せ （1. 12. 16. 22. 26）	北星ピア・サ ポーターによ る説明会 （2） 学科内での 打ち合わせ （1）

準備期間の動き

月	10 月	11 月	12 月	01 月	02 月	03 月	04 月
活動記録（日付）		キックオフ会（10）	会議（21）	会議（7） 会議（30）	長江留学 （2/2～ 3/2） 会 議 （7, 12, 21, 22） 中間リハーサル （19, 20）	会 議 （2, 5, 8, 12, 16, 28, 31） 最終リハーサル（18, 19）	練習（1） 北星ピア・ サポーター による説明 会（2）

学科別反省

<文学部 英文学科>

<取り組めた点>

- 説明会直前で内容変更などの対応ができた。
- 3人とも忙しいスケジュールリングながら当日発表ができた。

<改善すべき点>

- こまめに進捗確認などをしておくべきだった。
- 情報共有不足で、誰がどこまで進めているのかがわからなかった。
- もっと早い段階から2年目が準備に関与するべきだった。
- 当日の予行演習不足だった。
- タスクの分配・進捗の報告が不足していた。

<文学部 心理・応用コミュニケーション学科>

- 事前に決めた段取り通りに進められ、全体の流れから見ても計画的であったと言える
- 突然の変更や目立ったトラブルもなく、落ち着いて物事を進められた
- スライドや原稿などで細かな部分のミスが多かった
- 最初の時点で作業を分担する時に、作業量に少し偏りがあった
- 自分ができないと判断した時に、抱え込まずに上手く他の人に作業を割り振ることが出来た
- 大学全体に関するスライド作成において、一人で先に進めすぎた部分があった
- こまめに報告・連絡・相談が出来ていた
- プレゼントレーニングを早い段階（2/11、中間リハーサル前）で出来たが、ペースが少し早かった
- 後半になってくると、修正箇所がなかなか見つからなかったが、新しい試み（小道具の作成・使用）が出来た
- スライド作成や発表姿勢などにおいて、インターン生の時に学んだことを生かすことができた
- 小道具を効果的に用いることが出来た
- 後半（中間リハ以降）のモチベーションが不安定（下がり気味）だった
- Google カレンダーを上手く用いてスケジュールの共有が出来た
- 中間・最終リハ共に目立った問題は見られなかった
- 他人の意見に柔軟に対応しようとしていたが、方向性を見失いかけていた
- パソコン操作、当日の会場設営における技術的な問題も特に見られなかった
- 新カリキュラムについてしっかり勉強することが出来た
- 緊張することなく、本番を楽しむことが出来た
- 発表開始前や休憩時間等に音楽（BGM）を用いたことで、新入生の緊張を緩和できたと思われる
- 配布資料を、教卓上に置いておくのを忘れた

<経済学部 経済学科>

<準備段階>

良かった点：早くから役割分担して準備に臨めた。情報共有や日程調整がしっかりとできた。

悪かった点：メールマナー。他学科と協力して作業ができなかった。

<説明会当日>

良かった点：新入生も参加する形で発表を行えたため、単調にならずにできてよかった。

全体通してスムーズに対応することができた。

悪かった点：配布資料に誤りがあった。インタビューが少しグダグダになってしまった。

〈アンケート結果より〉

良かった点：説明がわかりやすかったと答えた新入生が 9 割以上いた。

悪かった点：新入生は説明会に時間割の作り方を知りたくて参加した人が 8 割弱いたが、説明会で時間割の作り方にあまり触れなかったため新入生のニーズに応えることができなかった。

〈経済学部 経営情報学科〉

〈良かった点〉

- 新入生がまじめに聞いてくれたのは説明会の内容を濃いものにしたからではないか
- 始まる前の音楽は教室内に入りやすい雰囲気づくりになった
- 話すときの声の調子や大きさは聞きやすかった
- 説明会終了後に自ら積極的に話しかけに行けたのは良かった

〈悪かった点〉

- どれが最新のファイルかわからなかった
- タスク表を作成したけど、全員が確認することをしていなかったかもしれない
- 台本に時間をとるタイミングを書くとう良かった
- 説明ばかりではなく、息抜きできるような内容も含められたらよかった
- 自分たちの知識が曖昧な部分があった
- 練習不足が目立つ（スライドの切替、台本を読むスピード等）
- 一年生が分かりづらい単語のケアが十分ではなかった
- 全体的にスライド、台本ともに確認不足が目立った

〈経済学部 経済法学科〉

まず事前準備の段階において、メンバー相互間でこまめに連絡を取り合うことができていなかったため、役割分担や作業でのすれ違いが起こってしまった。人数が多いからということもあるが LINE 等であればそう難しいことではなかったと思われる。また練習の回数が少なかったことで、プレゼントレーニングにおいて指摘を受けるまでは説明者の交代や資料配布など細かい部分の段取りをしっかりと決めていなかった。

前日のオリエンテーションが長時間行われていることや、説明会終了後に重要な提出物があり、期限が迫っていたため説明会自体を短めにする目的が念頭にあった。本番では他学科に比べてもかなりはやく説明会が終了したがスケジュール通りできたと感じている。結果として、説明会アンケートで説明会の時間が「ちょうどよかった」と答えた 1 年次が 95% もいた。また、前日の復習をメインとし、提出物や今後に関わる重要なポイントを押さえて説明することによって、1 年次の負担を減らし端的な説明ができたと思う。しかし、前半の説明のペースが想定よりも早くなってしまったことで、1 年次には速くてわかりにくい説明になってしまったと思われる。

計画の段階で当日のオリエンテーション日程を意識して計画を立てていたため、想定していた 1 年次の提出物の締め切りで慌ただしくなるといった事態は回避できた。また、かなりの時間を終了後の個別質問にあてることができたため、不安を抱えている 1 年次に対して丁寧に対応することができたと思われる。今後北星ピア・サポーターに相談したいかという説明会アンケートの問いに、77% の 1 年次が「相談したいと思った」と回答してくれた。当日に説明している人の台本をめくるようサポートするように変更するなど柔軟に対応できた。プレゼントレーニングで練習したこともあって当日の連携は良かった。

<社会福祉学部 福祉計画学科>

<準備段階>

- 学科のメンバー同士、なかなか集まって作業できなかったため、メンバー内で仕事量に偏りが出た。またスライドと台本の完成がギリギリになってしまった。
- 当日を想定した教室での練習も時間が足りず満足にできなかった。

<当日>

- 読むスピードも速すぎず、遅すぎず聞きやすい話し方を意識し、スムーズに進行することができた。
- 新入生のほうを見て話ができしたが、ただ台本を読んでいるだけになってしまった部分もあった。
- 始まる前、休憩中に新入生から見えない位置にいた。
- 休憩のアナウンスに締めりがなかったため休憩の入りが曖昧になったり、履修ガイドを開いたり、メモをとったりする時間を考慮できなかったことから、事前に最終確認する時間をしっかり設けるべきだった。
- 思っていたよりもたくさんの新入生が来てくれた。また一緒に履修ガイド開いたり、メモをとったりしてくれる人が多かった。
- 真剣に聞いている人が多く、寝ていたり退屈そうにしたりしている人が見受けられず、最後まで興味を持たせる説明会にできていた。
- なんとか3人で説明会をやることができた。達成感があった。

<社会福祉学部 福祉臨床学科>

<準備段階>

- 良かった点
 - 議事録の作成したことによって、進捗状況を把握しやすかった。
 - 準備段階であらゆるトラブル（有線マイク切れる、画面がずれる、RGB ケーブルの接触トラブル、無線マイクの充電切れ）を経験できたことで対処法が見つかり、当日落ち着いて進められた。
 - スライドの担当を分けて、1人に偏ることなく全員が均等に作業できた。
 - パソコンにLINEをインストールしていたためデータでの情報共有がしやすかった。
 - 自分ができないことを誰かが代わりにやってフォローできた。
 - 作業場所を工夫しながら準備できた。
 - (例)Tutorial Support Area3→集中して作業できる
 - Relaxation and Collaboration Area（オレンジ）→周りの意見がすぐに聞ける
 - 中間リハーサルや最終リハーサル後、他学科のスライドの作り方やアニメーションのつけ方を参考に内容を詰めていった。
 - 本番で使用する教室を借りて色味の確認ができ、その場ですぐに修正できた。
 - Presentation and Seminar Areaのスライドの色味が本番の教室と似ていて参考になった。
- 反省点
 - 役割分担をしたことによって、スライドの統一感がばらばらだったため、初期段階でテンプレを決めておくとうよかった。（文字の大きさ、枠のデザイン、色）
 - 1年目と2年目間の情報共有をもっとしっかりするべきだった。
 - 作業がよりスムーズに進めるために、中間リハーサル前から他学科と意見交換したり、他学科のスライドを見ておくことが必要だった。
 - 学科のリハーサルを他学科の人に見てもらい、より多くの意見を聞くべきだった。
 - 作業内容を明確にするために、個人のスケジュールをそれぞれが把握しておくことが必要だった。

- 発表練習のために本番で使う教室を借りたにも関わらず、スライドの修正に時間がかかり、練習ができなかった。
- 学科長にスライドや台本の確認をお願いするのが遅かった（本番4日前）。
- 時間割テンプレートに、単位数の確認欄をつけると良かった。
- 配布資料をもっと早く精査すべきだった。

<当日>

● 良かった点

- 新入生が領いてくれたり、履修ガイドを積極的に開いてくれたりと反応があって良かった。
- 履修ガイドを開いてもらう際に、時間を十分にとったので新入生が説明についてこれた。
- フロアを見ながら、焦ることなく堂々とできた。
- 休憩時間に空気を入れかえをした。
- 「相談会に来る前に時間割を作ってきてください」のアナウンスを入れたことで、履修相談会がスムーズに進んだ。
- 説明会が終わった後、1年生が残って時間割を作ってくれたので履修相談会の負担が減った。
- 話す人をかえるときに自己紹介の追加情報を入れたことによって、切り替えのポイントになった。
- 休憩時間を黒板に大きく書いたことによって、再開の時間がわかりやすかった。

● 反省点

- 最初に来た新入生が後方の席に座ってしまい、あとから来た新入生が前に座りづらくなってしまったので、「前から詰めて座ってください」のアナウンスを最初からするべきだった。
- 説明会の後に残って時間割を作成している新入生に対して1回ではなく、何回か声かけをした方が新入生が質問しやすくなったのではないかな。
- 精神保健福祉士とスクールソーシャルワーカーは社会福祉士の科目をとらなければいけないということを説明会の内容に入れるとよかった。
- 説明会の中で福祉臨床学科の魅力として資格を強調しすぎた余りに、紹介した資格すべてを取れると勘違いする新入生が増えてしまった可能性がある。
- スライドの切り替えのタイミングが合わない部分があったので、もう少し発表練習が必要だった。
- スライドに誤字があったので、もっと精査すべきだった。
- アンケートの回収場所が曖昧だったので、アンケートの回収場所として回収ボックスの設置をすべきだった。
- 目指す資格によって、新入生が履修できる大学共通科目の単位数が変わるので、事前に新入生に伝えておくべきだった。
- 大学共通科目の6分野から2単位ずつ履修することが優先というのを強調してしまったので、他の方法もあることを説明するべきだった。

<社会福祉学部 福祉心理学科>

2人という少人数にもかかわらず、お互いを気遣い、良い雰囲気の中で作業を行うことができた。また、早いうちから計画的に作業を行えたため、完成度を上げることができた。しかし、作業がうまく分担できず、内容が重複してしまうなどで、細かい部分の修正が出来なかった。そのため、より細かい途中経過の共有などが、次年度への課題となった。また中間リハーサルでの指摘が多数あり、最終リハーサルまでに大幅な改善が必要となった。そのため1年目内で抱え込まず、早い時期からプレゼントレーニングや、先輩・学習サポートデスクの方からアドバイスを求めるべきであった。

<短期大学部 英文学科>

- 留学に行っているメンバーもいたが、その間も残りのメンバーで準備を進めることができた
- 長江と管沢がよく遅刻した
- 集合時間を守ろうという意識がなく、甘えてしまった
- 日程を合わせることができた
- データ共有がうまくできておらず、多々混乱した
- リハーサルをするのが遅かった。アイスブレイクを行ったことはよかったが、ルール説明がうまくできていない部分があった
- 作業の分担に偏りがあった
- その日に何をしたかを記録してなかった
- プレゼントレーニングをするべきだった
- 先輩との協力がほとんどなかった
- 「新たな環境での不安を解消し、「自分の」大学生活をイメージしてもらう」という目的を12月に設定し、それをもとに準備を進められた

全体反省

<三役>

説明会の準備段階では、どの学科も比較的早く動けていたと思われる。しかし、準備期間での全学科に関わる情報共有が少し甘いところがあった。配布資料の印刷に関して、締切直前に何度も変更の連絡などを行ってしまった。また、アンケートについても、直前に連絡をしてしまったため、三役での確認不足も目立ち、各学科へしっかりと伝わらなかった部分があった。各学科で余った配布資料の回収方法について決めていないところがあり、最後バタバタしてしまったところがあった。

当日の流れを決めて連絡するのも直前になってしまったので、もう少し早く伝えることができればよいと思う。しかし、当日は大きなトラブルもなく進めることができたと思われる。

<文学部 英文学科>

取り組めた点

- 中間リハ、最終リハともに、活発な意見交換が行えた。
- 学科リハーサルをしている学科が多かった。そのおかげか、中間リハからクオリティーの高いものを見せてもらえた。
- 全学科、当日の大きなトラブルもなくプログラムを行うことができた。

改善すべき点

- 他の学科の進捗状況をもっと把握出来たらよかった。2月に中間リハ、3月に最終リハがあるが、それまでピアサポで集まる機会が少ないため、ほかの学科がどこまで進んでいるのかを知ることができなかった。
- 他学科との交わりが昨年度よりも少なく感じた。

<文学部 心理・応用コミュニケーション学科>

- 本番当日のことを、本番当日に考えた部分があった
- 余裕があった時に、本番のことをもう少し考えれば良かった
- 互いに他学科のことを気かけながら作業を行うことが出来れば良かった
- 準備期間に、もう少しこまめに情報共有をすることが出来れば良かった

<経済学部 経済学科>

良かった点：総じて雰囲気が良かったため、作業を計画通り早めに進めることができた。

- 集まりの最初に共通の話題でお互いに話しやすい雰囲気を作るようにしていた。
- キックオフ会直後から毎週集まる曜日を定めるなど、期限までに各自で作業を終わらせておくように計画を立てた。
- 人前で話すことが苦手だったが、本番を想定した練習を重ねることで徐々に慣れていくことができた。
- 学科長の前で発表をすることで、情報の正確性や発表の質を向上させることができた。

悪かった点：他学科との交流が少なく、情報共有ができなかった。

- キックオフ会前のイベントから積極的に交流しておくことで、相談しやすい関係を作ると良いだろう。

<経済学部 経営情報学科>

- 履修相談会と説明会の順番を逆にしたほうが新入生が理解しやすいのではないかと感じた。
- 教職の詳細を熟知している人間が少なかったため、ピアサポが教職について学ぶ機会が必要だと思った。

- 短期大学部英文学科の説明会で履修についてより詳しい説明を加えれば、履修相談会に来る人数を減らせたのではないかと思った。
- 履修相談当日、大人数の学生を待たせてしまうこともあったため、1人が相談を受ける人数を増やして相談を行えばより効率的にできたのではないかと感じた。(1対3、4人にするなど)

<経済学部 経済法学科>

1年目は説明会の全体像を掴めなかったために要領が分からず、自分たちの意志というよりは先輩方のアドバイスをもとに動くことが多かったため、リハーサルの前に大体で良いので、三役に本番までの具体的な動きを動画にして説明してもらうなどの補助が欲しかった。リハーサルでの質疑応答の時間で、せっかくリアクションペーパーがあるのに全体で共有する必要のない細かい改善点や個人的に伝えたいことまでも全体で共有している人もいたので、タイムスケジュール通り進行し、終了時間が延長しないためにも個人的に伝えたことはリアクションペーパーに書いて全体で共有することを最小限にすべきだと思った。当日では学科によって集まりが悪いところもあったので、場の雰囲気づくりを考えても集合時間を厳守してほしいと思った。

<社会福祉学部 福祉計画学科>

- 事前科目について疑問に思っている一年生が多かったように感じたので、その内容を厚くしてもよかった。
- この説明会があったおかげで先輩方とたくさん話せた。

<社会福祉学部 福祉臨床学科>

- アンケートについて改善する余地がある。

例) 質問7で「例で〇〇について」と書くと限定される→「詳しく書いてください」と変えるとよい。

<社会福祉学部 福祉心理学科>

横のつながりを大切にすることができた。よいアイディアなどを積極的に他学科から吸収したり、他学科に提供したりすることで、他学科と協力して説明会を行うことができたと感じた。一方で、学科ごとのモチベーションの差が顕著に表れてしまったと感じた。学科ごとのつながりも、モチベーションの高いところ同士ばかりつながりあっている印象を受けた。そのため、全体のモチベーションを上げることができていなかった。このことから今後の課題として、学科間で鼓舞しあいながら、より協力して説明会を創り上げていくことが挙げられた。

<短期大学部 英文学科>

全体を見ると集まりのいい学科とそうでない学科があった。集まりがいい学科は事前に打ち合わせをして集まる日程を決めていた。しかし、人数などの関係で集まらない学科も個人で作業を分担して集まった時にやることを減らす工夫なども見られた。リーダーのような存在がいたほうがスムーズに準備が進んでいるように見えた。最後の最後まで工夫しようとしていた学科があった。情報の共有がうまくいっていない学科もあった。報告・連絡・相談をしたからというのが逆に言い訳になっていたように見えた。連絡手段を考えるべきだった。プレゼントレーニングを受けた学科は劇的に変化していた。この準備を通して学科を超えたつながりは強くなったが、準備期間に目立って交流していた人は少なかったように思えた。1年目のモチベーションを維持するために本番前ご飯会などがあったほうが互いに高めあえてストレスも発散できたと思う。先輩との交流がある学科とない学科があった。中間リハーサルや最終リハーサルとは別に1年目内で「1年目リハーサル」のようなものがあると互いに遠慮せずより活発な意見交換ができたかもしれない。全体的に準備は早かったが情報が甘いところがあった。

学科別の今後の展望

<文学部 英文学科>

- 2年目が主体となって進捗状況を全員で確認する。その日進んだことは必ずLINEなどで共有し、全員が必ず目を通して確認する。そうすることにより、誰がどこまで進めているのかが把握できる。
- 1年目が準備を始める前に必ず1年目と2年目で全員集まる機会を設ける。その際に打ち合わせの日時を決め、2年目もその日時を把握しておくことで、1年目の準備に2年目が関与できる。
- 準備を始める前に大まかなスケジュールリングを行い、そこで予定演習をいつするのかまで考えスケジュールリングする。
- 週のどこかで必ず各自のタスクの進捗状況を報告する日を決める。タスクが進んでいなかった場合にも必ず報告させる。報告を義務付けることにより、次の集まりまでに終わるべきことや次の集まりにすべきことの把握も同時にできると考える。

<文学部 心理・応用コミュニケーション学科>

- 作業を始める前に、大まかなスケジュールリングをした方がよい
- 週1回は集まること（集まれなくても連絡はとること）
- 休養や息抜きをすること
- 他のメンバーのスケジュールも把握すること
- 発表時の音楽の使用は、非常に効果的であると思われる
- 先生との連絡は早めにしておくこと（先生の都合を考えて）
- スライドの写り方などを、実際に発表する教室で確認すること
- 不安な点や分からないことは、同期や先輩にすぐ相談・確認すること
- 何でも一人ですることが良いことだとは思わないこと
- 自分の得意不得意を把握し、不得意な部分は適切に頼ること
- 弱音を吐き出せる関係性を形成すること
- メンバーの性格を理解しておくこと

<経済学部 経済学科>

- 横のつながりを深めるために、研修や合宿などのイベントに参加して他学科との交流をしっかりとっていく。
- “報告、連絡、相談”をしっかりと行い、効率的に作業する。

<経済学部 経営情報学科>

経営情報学科での一番の反省点は全員での確認がすごく少なかったこと。まずはスケジュールリングをしっかりと行うことが大切であると感じた。この日は何も予定いれないっていう日を作らなければいけないと思った。またほかの学科との交流も少なかった。そのことで、ほかの学科の良い部分を吸収することができなかった。なので次回からは積極的に交流を深めていけたらと思う。

情報交換は基本lineやGoogleドライブで行っていたが、進行状況がいまいち把握しきれていない部分が全体に見られた。少しでも変更部分があればすぐlineで報告し、そのことを確認したら何かしらのアクションをしたほうが全体で情報を共有できるのではないかなと思う。

事前からの準備不足とコミュニケーション不足が目立ったので次回からはもっと集まる回数を増やしていけたらと思う。

<アンケート分析>

説明の分かりやすさは「とても分かりやすかった」「まあまあ分かりやすかった」をあわせて9割を超えているので内容的には良いものができたのではないかと思います。説明会に来る理由として半数以上の新生が時間割の作り方を知らなかったと答えているので、次回からは時間割の特に重要な部分（事前登録や必修）を重点的に説明するような発表にできれば良いと思う。また、説明会を知った理由として学科長説明での告知も意外と多かったので来年度以降も続けていけたらいいと思う。

<経済学部 経済法学科>

例年経済法学科の学科長によるオリエンテーションは他学科よりも長いこと、基礎力養成塾希望用紙の提出期間がわずか数日しかない、1年次にとっては新しい環境で疲れもある中で、急を要する提出物があるなど心配事が尽きないと思われる。そこで北星ピア・サポーターとして1年次を支える方法として、これからの学校生活について実際の自分たちの経験を踏まえて解説すること、学科長によるオリエンテーションにおいて、説明されたことを1年次自身が整理をつけて考えられるようにすることだと考える。次年度の説明会においてはこの2点を踏まえて、より1年次に寄り添った説明会を企画できるように学科が一丸となって取り組めるようにする。

<社会福祉学部 福祉計画学科>

- キックオフ会にしっかり出席し、早い段階からの準備を心がけたい。

<社会福祉学部 福祉臨床学科>

- 時間割作成をしてから、履修相談会に来てもらう呼びかけを来年度以降も継続してほしい。
- スライドのデザインやフォント等を事前に統一する。
- 原稿を早めに作成してたくさん練習してほしい。
- 多学科のスライドをみる機会をつくる。
- 臨床学科内での情報共有を頻繁に行っていくことが必要。
- 学科長と早めに打ち合わせをしてほしい。

<社会福祉学部 福祉心理学科>

2人でやらなければいけないと、負担を抱え込んでしまった点があったため、もう少し先輩や同期、学習サポートデスクの方々に力を貸してもらってもよかったのではないかと感じた。また今年の経験から、次年度は一年目へのサポートを積極的に行うべきだと感じたため、普段から相談しやすい関係を構築することを今後の展望としたい。また話が脱線してしまい、一つ一つの話し合いが長引いたため、次年度はメリハリをつけ、雑談はほどほどにするよう努めることも今後の展望としたい。

<短期大学部 英文学科>

留学している人の有無に関わらず、情報共有をしっかりとる。また、ただ情報を共有するのではなく、自分たちにとってベストな共有方法を決めておく（Google drive、メール、ラインなど）。先輩は後輩を気にかけて、後輩も困ったことがあればまずは先輩に頼る。仲良く活動する。集まる日を一か月前などから決めて全員で集まる。集まりがある日は遅刻せず集まる。短英はクラスがあるので今後もアイスブレイクは取り入れたい。学科リハーサルを行う際に機材の使い方を全員が把握できるようにする。説明会や相談会を行う目的を自分たちでも考える。アイスブレイクも何回かリハーサルを行う。パソコンが使える場所や自販機の場所など、学生がよく利用する施設についてももう少し詳しく説明したい。途中でモチベーションが燃え尽きないようにする。

全体の今後の展望

準備期間での情報共有の甘さは、ラインやメールなどで伝えるだけではなく、直接会った時にも確認するなど、直接のコミュニケーションを心がけるとよいと思われる。余った配布資料について、後日の履修相談会で使うかなどあらかじめ確認し、決めておくことが大切である。また、集めた時に一目でわかるように、プロジェクト班で作成した配布資料を使うときは、表紙に学科名をつけると分かりやすくなると思われる。

準備を始める時期はいいと思うので、このまま早めの準備を心がけていきたい。

北星ピア・サポーターによる 履修相談会

活動名		北星ピア・サポーターによる履修相談会	
開催日時	2019 年 04 月 04 日 (木) 09:00-18:00	開催場所	ラーニング・コモンズ
対象者	2019 年度 北星学園大学 1 年次		
目的	新入生と編入生が抱える学生生活や履修についての不安・疑問を解消する		
概要	ラーニング・コモンズを貸し切って一年生や編入生のために相談会を開く		

反省

<三役>

昨年度とは違うシステムを導入したがどの学科もあまり混乱することなく履修相談会を終えることができた。付箋とホワイトボードを使ったシステムは良かったが、キャンセルの人が出たりした時の対応を考えていなかった。その時に各学科で臨機応変に対応できた。受け付けの人と案内係を分けたことで受付から人がいなくなるのがなく、相談に来た人が戸惑うことはなくなった。当日何人来たかカウントせずとも付箋の通し番号で数えられた。人数が少ない学科や、予想以上の人数が相談に来た学科は対応が追い付かないことがあったが、ピアサポ内でフォローし合えた。待ち時間を伝えると帰ってしまう1年生もいた。教職課程や留学についての知識が全体的に浅かった。お昼休憩をとれない人がいた。準備が直前になってしまったため当日の朝にはほかのメンバーに当日の流れについて伝えることになってしまった(でもこれはどうしようもないことだと思う)。もう少し、計画的な準備をするべきだった。各学科のスペースの確保はうまくできた。PS エリアを空けていたのがよかった。

<文学部 英文学科>

取り組めた点

- A が遅れて参加したが、A が来るまでの間 B と C で学生に丁寧に対応してくれた。
- 学生に付きっきりになるのではなく、何人かを一度に対応できた。

改善すべき点

- 「ここまでは教えてあげる」という基準を作っていなかったため、時間がかかってしまったかもしれない。
- 来場者数を予測して待ち席を作っておくべきだった。
- 人数の多さからフォローを求める声も遅れてしまった。
- シフトの作成(学科内)ができていなかった。

<文学部 心理・応用コミュニケーション学科>

- 説明会で「事前に時間割を作成してから来てください」と促すことで、履修相談会を円滑に進めることができた
- 新カリキュラムの対応に戸惑うことがあまりなかった
- 時間割の確認をお願いされることが多かったが、どこから確認すれば良いかが分からなくなりそうになった。それを防ぐためにも、時間割確認時のチェックポイントを事前に作成しておけば尚良かったと思われる
- 休憩もしっかりとることができた
- 相談者が多くなると少しだけ焦りの気持ちが出た
- 教職や留学に関することなど、勉強不足な点も少しだけあった

<経済学部 経済学科>

- 時間割をあらかじめ用意していたため対応しやすかった。
- 留学、副専攻といった細かい知識の不足が目立った。
- 大人数来た時の人数不足が気になった。

<経済学部 経営情報学科>

- 国際交流関係科目、教職課程の科目などを分からないという新生が多くいた。
- 体育実習などの事前登録科目と必修科目を被せて履修している学生が多くいた。
- 事前登録科目を登録していないのに、時間割に組み込んでいる学生がいた。
- 授業を履修してどう就職に影響するか聞いてくる学生がいた。
- 他学科の人に説明するのが大変で自学科の相談に手が回らなかった。
- 説明会が良かったので、時間割を多くの学生が作ってきていた。
- 説明会がよかったので説明が行き届いており、相談会の人数少なかった。
- おすすめの科目を聞かれても困る。ピア・サポーターとしての回答がしにくい。
- アンケートによると、質問1より時間割の作り方を知りたいと回答する学生が多かった。なので、説明会でより詳しい時間割についての説明をしても良かったのではないかと考えた。
- 質問2よりオリエンテーション日程をみて参加を決めた学生が多くいた。SNSを見て来たという学生が少ないので、これからのSNSの活用の仕方を見直さなければならない。
- 質問4では7割の学生が疑問を解消できたと回答していた。満足度の高い相談会にできた。

<経済学部 経済法学科>

ホワイトボードの待ちと相談中に付箋を貼るときにどこから貼るなど細かい点を決めていなかったため、混雑した際に状況を把握するのに時間がかかってしまった。また相談スペースが足りなくなった場合のことを事前に考えておくべきだった。教職についての質問があった際に、私たちの中では誰も教職をとっていないため、自分たちだけでは対処しきれず勉強不足な部分が多かった。専門教育科目やコース制のことは把握していたが、各自の認識をおさらいするためにも新カリキュラムとして変わった部分など注意点を事前に全員で確認しておくべきだったと思われる。傾聴の姿勢として、声のトーンや表情などもう少し印象を柔らかくする意識が必要だったが、一人ひとりが親身になって相談を受けていたため、1年次が相談しやすい雰囲気は作れていたと思われる。

良かった点としては、人数が多いため、シフト制にしたことで長時間対応して疲れるということとはなかったように感じる。シフト交代時の引継ぎもスムーズであった。受付番号を記録して貼るという制度は待機人数もわかり、何人対応しているのか一目瞭然だった。4月2日の告知の段階で時間割を事前に作ってくるようお願いしていたので、当日は1人にかかる時間が少ない上に回転率もよく、時間に余裕が出てしまう程だった。時間割を作成していない学生も、自分の履修したいコースなどが明確な学生が多かったのでサポートしやすかった。

<社会福祉学部 福祉計画学科>

- 丁寧な対応を心がけた。
- たくさんの人と話せて楽しくできた。また新生を緊張させず、
- フレンドリーに接することができたと思う。
- 自分が思っていたより相談に対応でき、達成感があった。
- 受付番号の仕組みを十分に把握できず、うまくやり繰りできなかった。
- 混雑時にバタバタしてしまったり、間違いがないか何回も確認したりしたため、新生を待たせてしまった。
- 教職課程や社会福祉士の履修についての相談が多く、答えられないことが多々あった。
- 履修を一切考えず、真っ白な時間割を持ってきた人もおり、事前の声かけにもう少し工夫が必要だった。

<社会福祉学部 福祉臨床学科>

<良かった点>

- 人数が多かったが、時間割を作ってきてくれる新生が多かったため、それほど忙しくなかった。
- すべてをピアサポが教えるのではなく、新生自身で考える時間を作ったのがよかった。
- 付箋を使用した受付システムがトラブルなく対応できた。
- 説明会の資料（時間割テンプレートなど）を活用できた。
- うまく休憩を回すことができた。

<反省点>

- 資格を取得したい新生が大学共通科目を何単位入れられるのかを事前に把握しておけばよかった。
- 大学共通科目の説明の仕方について事前に打ち合わせ出来たらよかった。
- 教職課程についてピアサポ全体で把握する必要がある。
- 他学科の手が回っていないところにこちらから新生にどのような内容で相談に来ているのか声をかければよかった。
- 17時30分頃からピアサポが受付にかたまっていることが多かったため、新生を入りづらくしてしまった。
- 来年も同じ付箋のシステムで行うなら、他学科がどこまで対応したか、相談内容も書き込むとよい。
- 事前に各学科の新生の人数を確認しておくよかった。
- 受付についてもっと改善すべきだった。
- 対応終了後の付箋の置き場をどうしたらよいかわからなかった。
- 付箋などに通し番号を事前に書いておくと楽になる。

<社会福祉学部 福祉心理学科>

前々日の北星ピア・サポーターによる説明会（以下説明会）に参加した人が多数いたこともあり、人数も落ち着いていたため、一人一人の相談に親身になって対応することができた。また、アンケート集計の結果から、学校生活の不安なども話してみることで解消された人が多くいることが明らかになった。一方で、他学科を助けたり、頼ったりする場面が少なかった。本来なら1年次は大学共通科目がほとんどであるため、他学科でも対応できることが多数あったはずである。しかし実行に移すことができなかった。このことから他学科との垣根を越えて、柔軟に対応することが今後の課題として挙げられる。また、遅刻や早退が目立ったため、最後まで気を抜かずに行動することも今後の課題となった。

<短期大学部 英文学科>

教職やサークル、またはディズニー・バレンシアプログラムについての知識に不足があったが、新カリキュラムについての対応はできた。参加した新生のほとんどが相談してよかったと言ってくれた。履修相談会のアンケートで「短大英文」ではなく「英文」と書いてしまう子がいて、文学部英文学科の方にアンケートが流れてしまった可能性がある。

<短期大学部 生活創造学科>

- 昨年度までの反省を踏まえ、より相談を円滑に進めるための資料作成などを行うことができた。しかし、新生に誤った情報を与えてしまい、新生を混乱させてしまった。
- 相談に対し、親身な対応を心掛けることができた。

今後の展望

<三役>

4月 は説明会の準備や就職活動などで三役全員が忙しく、直前になって焦って動き出したため、今後はできれば計画的に準備をして、全体に当日の流れなどをもう少し早く伝える。今年から導入した付箋とホワイトボードを使ったシステムがよかったので来年度以降も取り入れたい。必要に応じてシステムを一部変更することも検討したい。当日何かあった時には他人ごとにするのではなく全体の問題ととらえ、臨機応変に対応する。相談者が多数来て学科内だけでは対応しきれなくなった時の周りのフォローの仕方を事前に考えておく(大学共通部分であれば他学科でも対応するなど)。来年度以降も何かあった時のためにPSエリアのような空きスペースを確保したい。新カリキュラムや教職課程、留学制度についても新入生の質問に答えられよう準備しておく。待ちスペースの確保についても事前に考えておく。

<文学部 英文学科>

- 事前にどこまで教えるのかの最低基準を設け、それに沿って学生に対応する。
- 相談会に来る学生が多すぎることは望ましくないため、説明会で正しく丁寧に情報を発信する。
- 新入生個人で作業させる時間が発生しそうな場合は一度席を離れてもらう。
- 待ち席を用意し、どの順番で待っているのかもわかるようにする。
- 英文学科のみで対応することが難しいと感じた場合には、待っている学生の相談を聞き、それに対応できそうな英文学科以外の学生に声をかける。教職など他学科も共通していることなら可能であると考ええる。
- オリエンテーション日程などから混雑しそうな時間帯を予測し、それに沿ってシフト作成をする。もし予測に反して混雑した場合にも備えて、必ず英文学科全員、すぐに連絡の取れる状況にしておく。

<文学部 心理・応用コミュニケーション学科>

- 説明会で「事前に時間割を作成してから来てください」と促すこと
- 教職に関しては、全体に共通している事柄に加え、学科で取得できる教員免許の種類、それを取得するために修める必要がある科目を把握すること
- 留学の種類や違いについて知っておくこと(派遣留学、海外研修 など)

<経済学部 経済学科>

留学、副専攻などといった細かい情報の把握をし、それでもわからない場合は担当の課に行ってもらうように促していく。あらかじめ時間割を作ってもらえるように説明会やオリエンテーションで促していく。

<経済学部 経営情報学科>

相談会の反省を元に以下のことを次年度の後輩に引き継ぎ、サポートしていきたいと考える。

- 間違えたことを教えないよう事前に正しい知識を備える。
- 事前登録科目を知らない学生が多かった為、説明会では事前登録科目について他の項目より強調した説明をする。
- 必修科目と事前登録科目を重複している学生が多く見られた、説明会で必修科目と重複しない科目を選択するよう強調して説明する。
- 事前登録科目について困る学生が多かったことから、説明会終了後にプレ相談会を行ったり、相談しやすい雰囲気を作りサポートしたりする。

<経済学部 経済法学科>

先輩方が円滑にピア・サポート活動をおこなえた大きな理由としてお互い意識を高めあう為にも他学科との交流をしっかりしていたことが要因だと考えられる。現在の1年目はヨコの繋がり、具体的には学科のメンバー以外とのつながりが浅く、ほぼ初対面のピア・サポーターもいるため、話しかけづらい環境にあるように感じた。係活動や学校祭、合宿などを通じてお互い歩み寄ることが連携を図る上で重要になってくるので次の世代の後輩たちにヨコのつながりを作りやすい環境づくり・雰囲気づくりをする上で妨げとなるお互いの壁を取り除くためにも、先輩である私たちが助言や歩み寄りなどのサポートをしていきたいと思っている。

<社会福祉学部 福祉計画学科>

履修ガイドの内容、学科についての理解をより深めたい。

<社会福祉学部 福祉臨床学科>

- 付箋のシステムは継続してほしい。
- 受付のシステムを改善してほしい。
- 履修の説明の仕方を事前に確認したい。
- 他学科の履修について大まかに全体で共有したい。

<社会福祉学部 福祉心理学科>

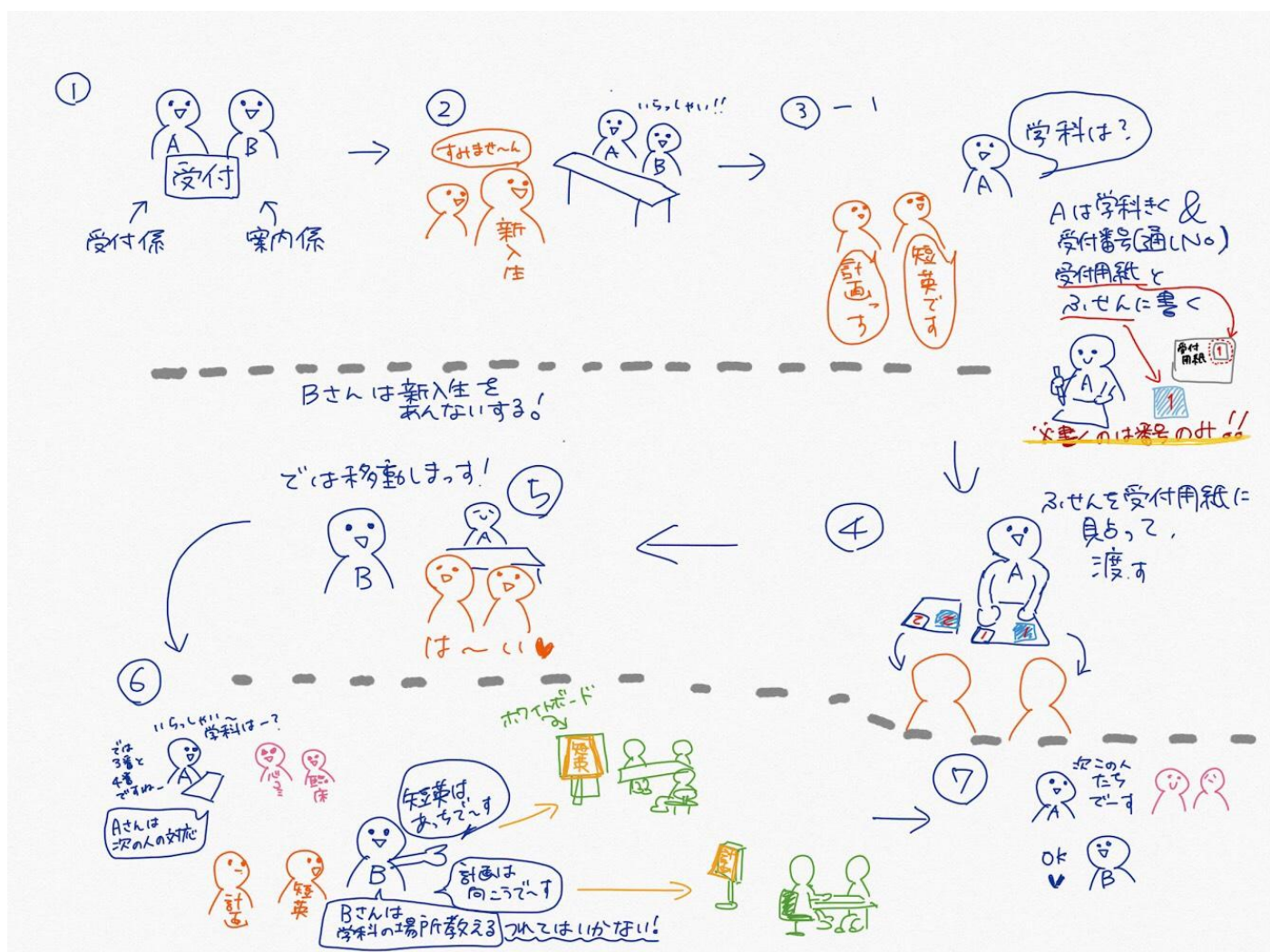
他学科とのつながりを強く持ち、忙しいような学科があれば進んで声をかけるなどの働きかけが必要だと考える。また、説明会からの期間が短く相談会の準備期間が設けられなかったため、説明会の準備期間から、相談会を意識して行動することが必要だろう。

<短期大学部 英文学科>

- 同じ（新）カリキュラムになるので、同じ立場としてより一層相談に乗りたい。
- 来年度も新生が抱える不安や疑問を解消したい。
- 教職課程やサークル、バレンシア国際プログラムについてなど自分たちが経験していないことでも質問に答えられるように事前に勉強しておく。
- 当日ちゃんと参加できるよう、日ごろから体調管理を怠らない。
- 履修相談会前に、編入に必要な科目やクラスによって取れない基礎教育科目、留学に必要な授業は何か、または上限単位はどのくらいかを学科全体で確認する。
- 短英はクラスによって時間割が若干違うのでそれを事前に調べてテンプレートのようなものを何部か用意しておく。アンケートを書いてもらうときは必ず「短大英文」と書いてもらうように促す。

<短期大学部 生活創造学科>

- 事前に正しい知識を身に付け、学科内で共有し確認することを徹底したうえで、資料作成や相談に取り組む。
- 生活創造学科は相談に来る新生が多いため、待ち時間を減らす工夫などが必要である。「なるべく時間割を作成してから来てほしい」など、事前の新生へのアナウンスはより入念に行う。
- 相談に来た新生が「来てよかった」と思える対応を目指す。



履修相談会当日の流れ(受付・案内係)

参加人数内訳	
英文	32 人
心コミ	33 人
経済	52 人
経情	17 人
経法	37 人
計画	25 人
臨床	30 人
心理	17 人
短英	39 人
生活	35 人

北星ピア・サポーターによる
歓迎会
～エンジェルプロジェクト～

活動名	北星ピア・サポーターによる歓迎会 ～エンジェルプロジェクト～		
開催日時	2019 年 04 月 03 日 (水) 11:45-15:30	開催場所	北星学園大学 C 館 7 階 C700 教室、 大学会館 3 階 大学生協食堂東側
対象者	2019 年度 北星学園大学短期大学部 生活創造学科 新入生		
目的	<p>① 学生生活について、入学後の情報量が多く大変であるため、この機会を通して事前に知ってもらい、新入生の戸惑いを軽減させる。また、先輩や学科教員に参加してもらうことで、学科のアットホームな雰囲気を感じてもらう。</p> <p>② 同級生や先輩とコミュニケーションをとる機会を設けることで、その先の学生生活で気軽に会話・相談できる関係のきっかけをつくる。</p>		
概要	学年や立場の垣根を越えて交流できるアイスブレイクやゲームを行った。また、担任制度や宿泊オリエンテーションなどで学科教員と関わる機会が多いため、学科教員の担当履修モデルの紹介や、学生との関係性が伝わるようなクイズを実施した。さらに、宿泊オリエンテーションで説明される内容をより理解できるように、学生生活に関すること（単位・施設など）についてのクイズも行った。		
反省	<p>事前準備は早い段階から細かなスケジュールを立て、定期的に確認しながら進めていくべきであった。学科教員との連携や学科内での役割分担、企画の宣伝はよくできた。</p> <p>当日は予想外のことが起きた際に迅速な対応ができなかったため、リスクマネジメントをしっかりと行うことが大切だと感じた。</p>		
今後の展望	<p>打ち合わせや事前準備は早めの時期から行い、目的がぶれないように進めていく。学科の北星ピア・サポーター（以下ピアサポ）の先輩や学科長、他学科のピアサポとの連携をしっかりと取る。当日使う会場でのリハーサルや、ピアサポの全体リハーサルへの参加もすると良い。</p> <p>当日は臨機応変な対応が重要である。周囲をよく見て、参加者全員が楽しめる、「来てよかった」と思える空間をつくれるように行動する。</p>		

準備期間の動き

月	10 月	11 月	12 月	01 月	02 月	03 月	04 月
活動記録（日付）	第 1 回打ち合わせ(22)	キックオフ会 (10) 食堂店長との 相談(30)	学科長との打 ち合わせ(10) 新 2 年生事前 アンケート (14)	学科長との打 ち合わせ(10)	新 2 年生参加 者募集呼びか け(21) 新入生送付用 案内文書完成 (26) 食堂店長との 相談(27)	先輩方を含め た学科内リハ ーサル(12) C 館教室での 機材等確認・ リハーサル (14) 最終リハーサ ル(19) 学科長との打 ち合わせ(20) 食堂での機材 等確認(27)	新入生歓迎会 ～エンジェル プロジェクト ～ (3)
	打ち合わせ						→

ピアサポ研修 プログラム

ピアサポ研修 プログラム		歴	氏名	学籍番号
		2 年目	石田 涼子	1601030
			池田 優歩	1609018
			竹井 健人	1605089
			千葉 彩子	1609001
			花岡 夏季	1609006
			藤井 里穂	1771005
			若林 希	1607070
研修目的	本研修の目的は、北星ピア・サポーター（以下、ピアサポ）1 年目がピアサポであるという意識を向上させ、ピアサポとして今後立ちはだかるであろう壁を回避・予防する力を身につけることであった。			
活動内容	研修 1 部			
	研修 2 部			

活動名		ピアサポ向上委員会研修プログラム第1部 「地獄の1か月～ピアサポ2年目からの挑戦状～」		
開催日時	2018年11月03日（土）	10:00～ 17:00	開催場所	C館6階教室全て
	2018年11月04日（日）	10:00～ 17:00		
対象者	2018年度北星ピア・サポーター1年目		参加人数	28人
目的	1年目のピアサポには、共有力、調整力、タイムマネジメントスキル、リスクマネジメントスキルの必要性を伝え、知ってもらい、「壁」を回避・予防する力をつけてもらう。			
概要	<p>ゲームを通して4つのスキルを学んでもらった。この4つのスキルとは別にピアサポでは、メールを使用する機会が多いためからメールマナーについても学ぶ仕組みを盛り込んだ。1年目はピアサポ内で友人が少ないという問題点があるため、他学科同士でグループを組むことで、交流の機会を増やすとともに、知り合いを増やし、今後のピアサポ活動に挑む姿勢が変わっていくことを期待していた。第1部のゲームの流れは、以下の通りである。</p> <p>①ゲームの説明 ②ゲーム実施（グループワーク、ポスター作成） ③休憩（ゲーム実施中に15分） ④発表 ⑤解説 ⑥お茶会</p> <p>① ゲームの説明は、パワーポイントや動画を用いて行い、自己紹介のアイスブレイクや、相談カードの練習も行った。</p> <p>② ゲームの実施は、6週間というゲームの流れの中、1日4分半で進むタイマー（動画）に合わせ、1年目には毎週課題を提出しつつ、発表のためにポスターを書いたりして発表の準備も行ってもらった。このゲームには1年目に上記で述べた4つのスキルを学んでもらうためにメール、相談カード、学生団体総選挙申込用紙の提出、先輩チャンスカードというシステムがあった。以下でシステムについて詳しく説明していく。</p> <p>・メール</p> <p>ピアサポはメールを送る機会が多いため、1年目のメールマナーを確認するために行ったものである。メールは1年目宛にピアサポリーダーと広報係リーダーから実際に送られてくるという設定であり、1年目にそのメールに返信してもらった。返信する際に単語を</p>			

並び替えしてメール文を考えてもらうメールでは、宛名と件名、挨拶文、本文、締めの挨拶、署名ができているかを確認した。

・相談カード

相談カードとは架空メンバーからの相談が書かれたカードのことである。1 年目は、相談カードに書かれた相談に回答する。書かれた回答から、調整力、リスクマネジメント、共有力のスキルを測る。またピアサポは実際に相談業務を行うため、その体験をしてほしいという目的がある。相談カードは相談カード①、相談カード②、相談カード②-2、相談カード③、相談カード④の全 5 つがある。それぞれのカードには 3 種類の回答カードがセット（個別で回答するリーダー用、副リーダー用、さらにメンバー全員で話し合って答えを出す最終回答用）で入っている。相談カードの番号は表紙の右上に書いている。また番号の左にある色はグループごとに異なる。週ファイルに相談カードを入れるときは、運営がこの色が自分のグループのものと一致するかを確認する。

・学生団体総選挙申込用紙

ゲーム内の学生団体総選挙の申し込みをする用紙。1 年目には参加メンバー、総選挙への応募動機、組織説明、過去の主な活動、発表予定内容を書いてもらう。内容は採点せず、不備や空欄があった場合のみ返却する。大会申込用紙ではタイムマネジメントスキルを測る。

・先輩チャンスカード

ゲーム内でポスターを作成するために必要な情報を、先輩ピアサポから聞くことができるカードのことである。情報を聞くことができる時間は、ゲーム内の時間の流れで 1 日（4 分半）となっている。先輩チャンスカードは、参加者が先輩方から聞いた内容をグループ内で共有する力やタイムマネジメントスキル、リスクマネジメントスキルを養うことをねらいとしている。先輩チャンスカードは 3 回使用できる。しかし 1 年目には説明の際に「限りがある」と伝える。1 週目の週ファイルに先輩チャンスカード①と質問項目一覧をいれ、先輩チャンスカードを消費したあと先輩ピアサポから 1 年目に②、③のカードを順に渡す。アドバイザーには、ゲーム内の「先輩ピアサポ」として参加していただき、1 年目が聞きに来た内容について回答を行ってもらう。「先輩ピアサポ」とは、ピアサポに関する情報を 1 年目に伝える役目である。

メール、相談カード、先輩チャンスカード、大会要項に関する詳しいルールについては、別紙（運営マニュアル、先輩チャンスカードマニュアル）を参照していただきたい。

③ 休憩では、ゲームの作業を 1 度やめてもらい、お菓子を配布した。ゲームのストレスを少しでも緩和させ、1 年目同士の交流をさらにしてもらうため、「すっぱいブドウにご用心」など、食べた人が楽しめるよう配るお菓子を工夫した。

	<p>④ 発表では、ゲーム内で作成してもらったポスターを各グループ 3 分で 1 年目に発表してもらった。発表後にゲームの採点をもとに表彰も行った。また、発表の様子をアドバイザーに審査し投票してもらい、その結果として、審査員特別賞を 1 グループ表彰した。</p> <p>⑤ 解説では、Powerpoint を用いて、ゲーム内のシステムや、採点方法、どんなスキルを学んで欲しかったかなどゲームの解説や今後のピアサポ活動で大切なことを伝えた。</p> <p>⑥ お茶会では、1 年目に駄菓子と飲み物を提供した。このお茶会で研修の感想や駄菓子から派生した話などをしてもらうことで 1 年目のさらなる交流を図った。</p>	
準備日程	2018 年 05 月 10 日 (木)	定例 MTG
	2018 年 05 月 12 日 (土)	勉強会：昨年度のゲーム体験
	2018 年 05 月 14 日 (月)	MTG
	2018 年 05 月 15 日 (火)	勉強会：昨年度のゲーム体験 (G のみ)
	2018 年 05 月 16 日 (水)	定例 MTG
	2018 年 05 月 18 日 (金)	MTG：企画書作成班
	2018 年 05 月 21 日 (月)	MTG：企画書作成班
	2018 年 05 月 23 日 (水)	定例 MTG
	2018 年 05 月 24 日 (木)	MTG：企画書作成班・お茶会予算書作成班
	2018 年 05 月 25 日 (金)	学習サポートデスクデスク職員に企画書提出
	2018 年 05 月 28 日 (月)	MTG：企画書作成班・お茶会予算書作成班・三役交渉班
	2018 年 05 月 29 日 (火)	ピアサポ前リーダーに企画書提出
	2018 年 05 月 30 日 (水)	定例 MTG
	2018 年 06 月 01 日 (金)	MTG
	2018 年 06 月 03 日 (日)	MTG：企画書作成班
	2018 年 06 月 04 日 (月)	学習サポートデスクデスク職員に企画書提出
	2018 年 06 月 06 日 (水)	MTG
	2018 年 06 月 08 日 (金)	定例 MTG
	2018 年 06 月 11 日 (月)	学習サポートデスクデスク職員に企画書提出
	2018 年 06 月 14 日 (木)	学習サポートデスクデスク職員に企画書提出
	2018 年 06 月 15 日 (金)	現三役に企画書提出 定例 MTG
	2018 年 06 月 20 日 (水)	MTG
	2018 年 06 月 21 日 (木)	企画書・予算書（お茶会）完成
	2018 年 06 月 22 日 (金)	定例 MTG
	2018 年 06 月 29 日 (金)	定例 MTG 勉強会：ピアサポについて
	2018 年 07 月 02 日 (月)	MTG
	2018 年 07 月 05 日 (木)	MTG

	2018 年 07 月 06 日 (金)	メール作成開始
	2018 年 07 月 09 日 (月)	MTG
	2018 年 07 月 12 日 (木)	1 年目に出欠表配布 (定例会にて) MTG
	2018 年 07 月 13 日 (金)	学生団体総選挙大会要項作成開始
	2018 年 07 月 15 日 (日)	ピアサポリーダー写真撮影 ゲームスケジュール作成開始
	2018 年 07 月 16 日 (月)	MTG
	2018 年 07 月 17 日 (火)	先輩チャンス説明会 (アドバイザー対象)
	2018 年 07 月 18 日 (水)	先輩チャンス説明会 (アドバイザー対象) 1 年目出欠表提出〆切
	2018 年 07 月 19 日 (木)	定例 MTG
	2018 年 07 月 20 日 (金)	予算書 (備品) 〆切 先輩チャンス説明会 (アドバイザー対象)
	2018 年 07 月 23 日 (月)	MTG
	2018 年 07 月 26 日 (木)	MTG
	2018 年 07 月 30 日 (月)	MTG
	2018 年 07 月 31 日 (火)	1 年目にゲーム日程お知らせ
	2018 年 08 月 02 日 (木)	MTG 説明スライド作成開始
	2018 年 08 月 03 日 (金)	MTG
	2018 年 08 月 04 日 (土)	MTG
	2018 年 08 月 05 日 (日)	解説スライド作成開始
	2018 年 08 月 06 日 (月)	MTG
	2018 年 08 月 07 日 (火)	学習サポートデスクデスク職員に予算書 (備品) 提出 リハーサルのリハーサル
	2018 年 08 月 08 日 (水)	リハーサルのリハーサル
	2018 年 08 月 09 日 (木)	MTG
	2018 年 08 月 13 日 (月)	MTG 相談カード作成開始
	2018 年 08 月 16 日 (木)	運営マニュアル作成開始
	2018 年 08 月 17 日 (金)	MTG
	2018 年 08 月 18 日 (土)	MTG
	2018 年 08 月 19 日 (日)	MTG
	2018 年 08 月 20 日 (月)	中間リハーサル
	2018 年 08 月 21 日 (火)	MTG
	2018 年 08 月 23 日 (木)	勉強会：先輩ピアサポ役練習 (3 人)
	2018 年 08 月 28 日 (火)	最終リハーサル

	2018 年 08 月 29 日（水）	ポスタールール完成
	2018 年 08 月 31 日（金）	メール完成 ゲームスケジュール完成
	2018 年 09 月 01 日（土）	MTG メールマニュアル完成
	2018 年 09 月 03 日（月）	勉強会：先輩ピアサポ役練習（3 人）
	2018 年 09 月 05 日（水）	フローチャート完成
	2018 年 09 月 06 日（木）	勉強会：先輩ピアサポ役練習（2 人）…地震のため中止
	2018 年 09 月 07 日（金）	本番 1 日目…地震のため中止
	2018 年 09 月 08 日（土）	本番 2 日目…地震のため中止
	2018 年 09 月 10 日（月）	MTG（Skype）
	2018 年 09 月 14 日（金）	MTG
	2018 年 09 月 15 日（土）	1 年目に出欠確認
	2018 年 09 月 18 日（火）	MTG
	2018 年 09 月 21 日（金）	MTG
	2018 年 09 月 23 日（日）	MTG
	2018 年 10 月 10 日（水）	MTG
	2018 年 10 月 13 日（土）	MTG
	2018 年 10 月 14 日（日）	リハーサル
	2018 年 10 月 26 日（金）	MTG
	2018 年 10 月 29 日（月）	MTG
	2018 年 10 月 30 日（火）	MTG
	2018 年 11 月 01 日（木）	MTG：印刷等準備
	2018 年 11 月 02 日（金）	MTG：本番前最終確認
反 省 点	<悪かった点> 全体を通して 第 1 部を通して上がった悪い点としては主に 3 つである。 1 つ目は情報共有ができていなかったことである。第 1 部の準備は、メンバー各々の担当の仕事に集中しがちになってしまった。そのため、LINE や cybozu というグループワークサイトのレスポンスも遅れてしまい、議事録やゲームのシステムで使う小物についての把握度がメンバーによって差が出ていた。よって、全員作業の開始時にその回の前回の確認をしたことで、各メンバーが担当している小物を把握できた。しかし、小物ごとにメンバーが作成係と修正係に分かれているものもあったため、メンバー間で cybozu に挙げる時のファイル名が異なっており、どのファイルが最新版かわからなくなったという問題も起きた。 2 つ目は、タスクの管理ができておらず、中間リハーサル当日に印刷物の準備に取りかかってしまったことである。そのため、原本の間違いの確認や配布物の種類ごとの部数の確認などに時間がかかってしまい、余裕がないまま中間リハーサルを始めてしまった。中	

間リハーサルでゲームを進めていく中で、使用する小物が足りないことに気づいたこともあった。

そして3つ目は、作業に対しての意識が欠けていたことである。作業中に話が脱線してしまうことがあった。また、他のことに気を取られてしまうといったことも多々あり、作業と休憩のメリハリがついていなかった。このような意識の欠落はメンバーの作業の進みや管理にも悪い影響を与えていた。例えば作業の進みでいうと、時間に余裕を持ちすぎたため、集中してその日にやらなければいけない仕事を先延ばしにになってしまうことだ。メンバーで作業をする場所は、21時まで空いているラーニング・コモンズで行うことが多かった。そのため、21時まで作業ができるという余裕ができてしまい、作業の進みが遅くなってしまいがちだった。そして作業の管理で例を挙げると、特定の作業を自分から積極的に行わず、誰かに頼ってしまう姿勢を持っていたことだ。メンバー全体の動きの管理には学習サポートデスク助手に、また説明や議事録を取る係にはその作業が得意な人に任せていたことが多かった。そのため、作業の役割分担が微妙となってしまう、メンバー各々の負担の量に差が出てしまった。この対策として、苦手な作業でも積極的にやってみるという意欲をもつことではないのかと考える。全体的に第1部を通して、情報共有やタスクの管理の重要性、そして時間を意識して苦手な作業に対しても意欲をもつことについて考えさせられた。

・メンバー募集

研修プロジェクトの初めの方はチーム名や研修の目的など、なかなか決めるのが難しかった。また、企画書のための議題が多いため、5月から行動開始では全体的な動きが遅いように感じられた。そのため、3月にメンバー募集し4月に顔合わせを行うのが理想的であると考えた。今回は学科が偏ってしまい、2年目のみが集まってしまった。引継ぎの予定の有無も考えて、メンバーの1人は1年目にしてもいいのではないかと、提案が出た。

・企画書

企画書担当のメンバーに頼りすぎるのではなく、メンバー同士で意見の交換を積極的に行うべきだった。企画書の作成に時間がかかってしまったことに関しても、意見の交換で防ぐことができたと考える。

・予算書（お菓子）

何をお茶会で出すか、そのお菓子にした理由など具体的な想像ができていなかったため、学習サポートデスクデスク職員との話し合いが難航した。

・予算書（備品）

予算書を学習サポートデスクデスク職員に提出する時点で必要な小物とその個数が決まっていなかったため、余るものと足りないものが出てきてしまい、備品の管理が上手いかなかった。また予算書の作成者以外、必要な備品の種類やその個数の把握ができていなく、確認不足だった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート 参加者に意見を聞くのが遅かった。 ・メール マグネット形式のものは、パーツが正解・不正解とそれぞれ全てそろっているかどうかの確認に時間がかかってしまい、ヘルプとしてお手伝いに来てくれた人にも負担をかけてしまっていた。週ファイルごとにわけて入れるメールの内容が違うので、封筒に番号を書いておくと、入れ間違いを防ぐことができたと考える。メール用紙とその原本を同じサイズで印刷することで、印刷時の確認や準備もスムーズにできていたと思う。全体的に、予想していなかった回答を参加者が持ってきた場合や、空白メールの管理など困ることが多く、想定力の甘さが感じられた。 ・相談カード 参加者は自由に相談内容について回答ができるため曖昧な表現があり、どのスキルに当てはまるのか即座に判断できなかった。原本の不備や本番で練習用のカードが足りないといった確認不足もあったので、原本の誤字や、本番の各グループの人数の把握をしていると防げていた。 ・先輩チャンスカード アドバイザーの方々に協力していただくため、連絡の早さや中間リハーサルの前にピアサポ向上委員会で動きを確認するなど、事前準備のタイミングに気を付けていればよかった。ゲームのシステムでアドバイザーの方々に覚えてもらうことが多かったため、事前に覚えてきてほしい動きを連絡しておくことで負担を減らすことができたと考える。先輩チャンスカードのシフトマニュアルが最後まで共有されることがなかったため、実際にシフトを回す時の想定が難しかった。 ・学生団体総選挙申込用紙 学生団体総選挙申込用紙の作成を1人に頼りがちになってしまい、負担を重くさせてしまった。1年目からは、「参加者の氏名は架空メンバーと自分たちのグループのメンバーの全員を書くのか」または「組織説明のマスが150字分で何を書けばいいのかわからなかった」という指摘が出た。 ・架空ポスター フルカラー版のポスターを2枚で1つとするのではなく、初めから1枚ずつ分けてホワイトボードに貼るようにしていればよかった。 ・ポスタールール 学生団体総選挙申込用紙と一緒にして配布するかどうかを早めに判断していればよかった。 ・模造紙あげちゃうカード
--	---

2 種類のカードで即座に見分けがつかなく困った。

・教室掲示

教室掲示の紙は、先輩ピアサポや先輩係、運営やヘルプ、そして1年目が遠目から見てどの教室なのかわかりやすいよう、A3 サイズで大きいものにしていればよかった。

・タイマー（動画）

音声の調整や、全てのタイマーの音声がそろうようにするタイミングなど、事前準備をしておけばよかった。

・フローチャート

4 分割にした紙を貼り合わせた際に生じたずれや記載した相談カードのスキルが間違っていたなどのミスが多かった。また、フローチャートの書き方が人によって違ったので、マニュアルで書き方の統一しておくなどピアサポ向上委員会の事前準備をしっかりとしておく、ヘルプでの混乱を防ぐことができただろう。

・説明

説明が終了し1年目がそれぞれの教室に移動する時に、1年目にゲーム中持ってもらはずのタイマーについて、説明し忘れていた。C 館の機械の操作を事前に把握していればよかった。

・ピアサポリーダーからのストーリー説明動画

文字の色が見にくかった。動画が始まるテンポをつかみにくかった。

・解説

学生団体総選挙申込用紙や相談カード、メールなど、それぞれのシステムに合わせて4つのスキルについて紹介しなくてはいけないので、それらを簡潔にまとめるのが難しかった。また、ゲームの内容によって、スライドの内容が変わるのが大変だった。

・エンディング

流れが本番の1日前に決まったため、リハーサルがあまりできなかった。そのため、当日に架空メンバーのポスター分担表を貼り忘れ、2日目では貼るポスターを間違えてしまった。発表会を行う教室の前の机に新千歳空港の掲示の紙を貼り忘れていた。また両日、金賞が出ていないことから、相談カードやメールの採点基準が厳しかったかもしれないという反省点も出た。

・お茶会

ピアサポ向上委員会ではお茶とジュース、そして水を用意していたが、参加者が水を飲むことはなかったため、不要だった。しかしキックオフ会にもちこされ、消費された。

・印刷について

印刷の部数の確認を怠ってしまい、当日になって印刷物が足りないことが判明したことがあった。また、誰がどこまで印刷したかわからなくなるという問題もあった。原本がなく、cybozuからもってきたものでどれが最新版かわからなくなっていたが、研修プログラム用の白い HDD に最新版のフォルダを保存し原本ファイルを作ったことで、最新版を把握できるようになった。

<良かった点>

全体を通して

研修としては昨年度までに比べゲーム要素が増え、内容として深まりグループワークとしてより実際の活動に沿ったものになった。ピアサポ向上委員会メンバーでの活動は、ミーティングや作業中において緊張感を出しすぎず、穏やかな空気感であり、メンバー同士がそれぞれの負担を考えお互いを気遣い、余計な批判をせず、大きなトラブルも生まなかった。また積極的に作業に参加することで、メンバー同士モチベーションの低下を防いでいた。

さらに研修の準備・実施を通して各メンバーの以下の能力が向上した。

- Office ソフト (Word、Excel、PowerPoint)、タイピングなどの PC スキル
- タイムマネジメントスキル
- リスクマネジメントスキル
- 役割分担
- メールマナー
- メンバー全員での情報共有

加えて企画書は想定していたよりも時間がかかってしまったが、その分内容を細かく詰められたため、研修としてより意味のあるものを考えつくることができた。

次に研修のゲームシステムについてである。「メール」「相談カード」「学生団体総選挙申込用紙」があった。

・メール

今回、昨年度までにはなかった新しい要素として取り入れられた。ピアサポ現メンバー（ピアサポリーダー、広報係リーダー）からメールが送られてくるという設定にしたことでリアルなやり取りを実現した。これにより実際にメールを使うことの多いピアサポにメールマナーを確認させることができ、併せてピアサポ向上委員会メンバーのメールマナーの復習にもなった。メールの形式はメールフォームを参加者（1年目）は赤、運営は青と色を変えたことでわかりやすくなった。またフォームの右上に番号を記載したことで、仕分けがしやすかった。さらにマグネット式のメール（ホワイトボードに単語が書かれた磁石

を貼る形式)を作ったのが斬新で面白いものとなった。そしてマニュアルにて複雑なメールの採点システムを簡潔にまとめることができた。

- ・相談カード

これは昨年度よりもさらにピアサポの実態に合うものに相談内容を改変できた。相談カードの内容を考えると話し合いを重ねメンバー全員の意見を反映し決めることができた。また運営のヘルプの人が混乱しないよう、簡易なシステムになるように努めた。そしてマニュアルには図を入れ見やすくし、採点基準をスキルごとで分けたことで採点しやすくなった。加えて解答例集を作成したことで、マニュアルだけでは分からない細かい点まで採点を行うことができた。採点の結果で回答によっては、発表の際ポスターなしになるなど、1年目に対し、相談業務ではリスクが生じるということを見せられたことが良かった。

- ・学生団体総選挙申込用紙

申込期限を先延ばし(発表の前日)にすることで、1年目がいつ提出してくるのかをみることでタイムマネジメントスキルを測ることができた。さらにその結果で発表する権利を失うシステムを設けることでタイムマネジメントスキルの重要性を1年目に示すことができた。

また組織説明など参加者が実際に記入する欄を設け、「先輩チャンスカード」を使用しないと詳しく書けないようにした。

次に情報収集のシステムとしての「先輩チャンスカード」、ゲームの「エンディング」、採点の際に使用した「フローチャート」、ゲームの前後で行われたゲームの「説明」と「解説」についてである。

- ・先輩チャンスカード

昨年度の紙媒体で渡す形式から先輩に直接聞ける形式に改変し、直接聞いてグループ内で情報共有してもらうよう促せたのが良かった。また先輩の役割を実際にアドバイザーの方々に行っていただいたことで、リアリティーが増し、よりピアサポの活動としてより深いものにできた。加えて普段話せないであろうアドバイザーと1年目の交流を図ることができた。システムについては質問項目を事前に作成したことで、質問者(1年目)も回答者(アドバイザー)も答えやすいものにできた。また見張り役(先輩係)を設けることで質問をダブルチェックすることができた。さらにシフト表をつくることでアドバイザーの動きを円滑にできた。新しい試みで大変な部分もあったが、1年目がアドバイザーと関わりをもてる機会とすることができた。

- ・エンディング

賞をつくり審査・表彰の時間を設けたことで、「学生団体総選挙」としてより本格的なものとなった。さらに表彰式があることで、参加者にも達成感が生まれるものにできた。

- ・フローチャート

昨年のフローチャートから、大幅な改変を行い、今回のゲームに対応させることで見やすいものとなった。また見方、採点方法を詳しくマニュアル化することで、ピアサポ向上委員会メンバーの記憶にも残りやすく運営のヘルプへの説明と採点がしやすいものとなった。

- ・説明

説明の際に投影したスライドとは別に参加者への配布用を作成したことにより、説明で重要だった点を載せ、ゲーム中でも見られるようにした。

- ・解説

スライド全グループ、相談カードの回答を読み上げさせたことで、自分たちのグループが正解なのか不正解なのか振り返ってもらえた。またスキルごとに解説したことで、伝えたい部分を簡潔にまとめ、無駄のない仕上がりになった。

最後に本研修を行うにあたり 4 回行ったリハーサルを通してである。

- ・リハーサル

リハーサルを行うことで、流れや動き方がつかめた。リハーサルを重ねることで多方向から改善していくことができた。初めは実際に通しで行うことで、課題や修正点を見つけられた。中盤ではヘルプやアドバイザーにも参加していただきより本番に近い形で行うことができた。参加者や協力者（ヘルプとアドバイザー）に対して、リハーサルや研修前にリマインドとしての連絡をしっかりと行うことができた。

- ・アンケート

図 1 を見るとゲームを「楽しめた」という意見が多かった。また図 2 を見ると解説に「納得した」という意見が多かった。図 3 を見るとメール全体については「楽しめた」、「ある程度楽しめた」という意見が多かった。図 4 を見るとメール（並べ替え）について「難しかった」、「ある程度簡単だった」という意見が多かった。図 5 を見ると相談カードについて「ある程度簡単だった」、「難しかった」という意見が多かった。図 6 を見ると先輩チャンスカードについて「楽しめた」、「ある程度楽しめた」という意見が多かった。図 7 を見ると来年度も研修を行った方がいいかについて全員が「はい」という意見だった。図 8 を見ると来年度研修の運営をしたいかについて「いいえ」という意見が多かった。またゲーム全体についてどのように感じましたかという記述式の質問に対し、「自分に足りないものを実感できた」や「楽しみながらいろいろな力が身についたと思う」といったスキルに関する意見や、「話したことがない人とうまくコミュニケーションをとるよい機会となりました」や「難しいと感じることが多かったけど、グループの人と協力してできて楽しかったです」といったグループ内のコミュニケーションに関する意見、「ゲーム感覚で楽しかったです！自分も来年運営してみたいと思います」や「とても楽しく学べました。正直ピアサ

が向上委員会の人がすごいなと思いました。こんな企画を来年やりたいなと思いました」といった来年へ向けた意気込みに関する意見があった。

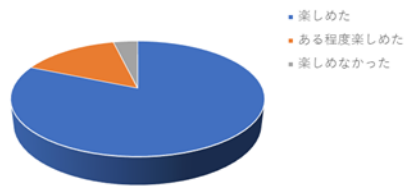


図1 今日のゲームは楽しめましたか？

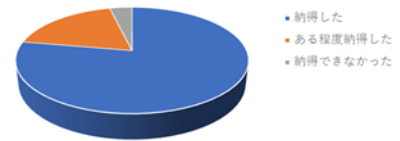


図2 ゲーム終了後の解説を聞いてどのように感じましたか？

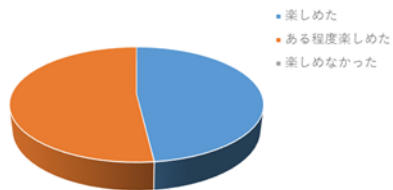


図3 メール（全体）はどう感じましたか

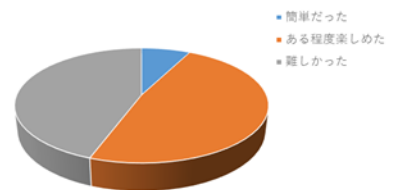


図4 メール（並べ替え）はどう感じましたか

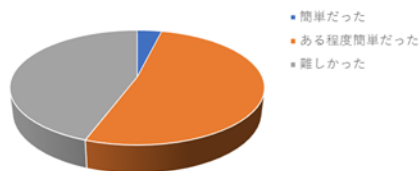


図5 相談カードについてどう感じましたか

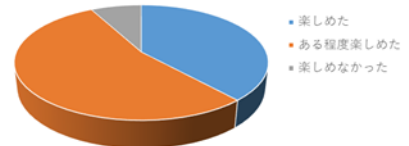


図6 先輩チャンスカードについてどう感じましたか

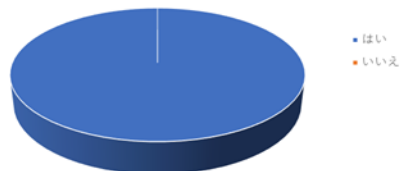


図7 来年度もこのような研修を行った方がよいと思いますか？

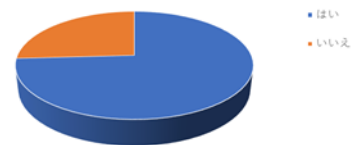


図8 来年度、研修の運営をしたいと思いますか

<h1>活動名</h1>		ピアサポ研修プログラム第2部		
開催日時	2018年11月10日（土）	キックオフ 会内	開催場所	B400, B405, B500
対 象 者	2018年度北星ピア・サポーター		参加人数	45人
目的	実践させることによってスキルの重要性を再認識させること			
概要	<p>スキルを実践させる場として、説明会準備の疑似体験をさせる場を設けた。その理由としては、ピアサポ向上委員会のメンバーは説明会準備の際に苦勞をした（「壁」にぶつかった）という経験から、自学科でその疑似体験を行い、実際に第1部で紹介したスキルが実際に必要であるということを体験してもらうことが重要だと考えたためである。実際に1年目には説明会の準備を一緒に行うメンバー（自学科の1年目同士）でそのスキルを活用する場を体験してもらった。</p> <p>説明会の疑似体験として、1年目が自学科についての情報をパワーポイントで作成し、プレゼンを行ってもらった。テーマは「新入生に向けてわかりやすく自学科を説明する」というテーマをもとに作業をしてもらった。作業の際、各学科の情報を書いたレジュメ（以下学科情報）と履修ガイドを使用して、学科情報の空欄を履修ガイドで探して埋めるという形式をとった。プレゼンの持ち時間は10分（発表時間7分、準備時間3分）とし、ランダムであたった2学科にプレゼンをしてもらった。</p> <p>1年目が具体的に体験したスキルは、タイムマネジメントスキル、リスクマネジメントスキル、共有力、調整力、PCスキルである。スライド作成・情報収集からプレゼントレーニング（以下プレトレ）までの時間でタイムマネジメントスキルを体験してもらった。スライド作成・情報収集の時間の中で自学科のメンバーと話す際や収集した情報を共有する際に、共有力・調整力を体験してもらった。また、今回はパソコンを使っの作業であったため、PCスキルも体験してもらうことができた。リスクマネジメントスキルのみ、第2部の中で体験することができなかった。</p> <p>さらに、2年目にはサポート力の向上を目的として、1年目へのプレトレを行ってもらった。ここでいうサポート力とは、1年目各人の能力を見極め、それに応じたサポートを行うことを指す。サポート力は今後2年目として、後輩である1年目を成長させるような支援を行うために必要不可欠なスキルであると考えたため、プレトレを行ってもらった。プレトレで学ぶ内容は、スライドのデザイン、話の構成、発表姿勢、相手に合わせた情報の伝え方の4つである。また、プレトレと同時に2年目にはサポート力アップ研修も行った。サポート力アップ研修で共有力と調整力について再認識してもらった後、1年目に対して実際にプレトレをおこなってもらった。</p> <p>アドバイザーには、アドバイザーのみで2年目に対しての資料を作成してもらった。今後のピアサポ活動での注意事項をワードで作成してもらった。作成後、ラーニング・コモンズにて印刷し、2年目のみに配布した。</p>			

当日の流れについては次のページにある表を参照していただきたい。

時間	所要時間	1 年目の動き	2 年目の動き	アドバイザーの動き	ピアサポ向上委員会の動き
13：00～	10 分	説明を聞く			説明（C）
13：10～	60 分	スライド作成・情報共有 @B500	プレトレ研修を受ける @B400	資料作成@B405	2 年目に対しプレトレ研修（G） @B400 見回り（D・A） @B500
14：10～	5 分	2 年目に対してプレゼン発表	実際にプレトレを行う		2 年目と同様に実際にプレトレ実施
14：15～	45 分	プレゼン修正 ※1			
15：00～	20 分 (1 学科 10 分)	プレゼン発表			司会（C）
15：20～	10 分	解説			解説（G）

※1 プレゼン修正

1年目が2年目からプレトレを受けつつ、一緒に修正を行う。その際、1年目が基本的に作業を行うこととする。2年目はパソコンによる作業は行わず、アドバイスのみを行う。

・学科情報

運営が提示したレジュメをもとに2年目が自学科の特徴をまとめたもの。学科情報の内容は、学科説明、男女比、単位、スクリーニング・積上指定科目、資格、独自のもの、主な就職先、自学科のアピールポイントの8つについてだ。

1年目には1人1部、原版を改変した資料を配布した。(別紙参照) 2年目には原版(1部)を配布した。(別紙参照)

準備日程

2018年09月25日(火)	MTG
2018年09月27日(木)	MTG
2018年10月02日(火)	MTG(三役を含む)
2018年10月15日(月)	MTG
2018年10月16日(火)	MTG
2018年10月19日(金)	MTG
2018年10月22日(月)	MTG 学習サポートデスクデスク職員に企画書提出
2018年10月31日(水)	学習サポートデスクデスク職員に企画書提出
2018年11月06日(火)	MTG

	2018 年 11 月 08 日 (木)	リハーサル スライドで第 1 部おさらい (定例会)
	2018 年 11 月 09 日 (金)	MTG : 印刷等準備、最終確認 学科情報・スライド・配布資料、学習サポートデスクデスク職員に提出
	2018 年 11 月 10 日 (土)	本番
	2018 年 11 月 13 日 (火)	第 1 部・第 2 部反省会
	2018 年 11 月 15 日 (木)	MTG
	2018 年 11 月 20 日 (火)	MTG
	2018 年 11 月 22 日 (木)	報告書完成、提出
反 省 点	<p><悪かった点> 全体を通して</p> <p>第 2 部を通して上がった悪い点としては主に 3 つである。</p> <p>1 つ目はタスク管理をしていなかったことだ。あとどのくらいの仕事が残っていて、何を優先的に決めるかというのは、一番初めにやるべきことだったが、それができていなかったため準備が遅れた。よって、学習サポートデスク助手の助言をいただきながら何をいつまでにやってくるか、役割分担などを細かく決めた。このタスク管理の役割は第 1 部で学習サポートデスク助手が担ってくれていたため、各自がどのようにして進めたらよいのか理解していなかった。またこの作業を怠っていたため、役割分担をするのが遅く、準備が遅れ、十分なリハーサルがないまま本番を迎えることになってしまった。さらに企画書を学習サポートデスクデスク職員に提出するということを考えていなかったため、気づいてから企画書作成に取りかかったので作成に時間がかかり、スライド作成なども遅れた。</p> <p>2 つ目はリハーサル不足だ。タスク管理が上手くいかないことで準備が遅れ、リハーサルを 1 回しか行えなかった。また、リハーサルではスライドのサイズの確認、説明・解説の練習などしかできず、当日の細かい動きを確認することはできなかった。そのため、当日どのタイミングで誰がどの動きになるのか、その場の判断で決めてしまい、最後まで慌ただしくなってしまう。</p> <p>3 つ目は細かい点を決めていなかったことである。特に 1 年目に作成してもらったスライドは回収するのか、回収するのであれば回収後配布するのか、アドバイザーが作成する資料は Word と PowerPoint のどちらで作成していただくのかの 3 点を決めていなかった。そのため、結局 1 年目に作成してもらったスライドは回収して後日全学科に配布する、アドバイザーに Word で資料を作成していただくということを当日、判断で決めてしまった。</p> <p>第 2 部は学習サポートデスク助手の手助けなしに、自分たちで頑張ろうという目標だったが、結局、学習サポートデスク助手に頼ってしまう部分が多かった。また、地震の影響で第 2 部の本番の 1 週間前に第 1 部の本番があったことや、準備に参加できる人数が 5 人であったことなどにより、常に時間に追われるなかでの作業になった。そのため、資料等の作成に期限を設けておいたのにも関わらず、期日までに終わらないということが多々あった。タイムマネジメントの大切さが顕著になった第 2 部だった。</p>	

・説明

説明を行っている途中で使用するデータを間違えたことに気づき、正しいデータにかえたので、途中で説明が止まってしまった。説明が止まってしまっていた間、慌てることなく、場をつなぐことができた。

・グループワーク

・1年目

学科の引き継ぎの度合いによってスライドの理解が違った。また、新入生がどの程度知っている想定なのか分からないから作り方に戸惑ったという指摘が1年目から出た。

・2年目

2年目に対するプレトレ説明のあと、プレトレの流れが分からないという質問が多く出た。

・アドバイザー

2年目への引継ぎ資料を Word と PowerPoint どちらで作成していただくのか当日に決めることになってしまった。また、2年目がプレトレをしている最中のアドバイザーの役割が明確化されていなかった。

・発表

発表してもらった学科のスライドの回収にもたついてしまった。

・解説

レーザーポインタが効かないなどのアクシデントがあり、練習通りの発表ができなかったところがあった。

<良かった点>

全体を通して

当初の予定していた時間より短くなったが、その中で最善を尽くす改変をできた。またピアサポ向上委員会メンバー全員は揃えなかったが運営することができた。

・説明

導入部分を当日2日前の定例会内にて行うことで時間短縮となり、参加者側もスムーズに作業に入ることができた。

・グループワーク

・1年目

自学科同士で行うことで、みんな和気あいあいとしていてよかった。

・2年目

先輩後輩の交流を図れた。また2年目自身のスキルアップにもなった。

・アドバイザー

先輩として後輩たちに伝えたい、のこしたい思いを資料として形にしてみることができた。

・発表

時間短縮のためランダムで選ばれた2学科のみとなってしまったが、一方で選ばれるかどうかというところに少しゲーム性を見いだせた。

・解説

スライドが見やすく分かりやすいものとなり、キックオフとしてもふさわしいものになった。

・アンケート

このアンケートは図9、図10が1年目に対して、図11、図12が2年目に対して行ったものである。図9を見ると、学科説明会のイメージができたかについて全員が「できた」という意見だった。また図10を見ると研修第1部で学んだスキルを十分に発揮できたかについて「どちらともいえない」という意見が多かった。図11を見るとあなたのプレトレが適切だったかについて「どちらともいえない」という意見が多かった。図12を見ると昨年の反省を生かしたアドバイスができたかについて「できた」、「どちらともいえない」という意見が多かった。また、このアンケートでは1年目、2年目、アドバイザーのそれぞれに研修に参加して思ったことについて記述式の質問を行った。まず1年目からは「タイムマネジメントスキルというのがいかに大切か分かった」や「研修に参加してみて自分自身様々なスキルが欠けていることが分かった。今回の研修で習ったことを今後の活動に生かせるように頑張っていきたい」といったスキルに関する意見や、「学科説明会は今までどんなものか、どうやって準備するのかイメージがつかなかったけど研修を通して、どうやって準備したらいいかわかりました」や「説明会、説明会までのイメージやスケジューリングができたことは非常に有益であったと強く感じます」、「4月の説明会前に足りない部分を明らかにすることができてよかった」といった学科説明会準備へのイメージづくりに関する意見があったが、「作業時間が大半を占めて、発表の時間があまりできなかった」というような研修の形式に対する意見もあった。次に2年目からは「2年目の自分自身がアドバイスするうえで大切なことを確認できた」や「2年目としてアドバイスするのは難しいけど、参考にしてアドバイスをできるようになればいいなと思いました」といったアドバイスの注意点に関する意見が多かった。また「1年目の3人が協力し合っていてすごく頼もしかったし、活発に意見を言い合っていたので、今後もこの調子で頑張ってもらいたい」といった1年目に関する意見もあった。最後にアドバイザーからは「今の2年目に対し、これまでの活動をアドバイザーの立場から客観的に見て、伝える機会をもらえてよかったと思います」といった2年目に対しての対応に関する意見や、「チェックリストなど作り、何からやるべきかイメージさせてあげないと、1年目もなかなか作業に取り掛かれないと思った」といった1年目に対しての今後の対応に関する意見、また「私たちアドバイザーの活動が皆様の助けや今後の活動の参考になれば幸いです」といった2年目、1年目に対する意見があ

った。

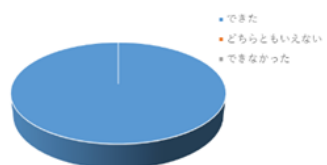


図9 学科説明会のイメージができましたか？

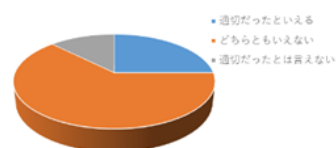


図11 あなたのプレトレは適切でしたか？

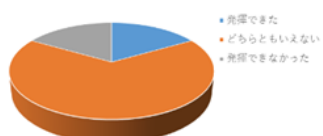


図10 第1部で学んだスキルを十分に
発揮できましたか？

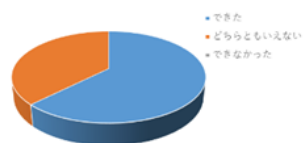


図12 昨年の反省を生かしたアドバイスが
できましたか？